

關西建築協會雜誌

大正六年十一月十五日

第一輯第二号

關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ入會、脫會、經歷アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記載ス

會員タラントスル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ決決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ賛成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ興味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記載ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會ノ之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ決決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ決決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ決決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル規則ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ會過及第十九條ニ抵キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ抵キ會誌ノ配布其他各種ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決決ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一　名

二　主　計　一　名

三　編輯　三　名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編輯ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編輯ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長當該委員ノ互選ス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ嘱託委員トナスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ證告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ建決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　理想的建築ノ計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ擔出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



營業要目

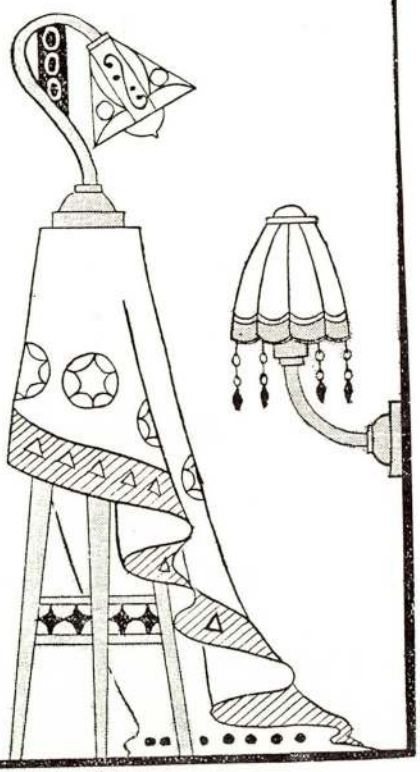
電氣部

電燈取付、電線路建設
電燈裝飾器具
電氣諸機械器具材料
電話、電鈴、避雷針

機械部

エレヴエーター（昇降器）
架空索道、諸機械器具
エンドレス運搬軌道
門柵、建築用諸金具

製造輸入販賣
工事請負
測量・製圖・圖案
設計　監督



A&K

合資會社

秋山小林商店

本店　東京市京橋區三十間堀一ノ三
電話京橋區一四七三番

工場　東京市芝區愛宕下町二丁目
東京市芝區櫻田備前町

出張所　大阪市東區今橋五丁目
電話本局貳二五九〇番
臺北府匯口庄四四八
電話九五二番

關西建築協會雜誌　第壹輯第貳號

目次

口繪
新しき三越大阪支店（三色版）
大正五年度出火場分布圖
世界最高の建築、紐育市ウールオース館
藤田組本店、大阪府立物産陳列所
大阪築港潮湯、大阪築港博覽會建物
十月一日東京市内に於ける颶風被害の慘狀
淀川北岸大洪水の實況

災害防備之急要……會員：片岡安……一
議院建築問題……會員：片岡安……二
天下の秋……會員：甲南生……八
神殿建築と高天原……（承前）……會員：波江悌夫……一四
建築の經濟觀……會員：片岡安……一九
住宅建築の改造……會員：本野精吾……二六
名士の住宅觀……廣岡惠三、村山龍平、小林一三、木下東作、池田經三郎氏談……三四
家相問答……（承前）……會員：葛野莊一郎……四三

都市と建築……四九
日の丸都市、大都市の雜踏より生ずる損害、建築條令の制定、
建築物の高さと街路の幅員、都市計劃雜話
淀川の洪水と河村瑞賢……會員：野人生……六〇
水の行衛……會員：大蘆生……六三
石と日本人……會員：須藤眞金……六八
パルテノン哀話……建築史ローマンス……八三
風と水……九四
火災保險率協定案と倉庫建築……
天滿青物市場災害調査報告書……第四部委員會……九八
各部委員會記事……一一〇
故會員松田亥作君……
會報……一二九

附錄

危險物品取締規則……大阪府令……

賀須商會

大阪市東區今橋四丁目　電話本局三一八五二三
振替大阪一三九六七

營業課目

◆水道
◆衛生
◆暖房
◆諸機械
◆溫水工事
◆設計負
◆請監督鑑定
同附屬器具製造及ビ直輸入販賣並ニ喞筒製作

三井物産鉛管及アルミニユム管一手販賣
ユニバーサルウイング喞筒一手販賣

支店

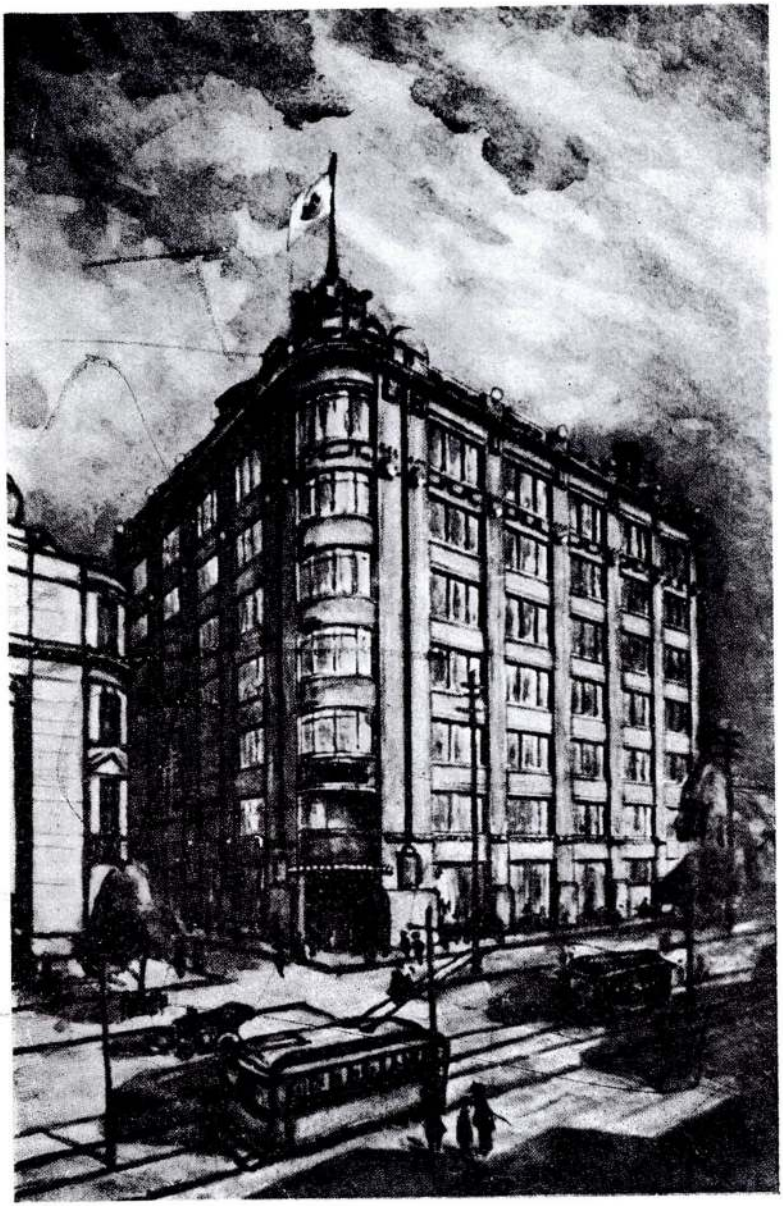
東京支店
東京市日本橋區本銀町二
電話長本局三七〇四

神戸支店
神戸市北長狹通二丁目
電話長三宮一一〇二

名古屋支店
名古屋市西柳町
電話長三三八四

京都支店
京都市烏丸二條
電話上一九六九

博多支店
福岡市博多上吳服町
電話長一二七九



新しき三越大阪支店

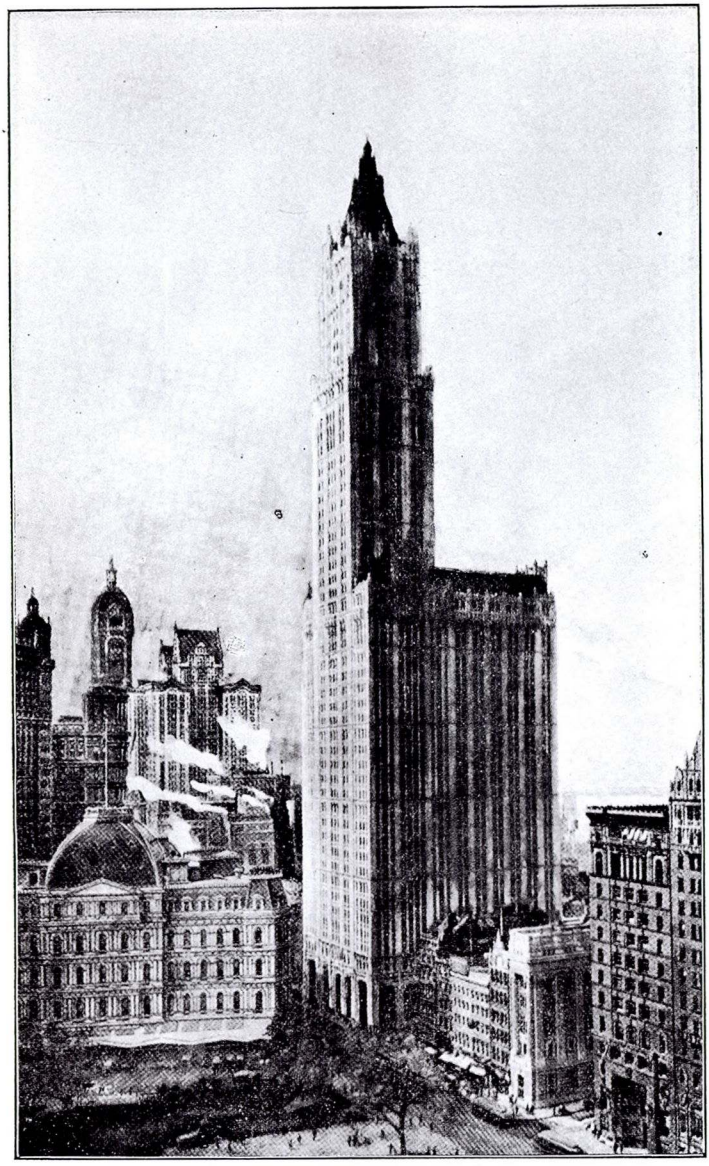
戰慄すべき記錄

第四部委員會提出

都市の大火の恐怖すべき災厄なることは呶々を要せず、しかも稀有の大火が屢々些々たる小火に歸因することせば日常頻々たる出火は幸に大事に到らずして市民の記憶に殘らざるも豈輕々に觀過すべけんや、一朝不慮の烈風の襲來するあらば此等の小火は忽ちにして煽大せられ不用意なる都市は瞬時にして灰燼に歸す、今大阪市に於ける大正五年度の出火場分布を檢するに殆んど全市に亘りて散在せるの狀、星辰も啻ならざるなり、可燃性建物の揃比せる大阪市にこりては戰慄すべき記錄たるを失はず、茲に一般識者の參考に資することゝ豈徒爾ならんや

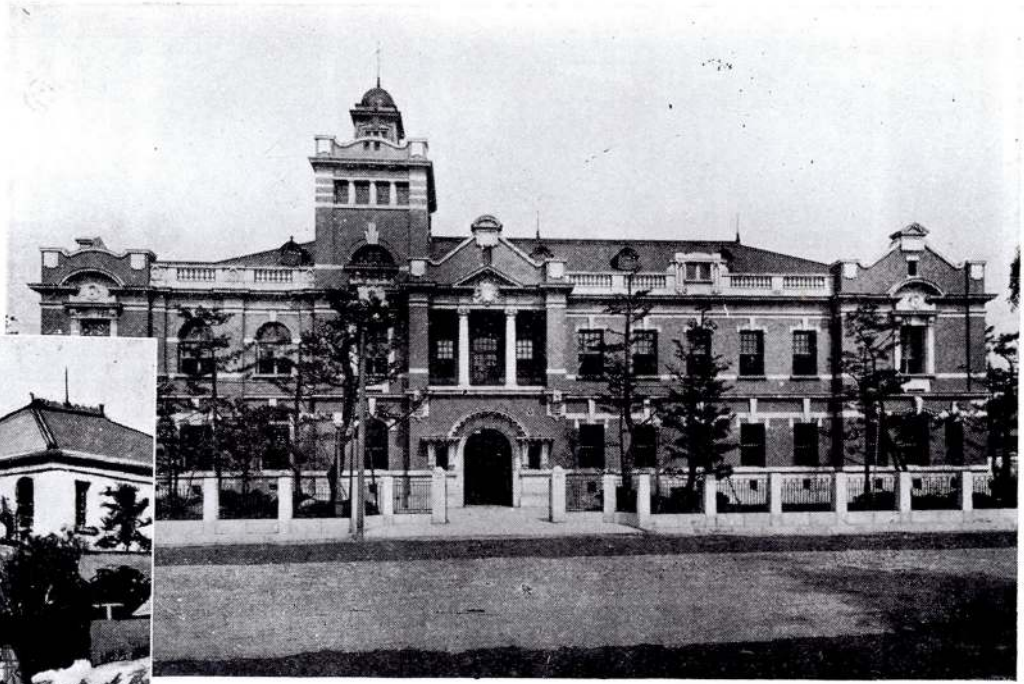
大正五年度出火場分布圖





世界最高の建築、紐育市ウールウオース館

地下百尺地上八百尺の高さを有し事務所建築として最善の設備を具ふ、一九一三年末竣工

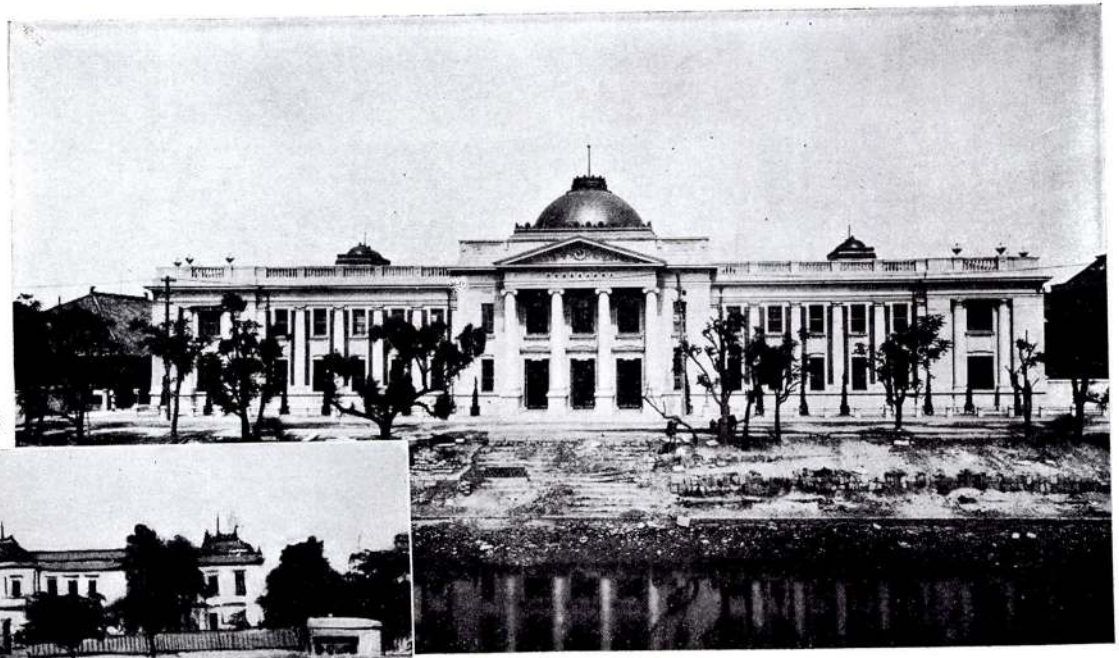


藤田組本店

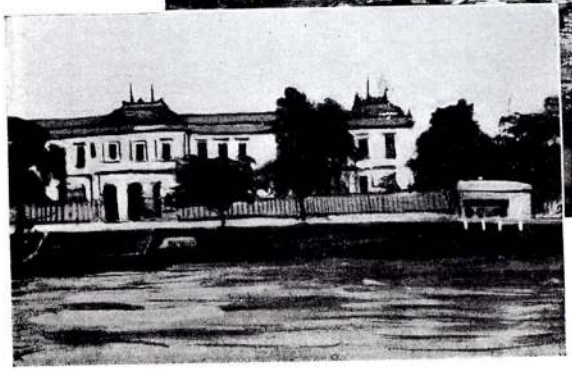
大阪北區堂島濱通



燒失前の舊建物



大阪府立物産陳列所



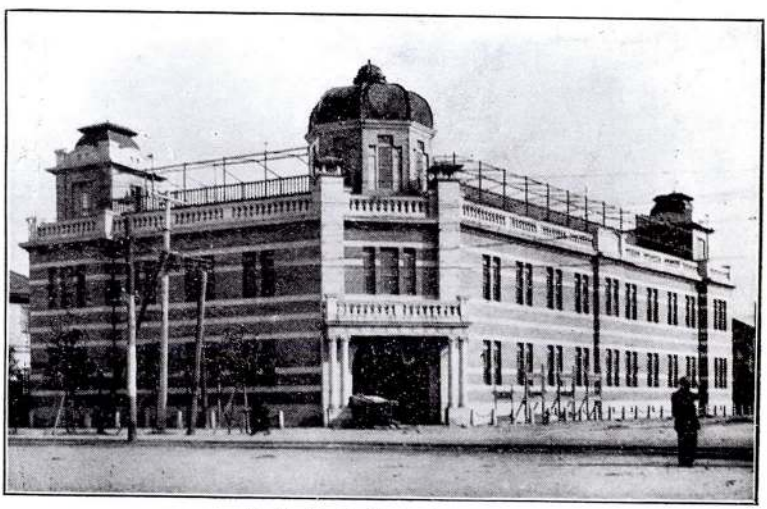
焼失前の舊舘

大阪東區東橫堀

低級なる都市建築の二

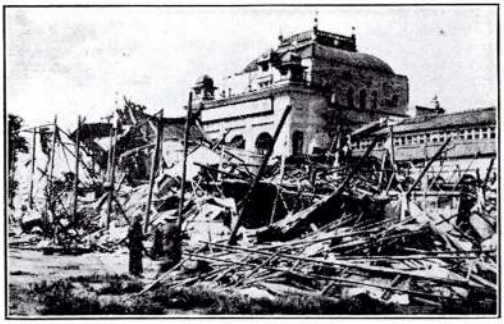


大阪築港潮湯

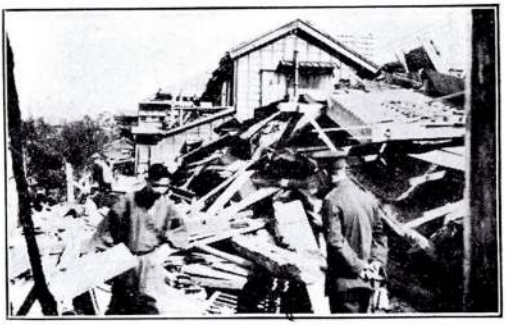


大阪築港博覧會建物

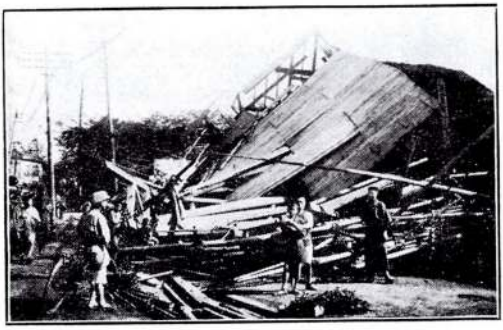
十月一日東京市内に於ける颶風被害の慘狀



上野化學工業博覽會建物の倒壞



牛込矢來町附近家屋倒壞

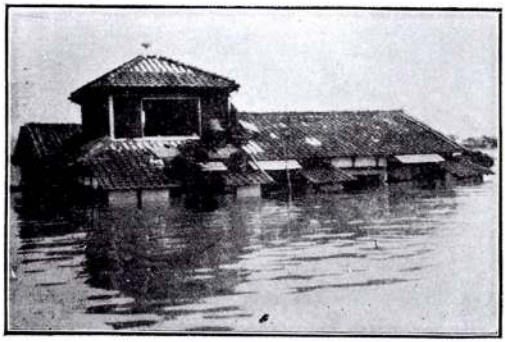


小石川幼稚園附近の慘狀

淀川北岸大洪水の實況



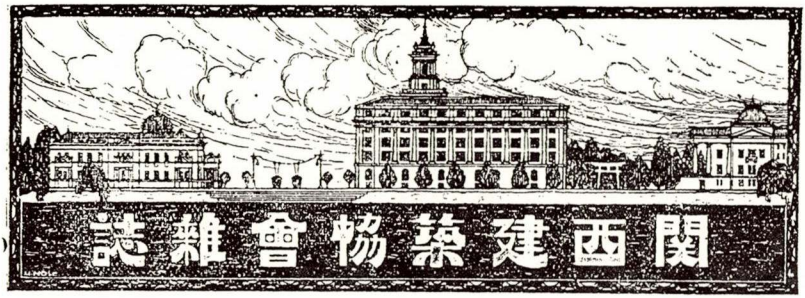
高槻工兵第四大隊の浸水



十三附近の浸水



臨時郵便局船の派出



災害防備之急要

近時、天災地變の人事の複雜なると與に增々繁からんとするは、果して如何なる理由なる乎、之を全く刈除し得ざるまでも、平時に於て其準備を嚴へ置けば少くとも其災禍の大半は免れ得べきものにあらざるなき乎。古代、科學的智識の幼稚なりし時期に於ては、其根本的解決の途なかりしも、現時の科學は、自然原則の解剖に由りて漸く其性質を追窮するを得。隨つて天變地異に對する準備を講ずること必しも不可能にはあらず、寧ろ、合理的の防備を以てもの災禍の臻し來るを理解し得るに至れり。然るに、唯目前の些事に齷齪して天地自然の大數を稽へず、人智の可能なる範圍に於て、畢竟文明的施設の足らざるを立證し、中古の蠻風未だ改善せられざる倒壞洪潮は、水に堤防の決壞するは現代科學の恥辱にして、建物の倒壞



議院建築問題

會員　片岡安

我國の議院建築問題は、寔に久しき間の懸案であつた先年桂内閣のときに一度事實となつて現れ餘程進捗したけれども、終に、豫算案と成つて議事日程には上らなかつた。其原因は勿論色々とあつたのであらうが、吾々の傳聞した處に據れば、原案作成者の考へと、學會を中心とせる人達の考へとの間に大なる溝があつた爲建築技術家同志の大抗爭と成り、鎬を削つて之が黑白を輿論に愬へた見苦しき態度の暴露されてより、廟議は竟に之が提出を見合せたように記臆する。其當時は、我國の財政狀態が假令積極主義なりしにもせよ、輸入超過に次ぐに超過を以てし、或る程度までは國力發展の前途を危ましめるような時代であつたにも拘はらず、政府當局者の原案が壹千六百萬圓餘の規模のものを、輿論は大体是認してゐたように觀察された、素より、之を豫算に計上して議場に計つたのでないから、愈々となつたら什ういふ風に批難されたかは判らぬとしても、吾々の其當時耳にした處では、廟議も國會議員の大部分も大した異存は無かつたのである。

然るに驚くべきかな、這回突如として發表され議院建築調査會に提出されし原案の工事費は、實に七百五拾萬圓として傳へらるゝのである。吾人は之を直接に當局者より聞取つたのでないから其眞僞は保證出來ないけれども屢次、新聞紙上半官報的に記載されて一回も取消の出ない處を見ると、斯の工事費は今回の原案の骨子と見て差支なきものと認めらる。六七年前に壹千六百萬圓の工事費を要する原案が、今回の物價騰貴の時代に七百五拾萬

圓を以て遂行出來るこは、奈何なる人も想像出來ない處である。のみならず、我國運の發展顯著なるものあるを思ひ合すも、何こなしに其間に恐るべき不合理を發見せざるを得ないのである。

之を辯解する者は『先年の原案に第一案こして壹千六百萬圓を計上し、更に第二第三の案こして壹千萬圓及六百萬圓程度の工事費を提出する順序であつたから、這回の原案は多分其當時の第三案たる六百萬圓案を骨子こして立案したものに、係るか或は、其程度に於て立案したものならん。故に、先年の計畫に比して何等甚だしき變更あるものにあらず』こ云ふてゐる。

して見るこ、我國今回の狀態は先年廟議に於て又輿論に於て當然なりこ認められた壹千六百萬圓案を實施し得ざる程に財政窮乏の時代なるや否やの問題を誰が決定したかを質さゞるを得ない。まさか當局の建築技術家に於て斯る國家の財政問題を獨斷に決定せるものこも惟へない。斯の點は、吾人の最も不可思議に感ずる處で、今日の立憲國に於て有り得べからざる專橫の態度こ思ふのである。當局の技術家眠れるか、事務官誤れるか何れにしても、輿論を背景こせざる斯くの如き立案は、折角發達し來れる我邦の嶷々たる國運を阻止せざるなきかを憂ふるのである。

又、辯解する者は『近時經濟活動の劇しき時代こ成りては議事堂建築を國民的記念こして力瘤を入れるこは既に遲れたる考へにして、今後の議院建築なるものは、宜しく斯の時代精神に則り、實質上便益の大なるものを撰ぶべし、左すれば、這回の七百五拾萬圓案は、以て十分に其目的を達し得るものこ思はる云々』こ。之等は、敢て之を批評するの價値無き愚論なれごも、一應其蒙を啓き置くここも敢て無駄な業でもあるまい。抑も、我邦の明治中興を記念すべきものは、何れの方面に於ても之を見出し得るなれごも、我建築界に於ては、政体を一變したる斯の空前絕後の照鑑を最も具体的に後世に胎すには什うしても議院建築を唯一のものこせねばならぬ。各省の公廳等は、或は實質こ便益を中心こして計畫し得るものこ看做されないこともないがそれでも公衆を統轄する行政府たる以上は、可成り其外觀に重きを置くの要がある。況して、明治時代を偲ぶべき唯一の記念物こして後世數百年に亘り國民を倚らしむるような建物に於ては之を一個の實用上の便益を中心こするものこ同一平面に取扱ひ得ざるや明である。

上述の如く、這回我國唯一の永久記念館たる議院建築

を計畫するに際し、之を唯一個の普通公館として取扱はむとする如き原案者の態度は、吾人建築家としては甚だ不滿足に感ずるのである。又、國家の進運に對して相當の考慮を煩すときは、奈何なる人も斯る態度に敬意を拂ふ者はあるまいと思はれる。吾人は、議院建築を機會として、建築に隨從する處の凡ゆる美術工藝を最も極端に奬勵發達せしめんとする裝飾萬能論を信ずる者ではない併し乍ら、或程度までは我國現代の美術工藝の粹を蒐め明治時代が開發し來りし凡ゆる藝術が斯の記念物の中に包含さるゝことは、明治時代を後世に記念すると云ふ意味に於て、現時の國民が來るべき子孫に對する當然の義務であると惟ふ。

或は、辯解して『七百五拾萬圓は最初に於ける便宜上の提案ならん、何れ壹千萬圓を越へ或は貳千萬圓にも達するの時期あるであらう』と。夫れ或は然らむ、然れども、斯る權道を以て議員の手前を繕ふことは、今回何の爲に必要であるか、此頃の軍艦一隻の建造費は參千萬圓を越ゆるのである。未來永久の我國民記念建築に一隻の軍艦建造費にも足らざる貳千萬圓の原案を提出するに誰れに憚る處あるや、殆んど問題とするの價値無き遠慮と云はねばならぬ。

問題は少しく枝葉に亘るの嫌あれども、這回の議院建築原案は、之を十箇年繼續費として計上さるゝよう傳へらるゝが、若し果して事實なりとすれば、幷は餘りに呑ん氣なる計畫であつて、從來數次傳へられたる豫算分取の弊を告白するものとも解釋される。若し工事の期間がそれだけを要するものと思ふならば、是れ大なる誤である。多くとも五六年以內に之を竣工せしむるの至當なるを主張すべきにはあらざるか。若し、十箇年後に出來上つて宜しきものとすれば、今後三四年を經て着手するを經濟の理法とせねばならぬ。何れにしても不徹底なること夥しい。

這回の議院建築設計案は、大体に於て、一般國民に懸賞して應募せしめらるゝ如く傳へらる。併し乍ら、賞を懸けて應募せしむる以上、我國民としては、現代に夫れ以上良好なる設計を造り得ないといふことを理想とせねばならぬ。故に、其目的を達するには、設計募集の方法を最も深く慮り、決して遺漏があつてはならぬ。抑も懸賞募集に藉りて現代の最良設計案を得んとするは、一見甚だ輕易なる方法の如くにして、其實は却々六ヶ敷事である。第一、賞金を得んが爲に努力したり、自己の能力を社會に知らしめんが爲に應募する者は、主として、經驗

なき少壯技術家に多く老練なる建築師には之を望むことは出來ない故に、奈何に賞金を多く積むとも、其募集の方法が唯單に良好の圖案を參考の爲に蒐集さるといふならば、全く少壯技術家の爲に一大練習演技を爲すに止るや明である。少壯技術家の中に有爲なる天才を發見して其隱れたる手腕を揮はしむることは、吾人の最も歡迎する處にして、懸賞募集の妙味は全く其點に在るものと云はねばならぬ。併し乍ら、唯其圖案を募集して其甲乙を品評するに止り、現實に其案を實施することを約束せざる懸賞募集は、全く緊張力を缺きたる競技であるから、其圖案は自ら學校の教場に於ける設計練習の場合と少しも異らずして、其結果は、現代の最良設計案を得るといふ理想には甚だしき距離を有するものと言はねばならぬ。

歐米各國にては、夙に懸賞に藉りて設計案を募集し、大体に於て良好なる成績を擧げつゝあれども、其方法たるや當選せる圖案は、其儘或は多少の訂正を加へて、其當選者に計畫全部を一任するを原則とする。故に、賞金の如きは唯ほんのメダルに過ぎない。又、當選者が自己の全能力を傾注して設計案を作成する所以は、斯る名建築の主任技術家として立つを理想とするからである。之を一言にして竭くせば、歐米の建築界にては、主任技術家を得むが爲に設計案の懸賞募集を爲すようなものである。大建築の設計を懸賞して募集せんとする眞意は、全く其一點に存するといふも過言ではない、唯裝飾品の圖案の如きは圖案其ものを得るを以て終局とすれども、大建築の計畫に方り唯參考圖案を賞金にて購入するが如き態度は、何處にも見出すことは出來ない。

我國にては、建築界の宿論として、著名なる公館の設計を懸賞に藉りて募集せんことを唱へ、明治四十年臺灣總督府廳舍の設計案を懸賞に藉りて募集したるを初として漸次其機運を開きたるは、我建築界の一大進歩と稱することも出來る。併し乍ら、其方法たるや、上述の如く主任技術家を決定せんとする懸賞本來の方針と一致せざるものゝみなりしは、蓋し、從來は我國の建築界の幼稚なるが爲と見るを至當とする。唯、東京倶樂部の設計案募集は、主任技術家を撰定せんとしたる方法にして、斯界に最も練達のコンドル氏の當選されて其實施に膺りしは纔に一箇の實例として存するのみである。

茲に於て問題は餘程限らるゝのである。若し主任技術家を得んとするならば、奈何なる條件を以て設計案を募集せんとするかゞ第一、若し又我邦の幼稚なる建築界にては、到底懸賞募集にて之を得る能はずとせば、何の爲

に設計案を募集せんとするかゞ第二の問題となる。

其第一の問題に對しては、歐米にても近時其經驗に仍り餘程深刻なる方法を採つてゐる。卽ち、練達の建築士數名を特に指命して募集に應ぜしめ、一般の競技者と競を並べて圖案を提出せしめるのである。最近には倫敦の州廳舍の新築に、斯の方法を以て設計案を募集し、其結果は、一般競技者より入選したるラルフ、ノット氏の案は採用され、同氏は其案に多少の改訂を加へて計畫を全部負擔したのである。併し乍ら、是を以て指名應募者の恥辱と看做したり或は指名者を容るゝことの無駄なるを嗤ふ者あらば、之れ全く非常な誤解である。英國の如き少壯有爲なる技術家の最も多數な處に於ても、重大なる公館の設計案を募集するには、練達の建築士の指名者を混合して、其競技の誠意を告白するを最も策の得たるものと做すのである。彼の有名なる世界平和宮殿の設計案募集の際には、各國より指名建築師を出し、其設計案の中より當選者を決定したのである。

併し乍ら、吾人は、一般競技を必ずしも咀ふ者ではない。唯、練達の建築士にして、個人的事情に由り之に應募せざる者多き場合に、其懸賞募集の事實的失敗を奈何にせんとするやを憂ふるのである。勿論一回を以て之を終了せしむるの要なく、一回に失敗せば更に第二回を施行するならば差支なき道理なれども第二回又亦失敗に終らぬとも限れない。之には失敗すべき分子を多少含みゐるから、什うしても其場合を想像し置かねばならぬのである。更に一歩を讓り、一般競技に附するとしても、其當選者を主任技術家とせざるが如き懸賞募集ならば、其競技は益々緊張力を喪ひ、到底全幅の能力を傾注したる設計案を得ること能はざるや勿論である。

第二の問題たる唯參考資料として設計案を募集することは、奈何にも滑稽である。何となれば、唯建築製圖の一進歩を圖らむが爲ならば、いざ知らず、眞實に施行すべき設計案を得むとするならば、眞劍勝負の競技に據らざれば、懸賞募集の眞意を喪ふからである。

從來、我國にて五六回行はれたる公館の設計案懸賞募集に於ては、成る程、實地に施行し得ざるもの、多かりしは事實であつた。故に、這回の議院建築に於ても、大藏省當局にて數年間練りに練つた平面圖の如きは、到底一般競技者より夫れ以上の優等のものを得ることは出來ないかも知れぬ。平面圖に於て大なる缺陷ある歟事實執務上不便あるものならば、其外觀に於て多少優れるものも、實際に於ては採るに足らぬといふ結論になるのであ

る。斯の意味に於て、吾人は、懸賞に藉りて得たる案の値價を疑ふ者の一人である。從來の如く一片の紙面に記入されたる室の面積を以て其平面圖を構成せんとする設計者の態度にも缺點があると同時に、問題提供者及審査員の審査方法にも滿足出來ない點が多いのを認めざるを得ない。

要するに、這回の議院建築設計案を懸賞にて募集せんとするならば、主任技術家を得むとする態度を以て之を決行すべきである。唯參考資料とせん底意にて之を募集するならば、寧ろ、懸賞を廢止して、斷然政府當局の組織せる技術局にて之を設計するに如かぬのである。唯、多少の參考を得るだけの利益の爲に賞金を懸けて圖案募集を爲すが如きは、國家の公器を擅にすると同時に、懸賞募集法の尙早意見を持しながら之を露骨に發表するの勇無く、婉曲に之を擁護せんとするのではないかと想はれる。それならば、寧ろ、先年妻木博士の露骨なる態度は、之を賞讃するに價値あるものと謂はねばならぬ。

我建築學會は、先年、故妻木博士の懸賞尙早論に對して猛烈に反對し、之を以て我國の有爲なる建築界に向つての侮辱である如く看做したのである。其當時、我建築界一般人士の意見は大藏省內於ける當局者の設計案を承認するを潔とせず、什うしても、懸賞に藉りて現代の最高位最善の設計案を得て、其案を實施せねばならぬといふことに一致したのは、甚だ見上げた見識であつた。然るに、這回の議院建築案が半官報的に發表されて以來既に三箇月に垂むとすれども、我建築學會の役員の態度一般會員の態度も、冷靜か不眞面目か孰れとも判らぬのは甚だしく我邦築建界の權威を損ずるものである。

余輩は、先年、故妻木博士が懸賞尙早寧ろ懸賞不必要を唱へ學會の一般人士が懸賞萬能論を固執したのに對して、非常に興味を以て之を傍觀したのである。之れ、其當時、我邦にては懸賞募集の經驗無く、果して、歐米の建築界にて成功しつゝある如き結果に應じ得るや否やを疑ふ點に於ては、故妻木博士の意見を尊重せざるを得ざるのと、又他面に、國民的記念建築を起すに際しては、國民中より最高最善程度の設計案を募集して、其案を實施することが現代國民の大なる義務であると惟ふ點に於て、學會の一般人士が唱へたると其感を等ふせざるを得ざりし關係上、斯る甲乙の反對意見に對し其贊否を明瞭に決する譯にはゆかなかつたのである。併し乍ら、今回は奈何であるが、其後、公館設計案の懸賞募集は色々と繰り返されて、其大勢を識ることが出來たのである。余

輩の見る處では、我邦の建築界は這回の議院建築設計に對して、懸賞にて募集し得る程度に達したものゝ思惟するのであるが、其募集の方法ゝ審査の方法ゝは其成績の良否を左右するものである故に、最も愼重に之を考究して、我建築界の最大緊張力を發揮せしむることを理想ゝせねばならぬ。若し、政府當局に於て、申譯的に懸賞募集を爲すが如き不眞面目なる態度を採り、其條件に於て不徹底のものあるならば、我建築界の健全なる分子は、大々的に抗議を申込みて其反省を促すの義務がある。斯の意味に於て、懸賞の條件は決して輕々に之を見逃してはならぬのである。余輩は、其條件の詳細を此處に列擧することの餘りに立ち入り過ぎるを感じ之を回避するけれごも、其根本問題たる懸賞の方針は何時までも其精神に悖らざらんことを主張するものである。

天下の秋

會員　甲南生

K君！　仲秋の名月は不時の暴風雨に掩はれて見る事を得ませなんだ、君は益々健在の事ゝ思ひます、今や秋氣清く馬肥ゆるの時でありながら兎角時候不順であつて明日の雲行も穩でありませんから益御精養を願ふゝ同時に私は愈頑健罷在ますから安心して下さい。

K君！　其後は誠に御無沙汰をして居ました。凡夫の愚さは日々の勤務に追はれていつも〳〵多忙を名ゝして御無禮のみ繰り返して居ります。さる賢者の申された樣に『人間は忙しい程閑がある。閑のある人間程閑ゝいふものがない』ゝいふ言葉は今も耳に殘つて居りますが忙しい〳〵ゝいひながら澤山の閑を利用する事が出來ないで誠に申譯がないのであります。

K君！　先達而は丈に餘る御芳墨に接し御厚志忝なく拜見いたしました。殊に議院建築問題に關する御高見は最も敬意を表して再讀三讀いたしました。そして回顧七年の昔を偲んで當時の熱烈な建築界を想起しない譯には行かないと同時に追懷の情に堪へないのであります。

K君！　當時の議院建築問題は不幸にして國庫の都合上立消ゐの有樣となり我建築界の議論は多少感情に馳せて世の嘲笑を買ひたる樣な結果となりましたが今夏突如政府に於て調査委員會を組織し大藏省管下に置き議院建築の調査を再開せるは兎も角慶賀すべき事と思ひます。

K君！　實に現在の議院假建築が明治二十四年の再建に係り十有五年の保存年限を遠く逾りて修繕に次ぐに修繕を以てし、國運を堵せる再度の大戰役や之に伴ふ戰後經營の大議事を不便や不自由を忍んで審議し今や世界の大戰亂の大渦に卷き込まれつゝ尙盛夏には流汗淋漓嚴寒には膝擊戰慄しつゝ國家の選良はあの貧弱な建物の裡で辛棒して居るのです。

K君！　國家の選良とはいへ年々歲々猛烈な議場の喧騷は野卑となり一種の隋性を順致し熊公八公の野次馬と大差なき迄に議員の行動は下劣となつて來たと國民は憤慨して居ます。そして斯の如き國家の選良を收容する建物に宏大な費用を拋つのは無駄であるといふ議論がチラホラ見へるのは一面の理屈はある樣です。

K君！　乍然「食足りて禮節を知る」といふ格言のある通り貧弱な木造建築に國家の選良を容れるから斯の如き結果を產むのではないかと思ひます、莊嚴雄大な殿堂に參觀するときは赤毛布ならざるも人間の通性として誰しも袴を正すといふ事がありますから此等の選良を遇するに禮を以てしたならば自から彼等の節度を矯正する事が出來やうと思ます。

K君！　今日議院建築に關する研究は曾に專門家丈の問題でないと思ます之を國家の風敎に關するとしても立憲政体の何物たるかを示す爲にも國家を擧けて審議すべき重要な問題かと思ます、建築が出來上つてから議論しても初まらないのは輕薄な論士が演壇で憲政濟美を絕叫しても政黨が憲政擁護を宣言しても何等憲政に稗益する所はないと同樣です。

K君！　亦或論者は國家大事の際莫大な國費を拋つて華麗な建築を建てねばならぬ必要はないと主張してゐますこれも一理ある議論で金のない我國では一部の建築

家の夢想する様な建築を出現せしむるは確かに一種の贅澤であります。銀行會社が顧客を吸收する爲に競ふて新裝を追ふのは丁度多くの内容貧弱な書籍が表裝に無意義な意匠を凝らすのと同程度の流行で日本人の一種の奇僻であるかの様であります。

K君！　議院建築は贅澤な建築を要求しては居りません議院建築の最も重要な意義は實に明治時代の最も光輝ある立憲政治の表現にあります。畏くも明治天皇の御指導し給ひし新日本の國民が先帝陛下の御仁恵を永遠に記念すべき大切なる意義を出來得る限りに於て俱象するにあると思ひます。

K君！　記念建築と申しますと或種の建築家は「ルイ」十四世の建てた「ルーブル」宮殿や「ナポレオン」の築いた凱旋門を擧げますがルイ十四世や「ナポレオン」のやり方は大閤が聚樂邸や大坂城を築いたのと同様に自己の欲望を貫くに在つて國民の膏血をしぼつて顧みない程の豪華な贅澤であります。

K君！　今日の日本は斯の如き贅澤は國民の許す事の出來ぬ沙汰であります、苦しい財嚢を傾けて軍國の軍備にさへ異論の絶えない今日の國家經濟から見て贅澤な建築は亡國の基を築く様なものであります。啻に明治大正の時代思潮を僞るのみならず後世を毒する結果となります。誤解は混同から起ります。私等が主張する議院建築は斯の如き記念建築ではないのであります。

K君！　新日本の時代精神は思想界の混沌として紛亂せる現代にも炳乎として日月の様に輝いてゐます。畏くも先帝陛下の宣明せられ給ひたる五箇條の御誓文は動きなき御代の礎でありますと同時に大正時代の國民にも夢にも忘るゝこの出來ない大憲章であります。

K君！　明治十四年に國會開設の詔勅が宣布せられましたのも明治二十三年に憲法が發布されましたのも實に御維新の御誓文の實現に外ならないのでありませう、此の大憲章は要するに新日本の時代精神の清い結晶であります、我議院建築は實に此の時代精神に則つて計劃すべきであります。

K君！　御高説は結局言葉が變つても同一な御主旨かと思います。此の大思想を基礎として議院建築を解釋しますと所謂記念建築とは全然別種の重大な意義を認めない譯には行かないかと思います。明治初年の日本國民が衷心の熱血を注いで泰西文明の輸入に努力したのも苦しいながらも財嚢を傾けて軍備を怠らぬのも短を捨て

長を執る切實な考慮の結果であります。

K君！　私等の主張する議院建築も同一程度の考慮から出立せなければなるまいかと思ふのであります。單に軍艦一隻の費用で立派に出來るからやれといふ樣な議論は却つて無意義な効果を國民の思想に與へるかと思ひます。無論我議院建築は切實な記念建築であつて豪華な贅澤を競ふ流行思想から割出されたのではないのであります。

K君！　日清戰爭時代には國家の選良は木造の堀立小屋で寒暑を厭はずして國家の大事を議したのであります。日露戰爭の際は悠然と東京の日比谷で今の建物の中に忠節を盡したのであります、そして更に內外多端なる今日の時勢に最近の臨時議會はやはりあの薄暗い通風換氣の不充分な議場で白扇を手にして萬石の熱汗を流したのでありませう。

K君！　國家の選良をして益多難なる刻下の事局に當つて其の重大なる任務を盡さしむるためには彼等が彼等の責任を自覺し認識しそして國家の大事を審議せしむるに足る丈の設備を與へてやるのは刻下の急務であります、國民の多くは生活難に苦しんで居りますが、一等國の選良をして外人との應接に負を執らぬ丈の設備を與へてやるのは已を捨てゝ盡すべき切實な義務でありますまいか。

K君！　私等は以上の見地から考慮して我議院建築は堂々たる大規模の計畫を立てねばならぬといふ論旨を主張したいのであります、姑息な計畫を立てゝ百年の後を思はぬのは大正國民の執らぬ下策ではありますまいか。一文惜しみの百損といふ事があります。貧乏な國家經濟であるからして猶更痛切な考慮を用ひねばならないのであります。

K君！　由來日本人は貧乏の癖に贅澤な費途を惜まない風があります、そして結局は大きな勘定の損失を招く事が多い樣です、何邊でも大火の慘害や經驗を味ふてもやはり木造建築で間に合せる樣な事を繰り返して居ます、一つは貧乏の爲でありますか、今一つは將來に眼が開けない一種の贅澤ではありますまいか。

K君！　話は違いますが日露戰後の教訓によつて「ドレツトノート」型の戰艦は造船界に一つの「エポック」を造つて居ます乍然「ドレツドノート」型の戰艦を計畫したのは我日本の海軍が最初でありました、乍然國民は海軍擴張に反對しまして此の計畫は實施されなかつたそしてあたら不具艦体の作成に努力せしめる破目とな

りした日進月歩の造船界では止む得ない趨勢ではありますけれども、刻下の我海軍の實狀は痛歎せざるを得ぬ有樣であります。

K君！　議院建築の計畫に於ても同樣であると思ます、新建築を要求する刻下の狀態に十年の歲月を費すのも考へものであるし假建築ですまそうといふのは果して國家經濟上に上策と考へ得られましようか、七百五拾萬圓の豫算が諸材料暴騰の折柄果して將來の憂なき規模の建築を計畫し得られませうか。

K君！　金さへ掛けたら良い建築が出來ると思ふのは勿論誤解であります金さへ掛けたら天下無比の軍艦が出來るだらうと思ふのと同樣で無駄な部分に金を懸けて纖弱な建築を殘さうとは主張しません。日光を御覽なさい天下の富を集めて結構な御廟が出來ても徒らに細部に拘泥して三代將軍の覇氣を現はす事が出來なかつた一つは三代將軍が國民の思想を委縮せしめた結果ではありますが……

K君！　乍然雄大な計畫を立てゝ切實な考慮を費してそしてそれに伴ふ金のないといふ程遺憾な事はないと思ます國民が理解をして研究をし調査をして我國の議院建築はこれ丈の規模が必要であるといふ點迄押つめて於てそれから之れを實行するに金の使用法と利用法とをそして經濟法を立てたなら國家の時代精神を表現する雄大な建築を實施する事が出來ると思ますし國民は喜んで其費途の要求に應ずる事を忍び得ると思ます。

K君！　或國の國民は規模の雄大な點は島國根性の日本人から見て學ぶべき點が多いと聞きました自分の國は金はないが此の建物はこれ丈の規模にしなければならぬといふ根本の計畫を研究してそれから工費の問題に立入つて調査を遂げ切實な工夫を費やして工事に取掛かるさうです從て工費の支出の不可能の場合には餘裕のある迄中止を斷行しそして最後に落成となると雄大な建築を立派に殘すそうです。

K君！　切り詰めた豫算から出立して果してそれが將來に憂なき程の建築になりませうか豫算を立てぬ事は勿論空想な計畫です乍然無理な豫算で果して百年といはず十年の後に不都合なき建築を成す事が出來ませうか金の餘裕あるに越した事はありません乍然戰亂の餘波を受けて却つて財政に餘裕を生じたから建築を起さうといふ場合斯樣な姑息な建築計畫に滿足したら今日迄苦しんで不自由な想に辛棒した甲斐がないと思ます。

K君！　先年の調査委員會では外觀樣式の點について大

分議論もあつた樣子でしたが『結局現代我國興隆の精神を倶体化すべき表現』ふいふ要求に一致したふ思ひます今年の調査會では此の決議を全く放擲して居る樣です外觀は第二義であるふいふ主張から切り詰めた豫算案を討議した樣です外觀は勿論内容の現はれでありますが内容の充實せずして外觀を整へるは不可能であります。

K君！　内容の充實ふいふのは必ずしも平面圖の決定ではありません構造設備の完成に限らないふ思ひます建築計畫の骨子なる方針にあります換言すれば建築計畫の意義の徹底であります。此の點から見るふ米國流の建築や獨逸流の建築は兎も角近代思潮を露骨に發揮せる徹底した意義を持つて居ります。

K君！　今日の議院建築は須らく局部に拘泥する事なく何處迄も徹底した精神を根底に置いて掛からなければなるまいかふ思ます議院建築は一種の事務所建築であるから外觀は問ふの必要ないふか内部の設備さへ滿足に出來たら足れりふする樣な小さな考へで果して雄大な建築が出來ませうか今度調査會が外觀を第二義に置く主旨の下に所謂策のために偏囚せる内容の完備を云々するのは何處迄も徹底せぬやり方であるふ考へます。

K君！　私等の主張は此の點に關して注意したいのであります。先年の調査會の決議は樣式で囚はれ今度の調査會は構造設備に囚はれ共に偏する爲めに先年の決議や調査は今日は殆んど無意義になつて居ますふ同時に今回の調査決議は何ふなく奥歯に物の挟まつた樣な嗅いものに蓋をした樣な一種異樣な空氣が漲つて居りはしませんか。

K君！　『現代興隆の精神の表現』は文句ふして漠然ふして居ますが必しも外觀の形式についてのみの意義に囚はれずして考一考すれば益々計畫方針の根本策に現代精神の意義を徹底せしむる必要がありますし況んや誠心誠意を標榜して皇室中心主義の現内閣が政府案ふして審議する此の建築が根本に於て此の重要意義の存在を無視する事は出來ないかふ思ます。

K君！　先年の調査會で議論の中心ふなつた「コンペチション」案は外觀の理想に馳せた爲ではなくて少なくふも當時の大藏省案が現代精神を倶象するべくあまりに華麗纖弱な「ルイ」十四世式を採用されたるが爲めに起た一種の反動的主張であつたふ思ます。もう萬年筆のインキが切れました後は次便で送りませう左樣なら。



神殿建築と高天原

（承前）

會員　波江悌夫

古代研究と高天原

神代の神々は總て高天原といふ一大舞臺に活動せられ給ふた。同時に高天原より現世に降臨せられ給ふたる天孫の御一族は安心立命の根元を高天原に求めらるゝより外なかつた爲めに。重大事變の勃發するや常に高天原に舞ひ上り給ひて裁決を乞ひ給ふた。かく大八洲と高天原とは離るべからざる唇齒の關係がある、然るに高天原の何處なりやとする疑問は後世漸く深くなつて今に解決の時を得ないのは如何なる譯であろう。

世は駸々として文明の域に進歩しつゝありといはれてゐる現世より見れば上古の文明は今日の世界と比較にならぬ樣である、乍然文明の進化は果して思想の進化であろうか、物質文明は二十世紀に入つて更に一飛躍の跡を示しつゝある、乍然思想の世界は果して二千年の昔より進歩せりと斷言し得るや、否や、或賢者はいふ「物質文明の活躍は人間の思想界を却つて萎縮せしむるものである」と或は眞理を語るものではあるまいか、今日の亂雜なる思想を以て何うして純潔な上代の思想を憶測し得るものぞ上代に於て物質文明が振はざりし丈それ丈思想文明の領域は到底今日の思想を以て窺ふ事は出來まいと思ふ況んや其思想を具体的に今日に傳へ得るものゝ極めて少なるに於ておやである。高天原の解釋の今日に於て却つて多種多樣なるは其源は明かに茲に存するのではあるまいか。

簡明素樸なる古事記並びに吾國正史の頭目たる日本書紀を繙くものは明かに「高天原」は「天」である事を認めな

いものはあるまい、記、紀、の兩書とも「高天原」の代用語として「天」の一字が使用せられてゐる。然るに高天原の意義に迷ふ主因は何であるか、それは高天原に於ける種々の叙述が現世と少しも變りなき狀態を示されてゐるからである。かくて現世の何處かに高天原の位置を求むる事が歷史的事實の理解に便利なるがために天上に高天原を求むる事を欲しない結果である。換言すれば科學的史實を得んために起つた輕卒から胚胎してゐるのである。

本居宣長先生が忠實敬虔な古文の研究によつて得られたる解釋には根底に動かすべからざる復古思想の潮流が横はつて居る、これは上代の思想に通ずる先生の大道であつて、後年古神道の復活された理由は實に茲にある、「高天原は天であるぞよ」と敎へられた斷定は他の門戸より進む學者には遂に會得が出來なかつたのみならず、國學の興隆は一世を風靡する時代であつたから、史實を捕へんと欲する或學派は秘かに高天原を以て大和國高市附近と解釋して滿足して居つた。

則ち、德川時代に於ける高天原の解釋には二樣の別があつた之れを今日天上說及地上說と呼んでゐる、乍然天上說の信ぜられたのは古い昔からである古史の古事記日本書紀が出來上つた奈良朝の初期に於て明かに信ぜられて居た、夫故に文獻には文字通り「天」と解釋するのが至當である。德川時代に國學の興隆といつた原因には、漢學が盛大であつた反動もある、漢文から得た思想で解釋すると帝德皇威の尊嚴を「天」に比したものであるとせられた、九重の雲深き神聖の地を以て天に比べたものとせられた、けれどもこれは皇威の尊嚴と天との比較であつた、恐らくは唐制を模した平安城の華麗雄大の規模が出來上つてから起つた字句であり思想であらう、天皇は深く九重の雲の上に在せられて草莽の臣は親しく尊顏をさへ拜する事が出來なくなつた後の思想である、上代君臣の義は父子の情の如く簡明であつた時代には歸一する處は祖先の神靈であつて君臣共に在天の神威に敬虔な信仰を手向けたのであつたと信ずべきである、のみならず地上說には何等根據とすべき處がない爲めに唯に大和附近を以て高天原と指すばかりでない人によつて見る處を異にし新井白石翁は常陸とし多田南嶺氏は豐前豐後地方とする樣に混亂してゐる、其中で大和說は最も多くの學者が信じてゐる。

明治時代になると科學的文明の輸入から思想は一轉して世界的となり德川時代には日本刀の御見舞を受けさうな海外說が生まれて來た、是も多くは想像であつて或者

は朝鮮こし或ものは中央亞細亞こし或ものは南清南洋印度進んでは西亞細亞方面迄も探し歩いてゐるが重要な論據こすべき材料のある譯でない要するに凡てが一面觀たるに過ぎない、尤も人類學上の見地或は一元論の哲學的解釋から出立して來るこ海外說を信ぜざるを得ぬ樣な破目に陷つて可なり多くの學者は之を信じて居る樣である。

自分は茲に此等の海外說について哲學的議論を述ぶる餘裕を持つてゐない、只天上說が古來の信仰を失つて多說濫造の結果を產んでゐるについて自分の信ずる處を述べて見たいのである。

古代思想こ高天原

人間の原始が多元か一元かそは措くこしても人間の祖先並びに原始時代は想像もつかぬために洋の東西を問はず上古の事跡は荒到無稽な物語が、神變不可思議な神話こなつてゐる。從つて現實に囚はゝ近代人には到底滿足が出來ないのみならず古人が作り上げた樣な神秘な物語を創造する事も出來ない。乍然我大八洲の豐葦原に活動された祖先が遠く高天原の雄大無邊の大舞臺に御座しまして遠大なる皇國の建業を計り給ふたる吾國上代の歷史を繙く時降つては神武大帝の建國より歷代列聖の皇化は一に上代の敬神思想に統一され萬世一系の皇統連綿こして今日あるを思ふ時そこに無限の敎訓が古今を通じて一貫せるを歡美せざるを得ないのである。

高天原こ大八洲は吾神國の本体であつて他に求むべき限りでない從つて天上の神話に滿足せぬ人々が地上に高天原の所在を求むる事に同情の禁ずる能はざるものがある乍然敬神の信仰が吾國道德の本源である以上は上代の古神道の思想を措いて高天原の所在を考察する事は無謀こいはなければなるまい。

前に述べた樣に古神道の意義が神殿建築に現はれてゐる如く神殿建築は上代信仰の中心であつた尤も建築が建築こしての形式美を完成するは比較的後世であつて其本源は此形式美を產出する思想にある信仰にある、從つて此の信仰なり思想なりの大に活躍せる初期に在つては建築こしての具体的形式は殆んご出來て居らぬ例へば大和の三輪神社の如く鳥居丈あつて神殿はない更らに溯つては鳥居も形式もなく神籬（ひもろぎ）の時代には只神聖なる神域あるのみである。畏くも神武天皇が東征の大業を完成されて橿原に祖宗の大靈を祭られた時には勿論何等建築こしての形式は全くなく只儀式こして之に伴ふ神前の供物に簡單な形式が窺はれるのみである。

是に於てか地上或地點に高天原を求むる人々に警告を與へざるを得ぬ。古神道に於ては穢れざる清淨の地域は何處にても之に祭壇を設けあて天神の靈に通ずる事が出來る意義の現存してゐる事である今日建築上の儀式に地鎭祭や上棟式がある此等の式には必ずや先づ祭地の穢を祓つて後潔白清淨の心身を捧げて天神の降下を祭壇に祈り奏樂の裡に降臨し給た後吾々の願事を上奏するのである而して祭神が願事を裁下あらせられて後神官は亦奏樂の裡に昇天の儀を執り行ふのである。是や地上の民が隨所に高天原の神体に現世に於ても御願の出來る神道の大義である。從て高天原に御座します八百萬の神々は高く吾々の天上に生き給ふていつでも地上に降り給ふ事が出來るのである必ずしも何處と限りない。清淨の地域其所に高天原に通じ得る神門があるのである。是に於て清淨神聖の地域に神社建築は建てられたのである。其結果各神社は祭神を區別或は合祀せられたるが爲に神殿は夫々一神或は數神に通じ得べき神門となつた。殊に吾古神道に在つては在世の偉人の靈は永久に生きて高天原の神となる大信仰があつた更に溯れば吾大和民族の靈は根元に於て高天原から降臨されたのである敢て天孫降臨の時に限らない其以前に於て或は其以後に於ても高天原と現世との關係は實に二にして一なのである。唯後世に在つては神代の神々の神威を穢す恐れあるが爲に神と崇められる偉人の靈は必ずしも高天原に在るとはいはない迄も在天の靈として（多少儒教の思想から得た觀念と混合したにしろ）信仰の的となる。談山神社に於て護王神社に於て或は亦天滿天神に於て然りである況んや古神道の熱烈なる上代の信仰に在つては偉人の靈は悉く此神門より高天原に昇り給ふた。天照大神御在世の御代に在つては古神道の中心の神は天御中主神であつて神產靈神及高產靈神が右左に在らせれて高天原を統括して御座したのである。天照大神が御昇天の後は其聰明慧智の大德を以て高天原の中心の神として代表の神となられた故に豐葦原中津國の返還や天孫降臨の時に在りては天照大神は高木の神（產靈の神）と御相談になつて大事を決せられたのである。

かくて神殿は高天原の神門として如何に重要であつたかは明かであると同時に現世の靈は此神門より高天原に昇天し得るのである、又現世の人々は神殿の前に在つて高天原の神々と御話の出來る事になつて居る此の信仰此の思想の意義が神殿建築の形式に明快に現はれてゐる事は實に貴いとと思ふ天地の靈は神殿に於て合致する。これや天地を劃する千木勝男木の雄大な形式美となつたの

である。

神殿の中で天照大神を祀り給ふた伊勢の内宮は唯一根元神明造と稱へ大和民族最高の神殿であるべきである世に神体云々を檢せんとするものがあるがこれは神道の意義を知らざる爲めにして神体は假りのものである神門の存在を指示するものである天神の靈は天上に現存し給ふて地上の現世をも監視せられて居るのである。

何事の御座しますかは知らねども
有難なさに涙こぼるゝ

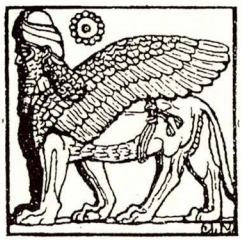
の意義は此點にあると思ふ。

實に神殿は天地の大切なる交叉點である加ふるに祭政一致の上代に於ては地上の政治は天上の祭神の儀と同時に行はれたのである否地上の雜事は天上の神儀の重大なるに比すべくもなかつた。從つて天上の祭儀を司るべき神官は大切なものであつた奈良朝以前に於ては神祇官は百官の首位であつて實力も同樣であつた況んや上古神代に於ては地上の政治は磯土の儀であつて天堂の鎖を握られて御座します尊が最高の主權者であつた。

吾國建國の初め伊邪那岐神が日向の國に祭秡の儀を行はれた時に畏くも天照大神を高天原の支配者に位せしめられたのは實に天門の司政を任ぜられたのである、素盞嗚尊が地上の雜事を掌管せらるゝを厭ひて天門の把握を爭はれたのを見ても當時祭天の儀が如何に重大視せられたかが窺はれると思ふ從つて高天原は地上に之を求むべからずして而も地上到る處に天堂の門がある事を考察しない譯には行かないのである。

結　論

神代の歷史については茲に述ぶる餘白がないのみならず尙幾多解決の出來てゐない問題が澤山ある茲には主として高天原と神殿建築との關係を述べたのであるが要するに「高天原」は何處迄も「天」と解釋するが至當であると同時に地上の關係に深い理由の在る事を認め地上說は必ずしも憶說でないがあまりに囚はれ過ぎてゐる點を指摘したのである。只國學の諸大家が漢學者を排斥するの餘り何處迄も史實を離れて神聖視した爲めに今日却つて海外說の隆盛を見る樣になつたのを悲しみたいと同時に漢學者が國學者の信仰を排するの傍支那思想の影響を受けて現實に囚はれ過ぎた解釋を求めんとし最近の歷史家が科學的研究の範圍を擴大して遂に古代思想の存在を無視した樣な休度を執らんとするを警告したいのである。



建築の經濟觀

會員　片岡安

◆不急の土木　◆經濟活動の根據地　◆輪奐の美
◆建築の樣式　◆都市の公館　◆鐵道停車場
◆行政廳舍　◆事務室共同館　◆共同住宅館
◆結論

不急の土木　こして建築を取扱つた時代は已に過ぎ去り、今や、都市建築は主こして、經濟の原則に司配されざるはなき狀態こなつて來た。之を大勢より見れば、宗教建築は衰へて、事務的建築が都市の中樞を形造り其事務的建築が、亦其需要の程度こ調和せざれば成立せざるを一般の傾向こするが故に、現代の建築は、歷史が數千年來繰り返し來つた一波動を爲すに過ぎないこ言ふ觀察は、全然之を覆して新に一新紀元を造りつゝあるものこ見ねばならぬ。現代の社會は凡ての方面に經濟の伴はざるものなきは此處に述ぶる要はないけれごも、古來不急の土木こして取扱はれたる建築工事が、近代に至りて遽に急要なる經濟關係の渦中に卷き込まれたる理由は現代の經濟的大波動の反映に在るここを稽ふる毎に、吾人は、建築なるものも單獨に之を社會經濟から切り離して研究出來ない事を痛切に感ずるのである。

豐臣秀吉が桃山城を二年間に竣工せしめた如き偉大なる

工事は我國の於ては記錄に値すべき事であるが、歐米の古き歷史を覽るときは、バビロンの架空園の如き、埃及の金字塔の如き驚くべき大建築工事を一權力の命令の下に實施した例に乏しくないのである。羅馬の全盛期に於ける都市建築が、如何に贅澤を極めたか、十三四世紀に於ける宗教建築が、如何に熱烈に迎へられたかは、記錄と遺跡とに便り十分に之を認識し得るけれどもそれ等は今日に於ては凡て過去の夢にして、再び斯る時代が來るべくもない。然らば、今後の建築は如何なる狀態に實現さるゝかと言ふに、現代の經濟戰の容器として又其補助機關として詳しく云へば

經濟活動の根據地　こして、其完備を競ふように向ひつゝあるものと見るを至當とする。故に、建築そのものは第一に經濟上合理的のものでなければ、經濟活動の根據地としては不適當のものとして排斥さるゝものである併しながら、單純に之を物質經濟の方面のみより立案し其構造や設備を爲し遂げ得るものと速斷するならば、幵は甚だしき誤解に陷れるものであることをも一と通り說明して置くの要がある。一体、如何なる建築にても、其目的に由り幵が內容の要求に多少の差異もあり、又、其外界との關係に輕重あるを免がれぬ。而して、其內容の充實と其外界との調和は、卽がて

輪奐の美　こして現はるゝのであつて、外觀の美とは其建築の僞らざる內容の發露が外界に對して有する一調律に過ぎない、然るに內容さへ充實すれば外觀に重きを置く必要のないやうに唱ふる論者のあるは、物事を餘りに誇張し過ぎた錯誤である。輪奐の美は、建築物が外界との調和上自然に發揮すべき固有性である以上、其問題を餘り輕く取扱ふ譯にはゆかない。けれども亦餘りに之に拘泥して內容に累を及ほし、惹いて、其經濟的理智にまでも不調和を來たす如きは、之を避けねばならぬ。要するに、經濟上の管見を根本とし、內容の充實を圖り、外界との關係を適當に考慮する時に、初めて合理的の現代建築を造り出し得るのである。故に、建築の種類に由り、觀る人をして自然其外觀に莊嚴、優美又は輕快等の異れる感興を惹起せしむる形相を備ふるに至るは理の當然である。若し、誤つて、かゝる形相が其建物の主体である如く考へ。內容之に伴はざるに、外觀のみに拘泥して無理にも其輪奐を修飾する時は、一見妥當なる建築の如く見ゆるも、少しく之れを觀察すれば、虛僞、空隙及不合理を發見して、到底眞實なる價値ある建築として敬意を拂ふ譯にゆかないのである。我國の過渡文明が近年

までに生み出したる建築には、斯の種類のものが如何に大膽に都市を横行し來つたかを見る毎に、吾人は、我國建築界の甚だしき不振を覺ゆるのである。

建築の樣式　は、卽ち、外觀の形相を抽象的に論ずる時に必ず起るべき問題である。歐洲諸國にては、二千年來傳來の建築樣式を備ふるのであるが我國は如何なる樣式を以つて國有のものとすべきやは、今日まで數次議論の種子となつただけで、未だ何とも解決の運びが付いて居ない。實は、解決の途は却て困難であつて、之れを百年二百年の星霜に俟つより外に方法は無いと言ふ方が本當であらう。我國は二千年來木材を以て其建築を構成し來つたので、凡ての方法は、木材の纖維剛直の性質を利用し之れを表明した造り方であるから、其方法を直ちに堅實なる建築材に應用する事は出來ない。現代の石質建築が構造上合理的のものと確定した以上は、女々しく、古代傳來の木材建築の方法を、石質建築に無理にも嵌込まんとする態度はよろしくない。矢張り、石質建築の特徵を尊重し、我國の風土人情に適合せしむるを理想として、新しき我國民性の方法を其上に試むるの努力が緊要である。和洋折衷式、歐米の近代ルネツサンス式、又はセセツシヨン式、甚だしきに至るに、ルイ十五世式模倣などを唱へて得々然たる者あるに至つては、建築墮落の端緒であるとは謂はねばならぬ、我國に於て實施する建築であるから云つて、木材纖維の性質を石質構造物の上に著しく現はさんことは不合理である。從つて、我國固有の木造建築の外顏は。今後の我國の建築に看ることの出來なくなるのも致方がない。併しながら、純然たるレネツサンス式又はゴシツク式等を模倣する如き卑屈なる精神は、全然之れを棄てゝ、上述の理想の上に於て其外觀の樣式を樹つべきである。宗教建築が、熱烈なる信仰的歸依に因り、其結晶体として出現した時代は再び來るべくもない。又、壓制暴虐な君主の權力に藉り、天下の財貨を王宮建築に浪費せしむることも、將來には出來そうもない、建築として將來益々盛んに實施さるゝは、矢張り經濟上合理的なものであつて、其建設さるゝ度合の急激にして且つ莫大なるは、寧ろ、宗教建築の殷盛なりし時よりも又王宮建設の黃金時代よりも甚だしきものあるは、現代文明の一大特徵である。

都市の公館　が、歐米都市にては最近三四十年の間に面目を一新し、都市改良計畫の中心として盛んに改築さるゝに至りしは、莫大なる工費を要せし点より見れば、經濟上甚だしき矛盾のようなれども、實は、凡て經濟上の

施設より割し出したる結果に外ならぬのである。近年、歐米の大都市が、其街路計畫を立てゝ大膽に其實行を期したのは、現代の都市膨脹の趨勢より迫られた必然の結果である。而して、其中樞區域には、都市として最も重要なる行政府及其他の公館を配合したのは、必ずしも、体裁や美觀を主としたのではなく、全く經濟上の活力順應の根本より計畫を立てたものと見ねばならぬ。故に、公館として主なる地位を占め、輪奐の美外界を壓するが如きものは、必ずしも王宮や行政廳とは限らず、ホテル、停車場、貸事務所等が其必要を成すこともある。紐育のウールウオース館は、市公園の一方に聳ゆる世界最高の雄大なる建築(口繪參照)にして、紐育の一大名所と成つて居るけれども、一貸事務所に過ぎない。其他、各國の都市が、鐵道停車場に著大なる注意を拂ひ、其位置と設備に驚くべき工費を投じて、尚且つ足らざるを憂ふる所以は、之を虛飾とのみ見るを容さぬのである。

鐵道停車場　は、公衆の最も多數が之を利用するものなると交通系統の根元地區なるとより、其設備は、鐵道經營上思ひ切つた程度のものを備ふるを策の得たるものとなすは、近代に於ける經濟論者の一致する處である。現に、獨逸の各都市が、夙くより其方針を採り來たのは有名なる事實であつて、フランクフルト、アム、マイン市の停車場の如きは、同市が人口未だ二十萬に充たざるときに、二千萬圓の工費を其停車場に投じたのである。同市が、現に、五十萬の人口と成り沖天の勢を以て發展しつゝあるを見ては、其英斷を稱讃せざるものはない。又、紐育市のグランド、セントラル鐵道終點驛及ペンシルヴァニヤ鐵道終點驛若くは華盛頓のユニオン停車場が、近年大規摸の建築を完成し、旅客を驚かしめつゝあるけれども、之等は凡て經濟活力の原則に據り其經營を遂行したのであつて、鐵道輸送の永久的發展的性質と其調和を保つことの爲には、全く合理的のものであると云はれてゐる。若し之等の設備を只一片の都市善化主義のみより割り出したものとすれば、營利的株式會社としては奈何に外部より强制するも、到底之を實行し得ない筈である。

併し乍ら、停車場が唯鐵道輸送の便利のみを覈べて設備を遂行するときは、其外界との調律に於て甚しき缺陷を生ずるのは、蓋し明白な事實である。而して、其不調律は直接に經濟上の不利益とならぬけれども、其都市全体の發展計畫を援助するといふ意味を考ふれば、鐵道停車場の如き其都市の唯一又は須要なる玄關口としての建物には、規摸の餘裕あることや輪廓の雄大なることは、

當然具備すべき性質でなくてはならぬ。

或る佛國の都市計畫論者は、紐育に於ける大停車場の餘りに贅澤なるを難じて、『斯る設計は實際二分の一の工費を以て十分に其目的を達し得べかりしに、建築師經濟を知らざるは歎ずべし』と公言せるは、千九百十年の萬國都市會議に於ける講演の一節である。然れども、或論者の意見に對し、大体に於て反響を起さゞりしは何故であるかに對し、充分に翫味すべき價値がある。一体、日々數十萬の旅客を取扱ふべき大都市の停車場は之を田舍の中學校抔と對等に取扱ふべきものではない。況して年一年と增進する都市交通の現代傾向を推察するに於ては其規摸の雄大なるこゝは、彌が上にも望ましきことである。亞米利加の達識論者は、近年改造されたる上述の如き大停車場を以て、初めて同國の經濟組織と並行せる賢明な設計なりと云ひ、從來の現狀拘泥主義に據れる停車場を甚しく批難しつゝあるは我邦の現狀に對して深刻なる刺擊を感ぜざるを得ない。

行政廳舍　は其中央機關なると地方機關なるとを問はず、公館建築の中樞を成すべきは、其建物の性質上當然のことである。故に、世界各國皆其計畫には相當の注意を拂ひ、其位置を定むるにも地の利を稽へ、其設計を確立するにも、萬善を期するのである。然るに、古來、其建物は主もに威壓的にして彌が上にも莊重なるを尊び、實際的なるよりも贅冗陰鬱なるの傾向甚しかりしが、近來の民衆的經濟活躍の潮流は、一變して斯る威壓的陰鬱の空氣より脫し、民衆的にして雄大なるを尊ぶと同時に經濟上合理的なるを要求するようになつたのである。獨逸流官僚式の隆盛なる處に於ては、其設計に尙ほ威壓的分子を含むと雖も、世界を通じて之を大觀すれば、其國柄又は都市の体面上適當なる規摸の上に科學的設備の粹を蒐め、努めて實際の適應を圖ることを行政廳舍計畫の方針とするようである。最近に出來上つた倫敦、紐育、クリーブランド、市俄古等の市廳舍は、凡て之を說明して餘あるものである。唯無意味に官公廳の歷史的因襲に捉はれ、偉大なる工費を以て莊嚴なる大建築を造らんとするものは、之れ現代の經濟關係を知らざるものである。

事務室共同館　が近時都市の中樞區域に勃興しつゝあるは、全く都市經濟の活躍之を然らしむるのであつて、其位地と設備の良好なるを要することは、官公廳舍よりも甚しきものがある。故に、其外觀に於ても雄大なる形相を具ふるに至り、都市中樞區の公館として少しも不調

和を感ぜぬのである。若し、其内容外觀の贅長を疑ふ者あらば、幷は其經濟的關係を知らぬからである。今之を紐育の一例に見む歟、大通りの高層建築は、主もに事務室共同館にして。其階數の多き所以は、全く經濟上の壓迫より來り、一坪數萬圓の地價をも厭はず、其地點を業務上の敏活を期するに須要なりと考へて、其處に據らむとするもの、簇出する以上、高層建築物を造るより外他に採るべき方法がないのである。高層建築は。其建物の性質上、又其需用者の要求よりして最高程度の科學的設備を具へざるを得ないのであるが、其工費を調査して我國現時の要求に比較するも、亦有要なる參考資料たるを喪はない。

亞米利加にては、第一流程度の貸事務室共同館の工費は、一立方呎六拾錢以上壹圓までを標準とする、之を床延坪に換算すれば、天井の高さを十二呎と假定し、一坪工費貳百五拾九圓乃至四百參拾貳圓となる。若し、之を我國の建築工費と比較するときは、決して高價なものではない。寧ろ、割合に廉價なるを思はしめる。而して、其貸借料金に至つては、甚しき懸隔ありて、彼地のものは、地利によつて、床有効面一坪に對し一箇月平均拾五六圓、地階は四拾參圓以上を普通とするも、我國にては最近傳ふる處に據れば、平均五圓を標準とするようである。事業室共同館は、都市中樞の主要なる建築を爲すものなれども、其存在の發展は、一つに懸つて其採算關係に由るものなれば、我國大都市の經濟活躍の程度更に一層發展せざれば、完全なる事務室共同館の簇出を望むことは出來ないかも知れぬ。我邦の大都市は、地價未だ廉く、大都市の中樞區に於てさへも、一坪千圓内外に過ぎないから、若し之に六七階の建物を造るに於ては、床坪に對して地價僅に百五六拾圓に充たない。之に工費を加算して、建物の有効面積を其六分と看做し有効地所を七分と假定するも、其有効一坪に對する資本は、建物四百四拾圓（床一坪の工費を貳百五拾圓とす）地所貳百圓（七階と假定し地積を割宛つ）合計六百四拾圓となる。之を月貸料金五圓とすれば、資本に對して九朱八厘餘の計算と成り、經費償却積立等約二割を引き去るときは、七朱五厘の利潤を得るのである。斯る採算上の利益と都市建築改善の精神と相一致し、茲に初めて共同事務室建物が漸次に勃興し來ることは、敢て疑ふの餘地が無いのである、今や、我東京及大阪兩市に於ては、斯の機運將に到着し、文明都市の建設も漸く其端緒を啓きつゝあるにはあらずやと觀察さるゝのである。

共同住宅館　は、都市建築の經濟的發展と共に、自然其必要を感ずるに至るので、我國の大都市には、未だ其急要を見出さぬけれども、早晩斯の種類の建物は大都市の須要なる位地を占むるものである。都市の住居問題は、我國の現狀にては左程急迫を告げてゐないとは云へ、事實は、最早現狀の持續を容さぬのであつて、不完全ながらも、郊外住宅經營が漸く盛ならむとしつゝあるは、蓋し、斯の機運の到達を告げつゝあるものと看ねばならぬ。

歐洲大陸にては、比較的に古くより都市の住宅共同館の行はれたるは、之を記錄に便りて識ることが出來る。併し乍ら、最近二三十年間其傾向最も著しく發展し來り、都市の中樞區域に近き住居には、斯の方法を最も合理的經濟的のものと認むるに至つたのである。而して、貧民窟を一掃して、衞生上合理な共同長屋を經營せんとする所謂都市の家屋政策は、最近歐米大都市の何れもが銳意其實施に努力するのを見るのである。家屋政策の由來は今此處に詳述するの餘白を有たぬけれども、都市民の衞生改善の大方針と、市營の經濟上の効果と相併行して、茲に初めて其成功を告ぐるのであることを識らねばならぬ。英國の都市が、千八百九十年以來、家屋政策の爲に投下したる資金は、今や、實に、壹億圓に達し、比較的善良なる効果を擧げつゝあるのみならず、今後、中產以下の住居問題は、凡て公營を以て解決されんとするの傾向が著しきものがある。若し、今後都市の住宅は國家又は公共團体が之を處理すべきものとなれば社會の生活狀態を一齊に向上し、都市民の幸福甚大なるものあるべきを信ぜしめる。

結　論　要するに、時代の建築は、其當時に於ける國民の生活狀態と恒に並行すべきものなれば、現時の如き經濟活動の劇しき時代には、凡ての建築が其經濟的組織と全く相一致して發展するの運命を有つのは、敢て怪むに足らぬ。のみならず、今後、斯る建築の經濟關係は漸次に其色彩が濃厚ならんとするのである。故に、我國都市の如く、過渡時代を經て今や其改造時期に迫れる處にては、殊更に斯の傾向を看取して、之が建設計畫を樹て、其將來の發展に齟齬を來すが如きことなきように深く慮らねばならぬ。吾人の恒に憂ふる處は、從來我邦の建築が一般に社會より輕視され、粗漫なる素人觀の下に盲從する技術家に倚りて經營されたる不合理なる狀態である。若し、今後尙其狀態を脫することを得ざれば、我邦の文明なるものも、所詮は、過渡時代の鵺的形相より轉化さるゝことは出來ないのである。我邦現時の狀態は、

凡ゆる方面に一大革新を要するけれごも、都市建築に關する社會一般の思想を向上せしむるこさは、蓋し、最大急務の一たるを喪はない。今回、文明國にして都市建築を取締り、其改善を促進せんこする拘束無きものは、唯獨り我邦のみである。我邦の先覺者たるものは、宜しく刮目して世界文明の斯の流れを看取し、一日も早く文明都市建設の急切なるこさを覺るべきである。



住宅建築の改造

——國民經濟より見たる——

會員　本野精吾

國民經濟の原則は、國民が多くの金錢を所有する事にあるのではない。國民が可成健實なるものを可成多量に成產するにあるのは云ふまでもない。今、現時の日本の住宅の有樣を見るに此の原則に悖る點が實に多々ある。自分が、此の事に想到したのは已に久しい前の事で、今迄にも私見を公にした事であるが、更に色々の方面から立論し日本住宅の改造に就て需用者並に專門家諸士の一顧を煩はし度いこ想ふ。

住宅を見るに二つの方面がある。一つは、純物質論者の見解であつて、一つは純精神論者の夫れである。前者は、人間の終局の理想は機械の如く動く動物たらしむるにありこ云ふ、後者は、人間の終局は精神の極度の高上を以てし肉体の滅亡を唱ふ。前者よりすれば、住宅は單に機械を入るゝ箱に過ぎず、後者よりすれば精神を包藏

する極めて微妙なる容器こなる。此の二者は、何れも兩極に遍したる見解にして、自分は、兩者の中間を採つて立論の根據こする。人間は、一面には機械の如く動く動物には相違なきも、其の機械たるや極めて精巧微妙を極めたるものにして、「スチームエンヂン」の如きものに非ず、住宅問題の起るは此點に存する。

戰亂數年、獨逸國民の少なくこも剛健なるここは今や已に明かになつた樣である。然るに、此の國民の背後に隱れたる精神的方面に想到する時、日本の現狀を見て慄然たらざるを得ない自分は、此の根本原因の一つを日常生活の狀態に歸する。「ゲーデ」は、住處が精神に及ぼす影響は甚大であるこ云ふここを云つて居る。自分は、彼等の建設したる精神界の事業が、獨逸今日の強をなす深き根底を作れるここを信ずるものである。「ビューロー」公が、嘗て、獨逸今日の文明は精神界に負ふ所殆んご多く、一に物質文明の致す處なりこ云ふここを論じたのを見たが自分は之れを信ずるここが出來ない。自分は、嘗て滯獨二年、其の間に親しく國民の生活狀態を見て、想半ばに過ぐるものがある。一例を音樂及舞踏に取る。獨逸が音樂に於て世界の舞臺に現れたのは已に二百年以來の事である。一日觀兵式を見たが、恰も音樂會の觀がある。各聯隊は、各一つの軍樂隊を有し、而も、各特殊の樂曲を持つて居る。夫れから、軍籍にある人こ否こを問はず、日常生活の間で獨逸國民程舞踏する國民は他に稀である。冬期三四ヶ月の間、殆んご全國の人が擧つて踊り狂つて居る狀態で、數多き舞踏場は毎夜塞がつて居る有樣で、皇帝は自ら主催して、年一度新年の舞踏會を開かれる、こんな國は他にない、一面から見れば野蠻である。佛人等は、野蠻の遺風こして卑下して居る。日本では、遊蕩の極致こして取扱はれて居る。こんなものが、彼の剛健な國民の背後に隱れて居るここは實に面白い。自分は、親しく之れ等の社會に這入つて見て、之れ等のものが國民の元氣を生じ、「リズミカル」な人間を造り出す上に如何計り効果を奏しつゝあるかこ云ふ事に驚かされたのである。

吾邦は、今列強の間に伍して進みつゝある、軍隊の強財貨の增、實に新進の國こして大なるものであるが、退て、國民の日常生活に想到するこきは、實に、他の列強に比して因循隋弱を極めたもので、其の間に少しも潑溂たる生氣こ全体の統一こを見出すここは出來ない。此の原因が何處に存するかは、容易に判斷に苦しむ處であるが、萬般の事情が綜合して、此の結果を持ち來したるに

は相違なく、其一面よりして、之れが改革を企つるは勿論不合理であるが、自分は、建築者の立場から、日本の住宅建築の現狀を見て、國家的見地より改革すべき餘地の有する點實に多く、殆んど根本的に改革する必要を感じつゝある。

國家より見れば、住宅は人間の倉庫であり、公共建築物は人間の陳列所であり事務所である。事務所や陳列所は外部的のものであり、倉庫は内部的のものである。健實なる倉庫を有せざる陳列所は、極めて薄弱なるものである。日本現時の狀態は正に之れである、以下項を別つて之れを論じ樣と想ふ。

「プランニング」の問題

住宅の意義—住宅は人間の倉庫であること一口に云ふことが出來るが、人間は極めて微妙なる機械なるが故に其の倉庫たる住宅は周到なる用意の下に計畫されねばならず、又社會上の出來事は往々住宅の内部に浸入することがあるから、問題は更に複雜になる。又一面に社會上より見れば倉庫であるが、人類には決して缺くべからざるものである。此の事實は、野蠻未開の原人が能く之れを證明して居る。更に、共同機關を持つて居ない穴居の人でも、風雨を凌ぐ住居丈は持つて居る。原人が數百尺の岩窟に住居し、前時代の猛獸と健鬪して之れを征服し、人間の祖先の偉業を開拓したる事に想到するとき、人間の倉庫が如何に重大なる意義を有するかは自ら明になる。

座生活問題—此の問題に關しては、嘗て建築世界社の住宅建築號に詳細に論述した事があるから、今は簡單に述べて置くが、人間の構造から冷靜に考へて、人間の生活法として感心すべからざるものである、社會の各方面には、已に椅子生活が非常の勢を以て採用されつゝあるにかゝわらず、住宅にのみ容易に侵入せざるは、單に習慣により座生活の缺陷を感ぜざるか、又は感じても改むるに困難なる爲めに躊躇して居るのであると想はれる。此の點に就ては、自分は極端に椅子生活を主張するもので、一時は習慣を破る苦痛を忍んでも改革の必要を唱へる、在來の日本住宅は座生活の上に立脚して殆んど遺憾なく發育したもので、若し座生活を將來に向つて永續すると假定すれば住宅建築に對する改革の餘地は非常に少なくなる。自分は、何處迄も椅子生活に改むる事を主張する。故に、住宅の改革は其の根底に觸れる事になる。

日本の歷史を顧るときは、海外より輸入されたる風習

は常に椅子生活で、一時は可なり盛んであつたものが、時を經るに從つて座生活に變化して居る、平安期及德川期は正に此の事實を示して居る、此れが何に原因するかに就ては、學者間にも未だ定說が出來ない樣であるが、此の事實のみを以て、座生活が日本民族の動かすべからざる性情の一つであるこ斷定することは不可なりこ想ふ。

關野博士は、此の反對の事實を支那の過去に於て發見されたこ云ふことを博士から伺つたが、夫れは、漢以前に於て、支那は座生活をして居たものが、僅に二三百年の間に全然椅子生活に變つて居る。其の原因に就ては、全然不可解であるこ云ふ事がある。之等色々の事實を綜合するときは、日本に於て將來全然椅子生活に變化するこ云ふことは、決して考ふべからざる事でない。現に、公共機關の大部分が椅子生活に變化し、最近漸く住宅に向つて侵入しつゝある有樣である。自分は、此の傾向が非常の勢を以て增進することを望むものである。

「エネルギー」の節約—現今世界の趨勢を察するに人間能率の增進は「エネルギー」節約の上に立脚したものでなければ到底優秀なる結果に到達することを得ないこ云ふことに歸着して居る樣であるが、自分も之れを信ずる一人である。獨逸に於ける場處の節約、米國に於ける物質の節約、醫學界の健康增進に於ける「エネルギー」の節約等は實行されつゝある好個の例である。之れを日常の生活に見るに、座生活が椅子生活に比して「エネルギー」を浪費することが非常に大であることは稍想像される。起座に際して、人間の重心の上下移動の長さが椅子生活に比して殆んご倍であることから考へて、此の間に起る「エネルギー」の浪費を推斷することは、決して不合理ではあるまいこ想ふ。之れを國民の總浪費額に計上する時は決して少しのものではない。

之に對して、住宅は休養の場所であるから、安臥するに最上の設備である疊を廢するは不可であるこ云ふ說を聞くが、之れは遊惰亡國の民の口にすべき事で、高等の國民が住宅を以て安慰を貪る場處こ考ふる如き思想は、根本より破壞することを主張する。高等なる人間の住宅は、決して斯の如く單純のものではない。休養其物も、矢張り「エネルギー」節約の上に立脚せねばならぬ。

場所の節約—椅子生活こ座生活こに於ける場處の節約の問題に對しては。何れが優秀であるかこ云ふ問題は極めて複雜な問題であつて、座生活法は詰めれば非常に多く詰まることは明かである。劇場の觀客席は之れを示す

好個の例であるが、此の「エラスチック」である點が一寸便利であるが、之れが日本在來の建築及生活法の根本の禍をなして居ると想はれる。住宅に就て之れを見るに食堂にもなり寢室にもなる如き部屋は、遂に何事にも完全に役立たざる事に歸着する。輕便は遂に不便を來す根本になるのである。日本の多くのものに此の缺陷を認めるは甚だ遺憾である。住宅に於て最甚だしい例を見る。之に依て椅子生活は必ずして場處の節約にはならないが場所は最も有効に使用し得る點より、自分は之れを間接なる場所の節約の内に加へる。

時間の節約—此點に關して、椅子生活が著しく有利の地位にあることは、殆んど論及の餘地がない。住宅は繁忙なる事務の場所ではないにもせよ、時間の不經濟を敢てするは不可である。安憩休養の目的を遂行するには、時間を節約し目的に向て有効に使用すべきである。在來の生活法は、時間の現今の如く貴重ならざりし過去の遺物である。

人間の範約—在來の日本住宅が人間の數を多く要することは、殆んど論を俟たないことゝ想ふ。此の點は、椅子生活を主張する可なり大なる理由であるが、之れには、人間から改造してかゝらねばならぬから、實行の上には可なりの困難があらうと想ふ。各人が悉く「エネルギー」節約の上に立脚して行動するに至らなければ、たゞへ外形丈出來上つても、機械の運行は出來難いのである、完全なる機械は熟達せる技師に依て始めてうまく運轉する。

衞生上の問題—之れも疊の上の座生活に優ること幾倍なるかは、衞生學の方面より證明せられて居る。床面に近い程微菌の數は著しく增加することは、實驗の結果が示して居る。此の一事に依て見ても、衞生上有利の地位にあることは論を俟たない。

嘗て某君が、日本の濕氣を以て洋風生活を否とする根本理由とされた事を發表された事を記憶して居るが、私は、此の點には反對したい。多量の濕氣に對して發育したる日本住宅の寬濶なる點は、椅子生活に於ても完全に保存することが出來るのである。椅子生活は必ずしも、英國又は北歐に於て形成されたる如き密閉したる建築に於てのみ行なはるゝものではない。現に、米國に於ける「バンガロー」の產出は、歐風直輸入の失敗を挽回したるものと想はれる。同君の說は、日本に於て今迄に多く建造された歐風建築を標準としての問題であらうと想ふ。日本獨特の椅子生活法を考案することは、建築家の仕事

こして一つの問題であると想ふ。

社會上の運用—住宅が會社的事件の範圍に侵入するときは椅子生活が有利なることは、之れ亦論を俟たない。多くの事實は現に之を證明して居る。

材料の節約—材料の節約を得ることは、椅子生活に於て寧ろ困難である。從つて、多くの費用を要する椅子生活反對の論者は、之れを一項に擧げるのを聞くが、此の點に關して、自分の考は、設備費と經常費との「バランス」に於て終局の勝利は椅子生活にあると想ふ、之れを數に於て表はすのは甚困難であるが椅子生活は、多くの設備費を要して少なき經常費を要することは、自分の過去數年の經驗が稍之れを示して居る。唯最下層の細民のみに向つては不利の地位にある。

自分は、此の點に關して、若し費用が免さざるならば宜しく品質を落し、健實にして体裁の惡きものを用ゆるここに躊躇してはならないと想ふ。日本の如き貧乏國に於ては、現今大多數の中流社會に行なはるゝ如き衣と住との材料を以て、上等に過ぐるものとする劣等の商人は外見をよくすることを以て顧客の購買心をそゝり、品質を惡くすることを以て自己の利を圖ろうとする。勿論劣惡云ふに足らない心理狀態であるが、大多數の需用者は之れに釣り込まれて居る樣であるのは、甚だ遺憾である。自分は、劣等な商人が劣等な手段を採るには何等の疑問を挿まないが、高級な需用者が之れに釣り込まれつゝあるに至ては、考へざるを得ないのである。高級なる需用者は、宜しく斷乎として之れ等を排斥し、劣等なる手段をして再び起つ能はざらしむべきである。偉大なるものは、健實なる地盤の上に於てのみ建造さるゝ、斯かる薄弱なる手段は、現時の日本に於ては宜しく撲滅すべきである。日本の住宅建築は。殊更に外見をよくし、短時日に腐朽することを企てたものではないが、結果は自ら茲に到達して居る。一日も早く健實なる建造物に改造して、設備費と經常費との「バランス」に於て優秀なる地位に進むことを望む。

以上列擧論述したる點は、日本住宅の「プランニング」に對する根本問題にて、若し座生活法を繼續發展せしめ樣とするならば、殆んど無用の文字になることを附記して置く。

構造の問題

以上の問題より構造の問題は自ら解決する、椅子生活にするならば、構造材料は極めて自由に廣き範圍に於て

選擇することを得る。最近に於ける建築材料の發達は、「プランニング」の改造と恰も同方向に進みつゝある樣に想はれるので、構造の問題は、椅子生活に變更する事に依て更に容易に解決される。

純座生活に對して、在來の日本住宅を鐵筋「コンクリート」にて構造するか、又は、疊に對する他の材料を工風するか云ふことは、改善向上の一路ではあるに相違なきも、極めて根本に觸れざる改革の方法であると想ふ。

「デコレーション」の問題

再び住宅の根本義に戻つて考ふるに、住宅は人間の倉庫である。然しながら、人間が此の倉庫内にあつて涵養され發育することは、實に非常なものである。人間の倉庫が重大なる意義を有する點は、茲に存する此の點より住宅殊に其の内部設備が人間に與ふるかを考ふるときは「デコレーション」(廣き意味に於ける)の問題は自ら解決する。

然しながら、此點は、國民經濟の問題とは直接交渉なきを以て。本項に於ては深く接觸することを避け度いと想ふ。

尙一つの問題は、所謂國粹と云ふものに關する問題であるが自分は、國民に一定不變の國民性又は國粹と云ふものゝ存在することを否定する。日本の風土、氣候、其他の事情に依て發育したる一種獨特の何者かゞあるにしても、之れは、決して不變不動のものに非ず。樣々の事情に依て不絕變動して、暫くも一處に定著することはない。健實なる思想と發達したる趣味とに依て建設られたる何者かゞ、國粹となつて益發展するものである。過去に於ける多くの高潮に達したる文明の遺物は、皆此の事實を示して居る。歷史は必しも眞を語るものではないが、有力なる參考にはなるのである。自分は、日本の過去に於ける燦爛たる美術を大に尊重するものであるが、亦將來に於ける發展を期して已まないのである。現時の如き混亂の時代には、此の二つの行程の間に猛烈なる矛盾を來すことが、此の難關を切り抜けて始めて優秀なるものは生れるのである。日本現時の住宅問題は此點に觸て居る點が非常に深いが、本論の主旨とは殆んど沒交涉であるが故に、今は深く立入ることを止めて置く。

唯此の事が國民經濟と關係する問題は、工藝品と海外との貿易に關する問題である。現時の日本の狀態を見るに、國民の日常使用するものゝ、輸出さるゝものとが殆ど沒交涉であるが、此の事實は、生活法の相違に根底を

有する事で、之れが國民經濟に非常なる禍をなして居る。國民は不堪國内の需用と海外の輸出との二面に向つて頭を費やさねばならぬ。此の二面が統一して一團となることが出來るならば、國民經濟に利あることは非常なものである。獨逸の工藝品が世界の市場を動かしたのは、此の點に負ふ所が極めて多い。此の二面が統一さるゝならば、國内の需用の餘力を海外の輸出に用ゆるか、又は海外輸出の餘力を國内の需用に向はしむることが出來る。自分の生活法改革の根底は茲にも存する。日本の座生活法が世界を動かし、夫れに依て生れたる工藝品が海外に應用されると云ふことは、到底考ふべからざる事である。又、之れを敢てし樣と試むるは、愚の極である。今、海外に輸出さるゝ純日本の工藝品は、一二數奇者の好奇心に基くものであることに想像すれば、此の事は自ら解決する。

以上論述したる處を綜合すれば、日本在來の住宅及生活法は、殆んど總ての點に於て不生產的に出來上つて居ることを見る。現時の日本は實に浪費の國である。上は貴族より下細民に至るまで、時間と勞力と金錢との浪費を敢てして更に意に介せざるらしく見ゆる。富豪が一介の瓦片に數萬金を投ずるも。私財を投じて研究に沒頭する人は實に稀である。中產の人が。最も節約したる生活の上に立脚して、總てを最も有效に使用することに努力する人も少ない樣である。細民が財を得れば、忽ち財布を空にして驕る。經濟の原則よりすれば、金錢の浪費は必ずしも全體の損失になることは限らない、然しながら、時間と精力との浪費は免すべからざるものである、自分は、此の貴重なる時間と精力との浪費の最大の原因の一つを、日本現時の日常生活法に歸するものである。

住宅を國民經濟の方面のみより研究するは、決して其の全般に非るは云ふを俟たないことであるが、今に此面より觀察したる愚見を披歷して、諸賢の敎示を仰ぎ度いと想ふ次第である。

『一寸四十五度の定規を借して呉れ給へな』
圖板の廻りを見まはして
『なや定規は皆んなどつかへ行つちやつた、その代りに**スケール**が二本も來てらあ』
『定規出て行く**スケール**が殘る、か？』
『殘る**スケール**が尺の種か』
『ハ、ハ、ハ、』



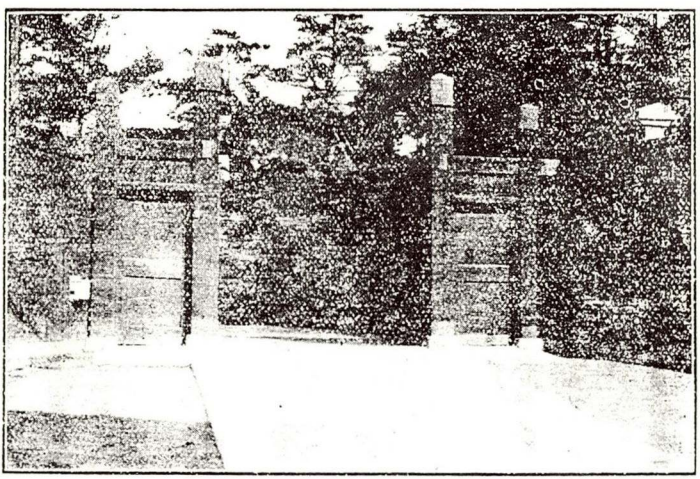
名士の住宅觀

自分は西洋風の住宅を好む

加島銀行頭取
廣岡惠三氏談

自分、は西洋風の住ひ方を好むので、大阪桃谷の住宅も、大体は西洋風こ成し、現在東京に造りつゝある宅も西洋風、又、今度六甲山に建んこする家も西洋風のものである。自分が西洋風の住宅を好む主なる原因を云へば、客室、寢室、書齋其他の各室に生活上の便宜安靜を得るこゝは、什うしても、日本風の家屋にては不可能であるから、之を西洋風の家屋に求むるので、必ずしも西洋の風俗をのみ尊ぶからではない。故に、銷夏の休日抔には。極自由に天然の空氣こ接觸して、身神を安めんこするこき抔は、數寄屋造りの青疊の上に浴衣がけで安座するを欣ばぬこゝもない。矢張り日本の服裝や其外境の適順を稽ふるこ、それを選ぶ場合却つて多いかも知れない。唯、日常の生活に悠々自適せんこする氣分は自分の採らざる處であるから、山腹のヴイラ(山莊)抔には從來日本風の數寄屋造りを推奬するけれごも、平常の住宅こしては、科學的生活の凡ての便宜安靜等の條件を具備し得る西洋風の建築を最良のものこ思ふのである。然るに殘念なるかな、今回まで自分の接觸した我邦の建築技師は、一般に偏狹にして、社會の要求や進路を顧みず、唯、自分が學校教場にて教へられたり又は文獻にて識り得たる

智識を基礎として、自己の胸中に一の空想を描き、其空想に一致する設計を提供し、社會を無理に壓し付けんとする傾向の著きものあり、學者としての權威を尊重する爲ならむも、到底社會を指導し得るものではない。住宅設計の根本は、實際少しもを離れず凡ての生活上の事情に適順せんことを努むるのが第一である。けれども、設計者が、唯大まかなる想像を基礎として注文者の生活狀態を忖度し、自己が少しも經驗無き生活狀態をまで至極單純に解釋し、實際上の便不便は奈何であるかを深く考へざる處の、所謂杜撰なる觀察の上に設計を立つるのではないかと思はれる。殊に、屋根裏の利用を始め、各室の部分部分には、生活上種々の細密なる要求を



滿足せしむるが如き注意を缺く慊ひがある。素より。我邦現時の如き生活狀態の不安定なる時代に各家族の狀態を一々建築技師に知らしむることは、事實困難であり、又注文者の頭腦が建築を餘り解し居らぬようなことも、其困難を大ならしめるのではないかと想はれる況して、初めは大名の如く鷹揚振りて設計を一任し、工竣るに垂むとして、小言を連發するといふ顚倒の態度は、少からず建築技師を惱すことであらう。

自分は、此度、住宅をボークス氏（宣教師にして素人アーキテクトなれども間取りには却々の練達者なりと聞き及ぶ建築專門技手を雇入れ盛に住宅設計を爲し宣教の事務を建築に乘りつゝあるのではないかとの評判である）に依頼してみたが、却々用意周到事微細にまで迫ぶように感じてゐる、矢張り彼國の生活上の世智辛き觀察に十分の經驗を積むだ爲と見られる。我邦の建築技師も、今後は、もう少し社會の爲に住宅建築を研究し一般に好感を以て迎へらる

ように努められむことを希望して已まぬのである。

記者曰く、右は廣岡氏の談話のみと云ふにあらず、記者の意見に對して共鳴されたる部分をも含む、又、言ひ現し方も、建築技術家たる、記者の筆に成つたのであるから、廣岡氏の談話されたるよりは、餘程露骨に書き列ねたことを告白する。

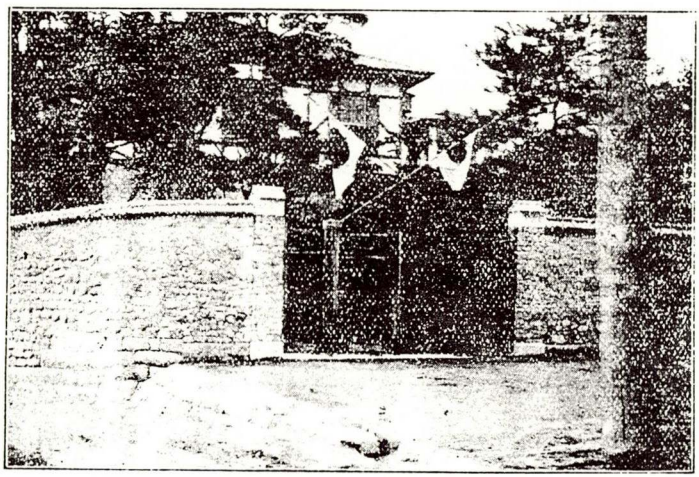
和風、洋式何れも其一方に偏するのでは不可

大阪朝日新聞社長　村山龍平氏談

私は、自分の經驗より見るに、臺所は主婦が容易く監督し得るように出來てゐる從來の日本風の配置を、最も適當のものと思ふ。併し乍ら、純粹なる西洋流の炊爨ならば、之を地下室なり又は離れた室に置くも差支なからん。唯、我國の習慣に據れる生活を爲す者には、下婢の動作を最も克く統一制御し得るような室の配置は、住宅經營上に最も必要なる條件の一つであることを、自己の住宅經營に就て深く感じたのである。又、客室、書齋等主として晝間用の室は、西洋風の設備を最も便利と考へ、實際之を利用しつゝあれども、寢室は、疊敷の室を便利であると思ふ。必ずしも西洋風の寢臺を嫌な意味ではないのである。

又、我邦の建築技術家の態度を見るに、自らは建築主

卽ち家庭主人公の生活狀態をば十分に咀嚼せずして、自己の空的獨斷的理解にて住宅を設計せんとするように考へられるのは奈何のものか。例へば自分は少しも西洋風の生活を採つた經驗なくして、注文主に西洋風の住宅を設計しつゝあるが如きは、著しき矛盾である。住宅の如き微妙なる家庭情狀に深き關係ある復雜極まれるものを、纔に西洋人の著述や西洋の家屋を見た上は辻りの智識を以て勝手に我國の事情を解釋し、現代の我邦の人士に當て嵌めむとするのであるから、其間に無理のあるのは、蓋し當然かも知れない。斯の點に於て、我國建築技術家の



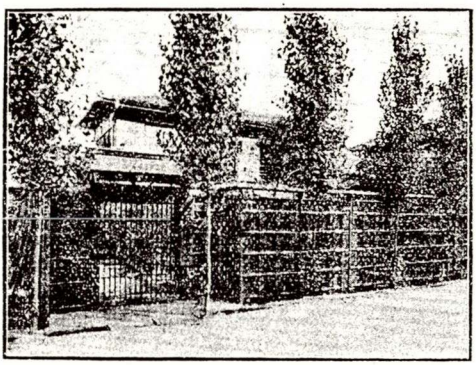
眞摯なる反省を望まざるを得ないのである。

記者曰、村山氏は、茶道を愛し古美術に精通せらるゝから、純粹なる國粹論者の如く見ゆれども、實際は、歐米の文物を解すること却々深刻なものがある點に於て、吾人は、大新聞社の社長としての外に、我邦現時の社會改良論者として大に尊敬を拂はざるを得ない。現在、住吉に西洋風の邸宅を構へ、近來は郊外住居を實行されつゝあるを以て、其住宅觀は、直ちに以て、一般住宅經營者及吾々建築技術家の教訓であること信じて、此處に之を紹介する。

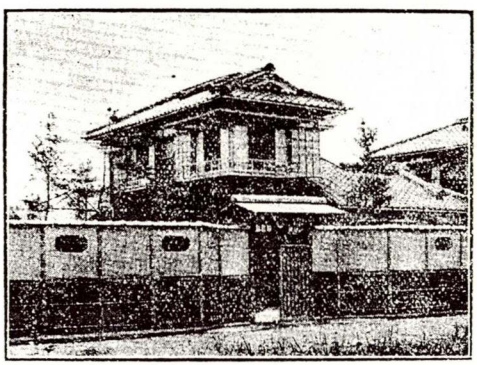
最初より組織的に計畫し野生的ならざる郊外住宅經營

箕面有馬電氣軌道株式會社 支配人 小林一三氏談

近來、大阪市の郊外は、所謂電鐵網の繁くなるに連れ其發達狀況の旺なるこゝは今更めていふまでもない事である。けれごも、其發達たるや、多くは自然的の發達に委したのであつて、市内が不自然的に發達する以上の發達を遂げてゐる、大阪市附近で一番理想的な住宅地こして目されたる住吉の山の手でさへ非常な大厦があるかこ思へば、僅々一間位の道路が其通路こ成り、或は、五拾萬圓位も掛つたかこも想はれる建築物が僅々五十坪位の褒域を有せないこいふような有樣



で、凡てが自然的卽ち野生的に發達したに外ならぬ。謂はゞ、其處に最初から一貫せる理想もなければ組織的の經營方針もない。



斯の點に於て、我箕電は、最初から住宅經營こいふ事に着眼して遣つたのであるから等しく住宅經營こいふも、其處に他の郊外住宅こ異る點がある。現に今日迄に出來たものを看ても、岡町、豐中、池田、櫻井等の經營地は、最初から組織的に出來てゐる。例へば、上水、下水、市

街の區域。其地の點に於て他に比類の無い纏つた住宅圏が出來てゐる。近來は、花屋敷、雲雀ヶ岡、鶴の庄等にも住宅の經營地として發達しつゝあるが、之等も最初から組織的に計畫されたのである。

斯くの如く、自然即ち野生的の發達に委せずして、實に、人力の精を竭くして經營した住宅經營の標本は、我線のみといふを憚らない。今回の經驗では、中產階級の人は非常に集つて來て今では七百軒近くの住宅を有するに至つた。更に、近來の傾向は非常に大きいものを要求するようになつて、一戸二千坪又は三千坪といふような區域を望むようになつて來た。要するに、我線は、住宅經營といふ大方針の下に凡てを計畫したのであるから、他の郊外住宅に比して實に組織齊然而も科學的に經營し又しつゝあることを特色とするのである。

理想的の住宅

醫學博士　木下東作氏談

元來理想の住居とは如何なるものかといふに、兎に角外界より影響せられない且愉快に暮らす事の出來る家屋が理想的住居の定義である。又「家は身体と一所に動かぬ着物で、着物は持運びの出來る家である」と云ふ事も云はれる、若し外部が非常に暑い時は、之に對して屋内の溫度を下けねばならぬ。即外部の高い溫度の影響を少くしなければならぬ。之に反して外部が寒い時には、其寒い空氣の侵入を防禦しなければならぬ。又雨の降る時や暴風雨の時には十分之を防禦することが必要である。勿論是等の外界の狀態は、此地球上に於ては一樣でなく。位置に因りて著るしい差異がある。即ち寒帶地方では充分溫を失はぬ方面に努力を要する、其方面では石造家屋より木造家屋を良とせられて居る。諾威地方の木造家屋の内では、漁夫達は外界の寒風に拘らず、常に春風駘蕩の思ひを爲して居り、唯光線と空氣には稍緣遠いが、決して不愉快な思を爲さしむる家屋とは云へない。之に反して熱帶地方の家屋は、太陽の熱灼を防ぐため、出來得る丈け輕便な建築法を採り、且空氣の流通を良くして、熱の蒸散と驅逐に勉めて居る。假令ば窓などは硝子を具へず、且扉などは大抵明放してある。又甚しく熱

い所では河の兩岸に家を建て、又水上の筏を組で其上に住み、又船中に住居する、遲羅の盤谷や、南淸の廣東は其類と考へられる。是等は全く水が大なる比熱を有して居ること云ふ物理學上の原則に據る者である。其同じ熱帶地方で成るべく光線や太陽の溫熱の入らぬ樣に四壁を石や粘土にて十分に取圍み、窓には日除けをけ、日中は閉めて朝と夕方に開いて、屋根は十分厚くし且所々に換氣口を設けて換氣を良くする樣にする方法もある。

支那のある部分には道幅が狹いのに其上に日蓋を懸けた場所がある、大阪でも淀屋橋や心齋橋筋にはそんな所もある、伊太利の「ネープルス」や「ヴエニス」にも大きな道路全体に屋根のあるのを見た。是等も甚だ面白い對稱で、比較的熱い地方の特色と思はれる。斯く緯度の差に因つて、家屋の理想的なるべきものも變るが、併しながら、時代に隨つても亦變化する。世の中が段々進歩するに伴れて愉快に住居すること云ふ程度が、段々高まつて來る、愉快に住居する爲には、十分に能く眠ること云ふ事も必要であるし、十分に甘い物を喰ふこと云ふことも、必要であるが、其れ等の標準が段々高まつて來る、此故に太古の時代に於ける理想的の住居なるものが、今日に於ける理想の住宅でない事は明かである。卽ち土地の有樣と、時代に因つて理想は無論違ふが。同じ地方同じ時代に於ても個人の主張主義に因つて違ふものである。卽ち理想的の住宅と云ふても唯私の考へた儘の者と云ふに過ぎない。

第一、理想的住宅　の建築には理想的市街の建設の後に始めて行はるべきものなる事、卽ち道路も良く、土地も高燥で、汚水排除も十分で、水道の設備もあり氣候も最も良き地方に市街地が選定せられて。後始めて家屋の建築にかゝらなければならぬ。卽其市街地に適當なる條件の下に始めて家屋の建築にかゝねばならぬ。

第二、住宅と事務所と分立の事　追々社會の複雜となるに共に事務に費すべき時間の短縮を計畫する結果、各己の事務を執るべき場所は互に成るべく近接して置く事を必要とする。卽ち市内に事務上の中心點が出來る。其の結果市街の中央には家屋として大なる面積を取る事が出來なくなる、卽ち都市の中央は業務專門の場所を作り、住宅は市の外圍か或は數里離れた地方へ置く事となる。是が田園生活の始まりである。卽ち近來の都人士に向つては都市に業務上の家屋卽ち晝間の働き場所を有し、田園に住宅卽夜間の休み場所を有する事は、決して奢りの沙汰ではなく寧ろ最も進歩せる考と云はねばならぬ。

第三、田園住宅の本位　斯く田園に住宅を有するを必要こせば、其住宅は如何に建築すべきやこ云ふに、舊來の建築方針こ稍變へねばならぬ。卽ち其本位は從來の家屋の多くは其家の業務本位に建られたるに反して、此方に於ては家庭本位にせねばならぬ。

第四、客間主人居間　從來の處では第一等の好地位を提供された此兩者も、今は細君こ子供に優秀權を讓らねばならなくなつた。其理由は家庭本位こなつた爲、書中住宅に居らぬ主人公や、時折來るお客樣に一番日當の良い風通しの良い室を與へる必要がないこ云ふ事になる。

第五、寢　室　身体の科學的監理（サイエンチフイックマネージメント）法から考へても良く働く爲めには良く休む必要がある。卽睡眠は此身体及精神を休める最完全なる方法である。此睡眠を妨げられるのは慥かに勢働を妨害せられるのこ同樣である。卽寢室が電車道に對つたり、騷しい工場に隣りしたりしては良くない。又戸を閉めた跡は外から音や光線の入らぬ樣になつて居る事が必要である、又多勢一所に眠る事は成るべく避けるが良い、是は他の人によつて眠を妨げられない爲である。部屋の大さは日本建は西洋建より一室に多勢居つても差閊ない樣になつて居る。是は風通しが良いからである。一人に付き二疊宛なら十分である。

第六、厨　房　是は先日大阪朝日新聞が募集した時に大分論じたから、今は餘り多くは云はんが、其方面に付き昔しから二種の意見がある、一方は日光の直射を避け北向こし、從て溫度を高からしめず且臭氣の發散等を少くするこ云ふ說こ、他方日當りを良くして害物の減却を期する方針の人こある。しかし私しの考へでは後說の內殊に東南に面して朝日を受け夕日の陰になる位を良いこ信ずる。臺所の衞生的設備に付いては近來世人が大に注目する樣になり、中々進歩して來たが今は省く事こする。併し食品格納の爲空井戸を掘る事は未だ餘り用ひられぬが甚だ良い、皆樣へ薦奬する値打があるこ思ふ。

第七、子供に對する設備　氣の付いた事は、子供の爲めに便所、洗面所を造る事は、夫等に對つての寢室讀書室を造るのこ同じく必要である、尙必要なのは雨天に子供の遊べる設備である。

尙家屋の方向や、建築材料や、基礎工事や、疊建具其他に關して大分論じたい事もあるが今度は是で御免を蒙る。

成功した豊中の合宿所

近江銀行頭取　池田經三郎氏談

私方の銀行で行員の合宿所を初めたのは彼是十數年も前の事です初めは極く少數で四五人であつたのが、追々增加して五六十人にもなりましたが、其頃は市内の十二軒町に其の合宿所があつた、ごうも絶へず病人が出來たり其他精神的にもよくない事も認みましたので、何處が空氣のよい郊外に適當な處があればと心掛けて色々調査を致しました。

丁度四十一年頃から私が矢張り健康の爲め郊外生活を實行する事になつて、只今の箕面電車沿線の中山寺に座敷を借りて、試みに土曜日曜又は一晩二晩宿りで出掛けて見ましたが、非常に身体の工合がよく頭が休まる樣に思ひましたので、其後住宅を建築致しまして家族全部移り住む事になりました。

斯うして毎日中山から大阪へ通勤致します内にも、行員の合宿所に適當な處を物色致して居りましたが、結局只今の豐中が大阪近郊の内凡ての點に於て合宿所として最も勝れて居るのを認めましたから、愈昨年十一月豐中住宅地へ合宿所移轉を斷行した次第であります。

合宿所を豐中へ移してから既に半年になりますが、果して行員の健康上にも精神上にも好影響を及ぼして豫定の結果を得て居るのをよろこんで居るのであります。

兎に角清澄な空氣を呼吸して朝は早く起き、夜は夜更しをせず擧つて豐中グラウンドに出て運動をする、日當りのよい部屋へ三人四人と割當て、年長者を監督として寢食掃除を凡て規律的にやる、斯うして只今では病人は絶無となりましたから缺勤する者もなく、自然缺勤者の豫備に行員を用意する必要を認めず行員も愉快に、銀行も安心して業務を執つて行く事が出來る樣になりました。

殊に豐中を選んだ譯は、御存じの通り有名な運動場の所在地であるから、合宿所に居るものも自然其趣味に感化せられるだらうといふ事と、其周圍が廣々として氣宇を大ならしめるにもよく、大阪へは僅かに十五分で出られるから、梅田から銀行迄歩いても三十分位で丁度適當の距離であり、且空氣や水が綺麗なといふ樣な諸條件に最

もあてはまつたからであります。

私は他の銀行會社又は大商店を監理せらるゝ諸君が常に行員、社員又は店員の健康が業務の上に大なる影響を及ぼす事を御認めになる以上は、郊外合宿所を斷行せられる事を御勸めしたいので、又其場所として當行の實驗上豐中が近郊各電車沿線中最も適當且優秀だと思ひますから、各銀行、會社、商店の合宿所を建てられて、此處に特殊の合宿所町を形造られん事を希望するものであります。



家相問答

會員　葛野莊一郎

A、建築依賴者
B、建築士
C、A夫人

『四』

A、貴方の家相觀は今迄伺つたところでは、要するに現代建築術を規範として、自然卽ち環境と建築の調和、實用と建物の適應の此二點に關し、建築の種々相に徹底するといふ事に歸納し結論して宜い譯でありますネ。

B、先ず詮ずるところが其れで有ります。私が唱導する

家相吉凶の問題は、建築と自然、建築と實用の調和隨順による吾人生活の向上を名付けて吉なり善なりとし反對に其墮落を以て凶なり惡なりとして是を排するので有ります。善良なる家庭は必ず善良なる住宅にやどる可きもので生活の第一要件は是を別にして外には無く、人世禍福の分かるゝところ此一事に歸するので有ります。此見地からする家相觀は、時と人と處に通じ、よく學問の精をつくしても猶且つ足らざるを患ふる次第で、陰陽家の舊家相術の如きは元より左樣大きな聲で論ずるにも當らないので有ります。

A、併し貴方の前々から伺つて居るお話では、必ずしも舊家相術を一蹴し去るといふのでも無いやうに聞いましたが……？。

B、それは吾邦現今の如き國狀では、一面前へ〳〵と新らしく進んで行かなければならぬと同時に、常に注意して後方をかへり見なければならぬ、この時々後をかへり見るといふ事によつて眞の進む可き路が開かるゝ譯で、新文明の吸收と同時に舊文明の保持を勸むる事が要するに吾邦獨特の發達をうながす所以で有ると信ずるからで有ります。此意義に於て私は極力現代科學的建築術を主張すると同時に、また舊家相術の如きも一應の敬意を表するもので有ります。

C、妾共女といふものは兎角前方へ進む事を忘れて何時も後方ばかりふり返つて居ります、婦人に迷信者の多いのは無理からぬ事の樣に思はれます。

B、何でも古い事をロクスツボ研究もしないで、たゞ迷信だと許りにしりぞけて仕舞ふのは、決して學問に忠實な所以では有りません。假令ば天文學者の方で太陽研究が逐次進んで來た結果、その表面の黑點日文に歲々相異なる變化が有つて、それがある週期を以て循環するといふ事實が知られて來た、ツマリ太陽の活動にも年々多少の相異があり、それが或る年次を期してグル〳〵廻つて居るといふ事が知られてみると、その太陽の熱と光を唯一の生命として居る吾々地上の人間活動も、自然其影響をうけなければならない道理で、昔から歲月に十干だの十二支を冠して序次を立て週期を現す方法にも、一面の眞理は有ると申してよいので有ります。

A、要するに觀方の相異で哲學的に行くか科學的に行くか、思索的にもこむるか實驗的にもこむるか、眞理の映ずるところは、各時代を通じて或程度の一致が有るといふ事になります　ね。

B、ザツトソンナものです。元來人間こいふものが昔も現今も未來も左樣著しい知識の相異が有る譯のものでは無いかも知れません。現代に非常な發明だこして居る樣な事で、二千年も以前にチヤンこ知られて居たこいふ樣な事實は、イクラも有る事で有りませう、たゞ是を知り是を發表する道程こ形式が異る許りで有ります。

『五』

A、舊家相術の研究が現今の建築術に何か新らしい暗示を與へるこ云つたやうな事は有りますまいか。

B、未だ實のこころ研究らしい研究も出來て居らないので、別段是れこ云つた材料も有りませんが、居住者が其住宅建築より受ける心理的方面に注意して居る點等は、特に注意すべきものゝ樣に思はれます。

A、要するに「居は氣を移す」の類ですネ。

B、左樣、人が家を支配する事は勿論で有りますが、同時に家が人を支配する場合、その心理的影響は頗る著しいものゝ存する事は事實で、何れの建築も同樣で有りますが、住宅建築に在つては特に注意を要する緊要の問題こ思はれます。

A、假令へば……

B、それには色々の場合が有る事は勿論で有りますが、人がその環境殊に日夕居住して居る家屋からうける心理的影響は、長い歲月の間にはそれが、一つの新らしい性癖を造り、直接間接種々の結果を生ずる事は明らかな事實で有ります。例令ばこゝに採光の不充分な向方の惡い、非常に暗い隱氣な家に住むこする……、申す迄もない暗い日光の不充分な風通しの惡いこころは各種の病菌の絕好の隱れ場所こなつて、其居住者に保健上非常な惡い結果を生じ、家内に病人が絕えないこか小供が育ち兼ぬるこか樣々な凶事が續出するのみならず心理的にも此ンナ住居からは決して快達明敏な人間は生れて來ない、こ斷言するのは、決して無理な事ではないので有ります。

A、元來日本風の住宅、殊に都會に於ける住宅には、一般に左樣云つた缺點は免れないのでは有りませんか。

B、日本風の住宅は本來開放主義で快活な構造法では有りますが、天井が低いのこ軒先の廂が深いため、割合に暗い陰氣なものになり易いので、硝子障子の應用は此缺點の一部を補つて餘程以前よりは明るく凡ての家が進歩した譯では有りますが然し全體こして、決して

進歩發展す可き國民の住家こしては甚だ相應しないものゝ樣に感ぜられます。古來家相家が東南、南、南西等の方角に對し特別の注意をうながして居るのは、それが採光の點に非常な關係が有るからだこも觀らるゝので有ります、爰に一寸御注意して置くのは、住宅はたゞ明るければよいこ申すのでは有りません、各室適度に調節された光線を持つこいふ事が理想で有ります。

A、茶室風の構造は如何でしやうか。

B、是を單なる趣味の見地からすれば、そは全然別問題で有りますが私は大体に於て以上申上た樣な見地から、餘り推奨す可き構造では無いこ信じて居ります。

『六』

A、俗にいふ鬼門説の如きは勿論俗説で、迷信こいつた方が近いでしやうね。

B、鬼門の傳説は申す迄もなく俗説で問題にはならないので有りますが、然し此方位を忌む事は殆んご國習こ云つても差支へない位一般的こなつて居る事實を考へますこ、是れを一概に俗説だ迷信だこのみしりぞけて仕舞ふのは如何かこ思はれます。

C、妾共の考でも世間で鬼門だこして忌み嫌ふ方角に、わざ〳〵厠だの湯殿臺所のようなものは設けたくは無い樣に感ぜられます。

B、鬼門の説にも色々あります。或る家相家は鬼門に非ずして貴門卽ち四方八方の内で最貴の方角で有るから忌むのではなくて、敬意を表するのだこ説いて居るの等が有ります、此鬼門説の主張は太陽が東の空に現はるゝ前寅の刻に當つて一點空の白け初むるのが此東北の方に當るからこいふので有ります。陰陽論からするこ陽の極で陽氣發生の源に當るこします、また五行説では土氣に配するので、爰に便所湯殿等凡て水を扱ふ隱濕の構造を設けるのは、土氣の尅害を受けるこいふので有ります。

A、科學的に何か説明でも附せらるゝ樣な特種の點はないので有りますか。

B、特に科學的こいふ程の問題でも有りませんが、兎に角東北卽ち鬼門こ稱する此方位は、家の内でも最も日當りの悪い部分で、雨上りの後等に有つては宅地の内で一番乾きの遲い場所で有ります。したがつて左樣いふ始終濕ツポイ部分に構造の悪い湯殿厠水流し等のある場合、或は排水會所水溜ゴミ溜の樣なものを設備するのは、深く考へるまでもない衞生上最避けなければ

ならない問題であります。或は建物宅地の様なものが特に此方位に著しく張り出すが如き、俗に鬼門張りといふ様な風の宅地は、同様好ましきものでない事が明らかで有ります。コンナところから舊家相家が特に此方位に就て最注意するといふ事には、多少の理由が有る様に考へて居ります。同じ住宅でもズット古い建築のものでは、一向鬼門の注意等はして居らないものをよく實見するので有りますが、是れは未だ家相術が一般的でなかつた頃の建築で、それ等の建物をよく研究してみると色々の不都合がある様に認められます。兎に角建物としては此方位には其配置について衛生上、一應注意する必要はあるので有ります。勿論是れは舊家相家の鬼門説を、全然是認するといふ事ではない點に御注意を願ひます。

A、なほコンナ例は幾つも有りませう……。

B、舊家相術だからとて徹頭徹尾迷信で固めて居る譯では無論ありません。北方の入り込んだ建物を忌むのは採光の不充分といふ事からとも觀られ。東或は東南に門出入口を設くるは朝の日光からする出入の壯快な氣分を主とする心理的關係とも觀られ、倉庫を西北乾に置くのは常に濕氣を去るとと同時に一日の終り萬物收藏の位置といつた様な方位觀から出立すると云つた様な具合に現代的説明を加へれば隨分加へらるゝ部分はイクラも有るので有ります。事實現今一部の比較的進んだ頭腦の家相家は、つとめてソンナ方向に説明を試み成る可く現代向に家相術の向上(?)をつとめて居るので有ります。然し舊家相術の或部分は現代的に立派に説明が出來るからと云つてそれが、舊家相術をあく迄も現代に主張する理由にならない事は勿論で有ります現今ではソレよりもモット進んだ立派な建築術が研究せられ、實行せられて居るので有りますから……。

『七』

C、子供の教育と住宅または校舍等の建物との關係は、親としてもまた教師としても、餘程考へなければならない譯ですネ。

B、左樣、世間では子弟の教育と建築物の關係については、未だあまり注意せられて居らない様で有ります。然し是れは教育上最重要な問題で、少年子弟が朝夕居住し出入する住宅校舍等の建物から受くる肉体的及び精神的感化は、其結果の甚だ重大なるもの〻存する事は明白な事實で有ります。

C、小供の部屋ことしては何んなのがよろしう御座いますか。

B、小供の室の如何よりは、小供の室を設くる事の必要すら心付かない多數の親達には困つたものです。住宅を新らしく建築せらるゝ場合、客間を如何するこか食堂をこうするこか、居間は如何寢室はこうこ色々注文が有りますが、小供の部屋の事は餘り問題にのぼらない場合が多いので有ります。

C、全く親こしては一番先に考へなければならない問題で御座いますネ。

B、一般に日本の小供が早熟で性の觀念等が比較的早いこいふのも、ツマリ家屋構造の不備こいふ事に起因するこ信じます健全な子孫を得一家の幸福をはからうこ思へば、先ず第一に何んなこころで小供を育てるかこいふ點に注意しなければなりません。『隣室に氣兼をしながら』不安の眠をつゞけるやうな部屋の構造では、決して健全の子孫は得られないこいつた人が有りますが、實に至言で子供を育てるこいふよりも一歩進んで、小供を生む事についても考へられなければなりません。

C、……。

B、小供の部屋こしては、成る可く風通しのよろしい光線の充分なる事は勿論、家の何の部分こもかけ離れて靜かな、庭園に近い事が必要で有ります。また其室内の飾り付けに致しても、出來るだけ小供の心理を了解するこいふ事が必要で有ります。大人がイクラ面白いこ思つても、小供には一向通じない事が多い。現代教育の缺患は大人がこかく大人の心持で小供を律する事即ち子供の心理に對する眞の理解を缺いで居るこいふ事に有ります。

A、建築材料の及ぼす精神的影響も充分考に入れる價値が有るやうですネ。

B、勿論有ります。木造の家に住むものは其頭腦もヤツパリ木造式になり、石造の家に住むものは其頭腦が自然石造式になります。一般に日本人の落付のない小膽な、始終不安の眼をキヨロつかせて居るやうな態度は木造住宅から來る著しい響影では有るまいかこ思はれます。此意味に於て現代の多數學校の建築が殆んご木造假建物的のもので有る事から、その卒業生の多數の頭腦がバラック式で持久性を缺いて居る事實も自然說明出來る譯で有ります。

A、大分長くなりましたから此邊でお暇するこして最後

に、洋風建築と舊家相術との關係を一言伺いたいものですネ……

B、一言にして申せば和風建築は自然に隨順の建築、洋風建築は自然に反抗の建築と稱してよいと思はれます風が強ければ家を低くし、雨が激しければ軒を深くするといつた樣なのが和風建築の行方で、洋風は是れと反對に何處までも自然に反抗の態度で進みます。卽ち前者は女性的後者は男性的で有ります。舊家相術といふものが或る程度の眞理を持つたところが（假りに）それは重に日本風の建築に對する觀方で、是れを直ちに洋風建築にまで應用して吉凶を論ずるに至つては愚の極で有ります。洋風には洋風の新家相術が當然必要となつて來るのでそれがこりもなほさず現代の建築術だと私は信ずるもので有ります。（完）



都市と建築

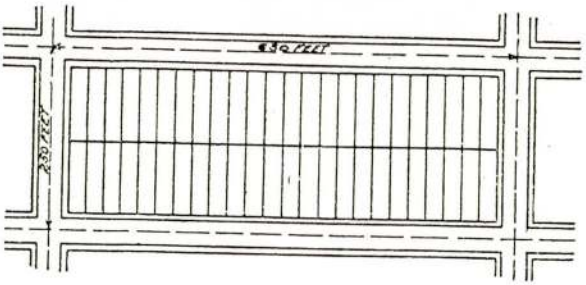
■日の丸都市
■大都市の雜踏より生ずる損害
■建築條令の制定
■建築物の高さと街路の幅員
■都市計劃雜話

日の丸都市

The City of the Sun.

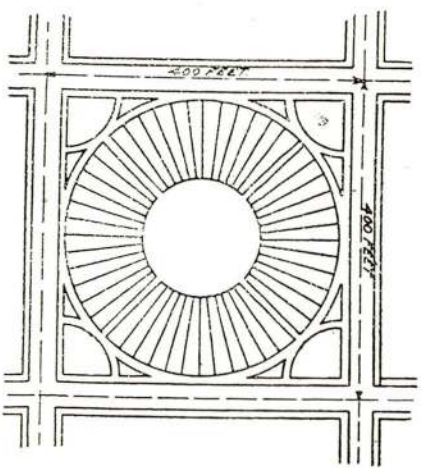
一九一七年八月號アメリカンシチー誌に掲載せるものを抄錄

近來、住居問題の解決法として色々な計畫が發表さるゝ中に就て、伊國ミラン市のビーター、ロベダ氏Peter Rovedaの考案なる日の丸形市街は最も新珍のものである。同氏の案は普通市街區劃の長方形なるを凡て正四角形に分劃し。其各個毎に內接圓を畫き之に、對角線の道路と同心圓の中央道路を附し其間の敷地を放射線に依りて分割するのである。

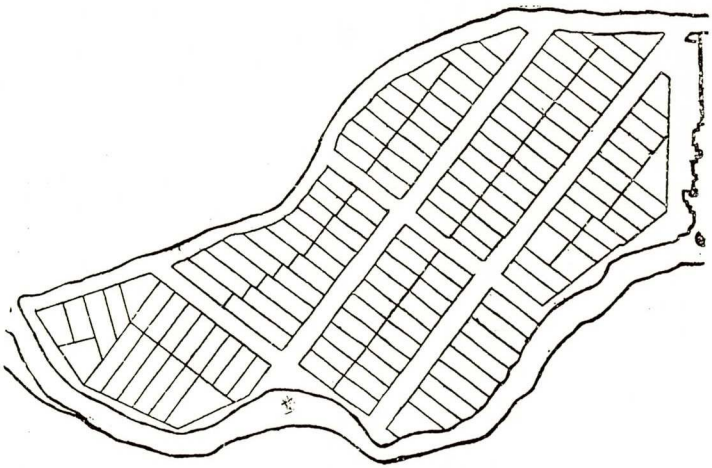


長方形分割法ニヨルモノ全面積一六二、五〇〇平方呎一軒ノ面積二、一一二平方呎

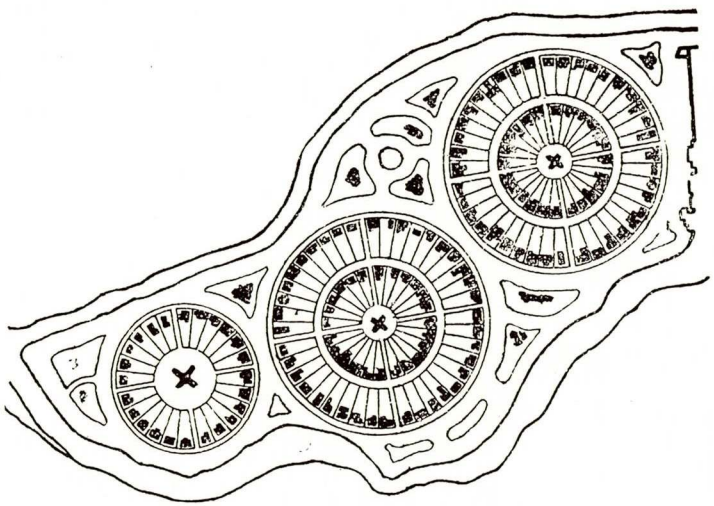
各圓の四角形は、三百五十呎の一邊を有し、四十八の放射形の地區に分割する。而して、更に、同心圓の道路を造るときは、三十二の放射形の地區を增し、八十箇の住宅地を得るのである。何れにしても其の中央には、公共用の建物及遊園の設備を爲すに適する場處が殘り、四角と內接圓と接する四角にも亦適當なる公共的の地區を生



ロベダ式分割法ニヨルモノ全面積一六〇、〇〇〇平方呎一軒ノ面積一、六〇〇平方呎



法劃分形方長の形地の則規不



法劃分式丸の日るけ於に形地の則規不

ずるの利益がある。

而して、地積の關係を普通矩形の分割法と比較すれば、縦六百五十呎横二百五十呎の長方形の分劃に依るものと四百呎の正四角形に日の丸分劃を施すものと、孰も之を四十八箇の宅地に割り當てゝ見るに、

總地積　甲　縦六百五十呎　横二百五十呎　此面積一六二、五〇〇平方呎
　　乙　縦四百呎　角　此面積一六〇、〇〇〇平方呎

一宅地の地積　甲　二、一一二
　　乙　一、六〇〇

一宅地の面積は二割許日の丸式の方に於て劣れるを見るも、其一區劃内の交通と公共的設備の地域を存ずる點に於て、日の式は大に田園都市の趣を發揮し、天然美に接觸し得るの便がある。

又、不規則なる地形内に於ける分劃に於ても、日の丸式は更に有利なるを見る(圖面參照)唯高低のある地處に於ては斯の式を自由に利用するは困難なれども、緩慢なる傾斜を有する地處にては必ずしも不可能ではない。

大都市の雜踏より生ずる損害

大都市の商業中樞區に於ける街路の雜踏は、其都市の發展に連れて漸次增進し、終に救ふべからざる狀態に陷るは、現代都市の趨勢に觀て明なる處である。而して其の交通妨害より生ずる損失は蓋し容易ならざる額に上ることも想像される。最近紐育鐵道會社が發行せる『サービス』誌に據れば紐育の大道路の一なる第五街の小賣店櫛比せる部分(東京の銀座日本橋通り、大阪の心齋橋通り、京都の四條通りに對比し得るものと見らる)にては、自動車は步行者の速力にも及ばねといふことである其一例を擧げんに、第五街の四十二丁目より三十四丁目に達するに、其距離約半哩なるにも拘はらず、自動車にて二十六分間を要したといふ狀態である。第五街商店組合にては、其交通雜踏の爲に生ずる損害を一日に付百五拾萬圓を下らぬとして愁んでゐる。それは、時の損、輕油、食料等の積損を計算したのであるが、是より生ずる永遠の損害は、蓋し、幾何に達するや想像し得られない。何となれば、若し何時までも斯る交通不如意の儘に差し措けば、夫れ等地區の老舖は漸次其勢力を失墜し、商業中心は自然他の方面に移るからである。

紐育の縦貫大道路は千八百十一年に同市の人口八萬餘のときに於て計畫したるものに係り、約六百五十呎乃至九百五十呎の間隔に百呎の幅員として築造され、今回まで其の儘に踏襲し來りたるものである。今は其附近接續の都市を合せて人口七百萬以上を算するのであるから、

第五街の如き目貫の場所は雜踏に由りて動きの取れぬのも無理は莫いのである。

我東京市の銀座通りは、其幅員九十呎にして、第五街に稍劣る幾きものなれば、先づ當分は是にて差支無しとするも、其行末を考ふれば、決して此の儘にては役に立たぬことを想像せねばならぬ。大阪市の心齋橋筋の如きは其幅僅々三間内外に過ぎぬのであるから、元祿時代の昔ならばいざ知らず、現代の大阪市に有り得べからざる商業地區である。市の交通問題は市民の覺醒より外に之れを極ふ途は無いので、あるから、我邦の大都市民たる者は、紐育の一例を他山の石として味はねばならぬ。

建築條令の制定

大都市にては、建築の取締を嚴重にせざれば、到底内容外觀共に立派なものとなることの出來ないのは一般に認められゝ處である。而てし、建築の取締を最も嚴重になすべき處は、都市の大通り又は中樞區域にして、世界の大都市は、凡て夫れ々々相當の法規を設けて之を勵行し以て其改善を攻究せざるものはない。獨り我國の大都市には、未だ何等確定した内規もなければ、又法規らしいものもないといふ憐な有樣である。先年、東京市建築條例の草案は、東京市理事者の依囑に依り、我建築學會が立案したけれども、理事者の文庫の裡に仕舞い込まれて何時世の中に出るか當ても付かない。又、大阪には、建築取締規則あれども、警察部の保安取締に過ぎない。斯る非文明的の狀態に放棄しある都市建築無拘束は、果して我國の大都市を改良し得るものであるや否やは、考へるまでもない程明な事柄である、我關西建築協會は、今や之を輿論に愬へるべく今後の態度を研究中である。遠からず何等かの叫びを擧ぐることゝ信ずる。

建築條例の根本は、都市民を災害より救ひ、其財産を保護し、以て、都市民が安心して活動し得らるゝように建築を改善するに在る。然れども、物に輕重大小あり、難易便不利あり、建築條例制定にも、其大綱と小目とを區別し、重きを深くし輕きを捨つるを第一義とせねばならぬ。漸を逐ふて細目に入るは少しも妨げぬけれども、最初の努力は、其大綱の確定に在ることは誰しも異議の無い處である。卽ち、都市中樞區域及幹線街路の建築に最も大なる制裁を加へ、最も短き將來を期して其實行を現出せしむることが、根本の方針であらねばならぬ。煉瓦の壁の厚さを定むるとか、鐵材の伸張力を規定する如き細目は、寧ろ、或程度まで建築士の技能に一任して可な

りである。一般の建築構造に遠かりたる危險構造も敢て實施するが如き無能非常識の建築士を取締るが如き條例の項目は枝葉であつて、決して根本の問題ではない。唯、山師的の借家主や請負師が、無識の建築士を左右して危險構造を爲すを防ぐには別に取締の方法がある、即ち、都建築の或程度以上のものは、凡て登錄されたる一定資格以上の建築士が其設計や實施に關して責任者たるを要することを規定すれば、十分に其目的を達し得るのである。都市建築の拘束は、上述の意味に於て、耐火耐震の條件を、最も早く、都市中樞區域や幹線街路の建築に實施せしむることを企て、同時に、其建物の高さと建て詰め方(敷地に對する坪數制限)を規定することを急要と考へらる。我國の大都市は、今や、經濟的に却々重大なる位地に達したのであるから、一日も早く安心して其位地に據つて活動し得ることを要求して止まない。然るに、之を促進し强制する一の法規も無く、又、其法規を制定するの輿論も起らぬのは、主として、建築技術家が社會を指導する熱心の程度餘りに薄いからであると觀るを至當とする。衞生上の法規は、我國にては未だ幼稚なものではあるが、其行政上の行き屆き方は、建築の方面よりは餘程進んで居る。之等は、全く醫術家の努力が建築家より多少勝つて居つたことを證據立てるのである余輩は、我國の建築法規に何等見るべきものなきの罪を全部建築家に歸する者ではないが、少くとも、其大部分を擔ふべきものではないかと思ふのである我國の建築家たる者、宜しく相一致協力して輿論を喚起し、最も近き將來に於て我大都市の建築法規の制定さるゝよう盡力されんことを望む。

建築物の高さと街路の幅員

建築の高さは、其面する街路の幅員に依り之を制限するを、歐米各國都市の一般通則とする。大体に於て、其道路の幅員を建物の高さとすれども、或程度を超ゆることを許さぬのみならず、又或程度以下たるを許さぬ都市もある。或都市にては、建物の間口を高さの何分の一以下たるを許さぬ所もある。兎に角建物の高さを制限することは、都市建築拘束の第一義であるから、我國の大都市にては、斯の點に最も重大なる研究を積みて然るべきである。建築學會にて出來上りたる東京市建築條例の高さに關する規定は、左の如くにして、餘り深き研究が出來て居ないように想はれる。一般に獨逸の都市は、ゾーン式に據り、中樞區域は、制限を一定限度より高き方に定め、邊阪

に向つて漸次低くせしめるを原則とすれども、亞米利加都市には、高層建築に無制限のものさへあつて、現に、七八百尺の建物が、密集地に聳立するといふ奇觀を呈して居る。兎に角、街路の幹線にして中樞區域に施さる建物の高さは、二次三次の街路に對する制限よりは、之を一定の律に近けて大くするの要があると同時に、其高さを成るべく一定せしめるようにしたきものである。

第二編第二十五條　道路に面する建物の高は其前面道路幅員の一倍半を超過せしむべからず、建物の高は五十尺を限度とす、但し建築局は適當なる特別構造のものに限り高百尺まで許可することあるべし

右の假定東京市建築條例の建物の高さ制限は、唯道路の幅の一倍半を最高五十尺を限度とし、除外例として、特別構造のものに百尺までを許可することあるべしと云ふのである。之を巴里の例に觀るに、同市にては、幅十二米突以下の街路にては、其幅に六米突を加へたるものを建物の高さの限度とし、十二米突以上の道路にては、幅員一米突を增す毎に其四分の一づゝの高さを增すことを許し、二十米突を最高限度として居る。丁度、上述の東京市建築條例は巴里のものに稍似たものであるけれども、更に一歩を進めて、一等道路と住宅地區の間に其差を附け、最高限度を街路の等級に依りて區別すべく、又、特別構造と普通構造との別に依りて五十尺と百尺との差を附けてあるのは、甚だ曖昧なる規定であるからもう少し明瞭に之を確定して置たい。

一般の建物制限に、圓圈式（ゾーンシステム）を採用しつゝある獨逸都市は其高さにも矢張り斯の式の精神を用ひて居るゾーン、システムは、初めフランツ、アヂッケス博士の唱ふる處であつて、彼がアルトナ市の市長たりし時之を實施し、尋でフランクフルト、アム、マイン市に奉職して、同市にも之を實施せしめた。其成績理論と相並行して少しも故障無く極めて好良なるを認め、今や、獨逸の各都市は、建築制限に斯の式を加味せざるものはない程に之を尊重するようになつたのである。我國の大都市も、今後、建築法規の制定には大に參考とすべきものではないかと思はれる。

建物の高さは、街路幅員を基礎とすべきは云ふまでもなきことながら、我國の大都市にては、街路の幅員一般に狹隘にして、將來の文明都市たるには色々の點に不都合を感ずるのである。其主要なる點は、現在は勿論將來激增せんとする交通を容易に處理し得ることである。其他都市美觀の向上、衞生、風紀等都市の發展上重要なる問題

は、凡て街路の幅員と直接關係するのみならず、其街路に面する建物の高さは、殊に其制裁を受けねばならねのである。之を都市交通激增の趨勢のみに稽ふるも、我國の大都市は、既に行き詰りに達して居るのであるから、建物の高さを論ずるには、先決問題として、主要なる街路の系統と其幅員を研究することを主題とすべきである。今、此處には、文明國都市の交通が凄しき勢を以て增進しつゝある趨勢に就きては之を詳述することを避け、二三の實例を擧けて、之を常識に愬へて置きたい。

東京の日本橋通りは幅十五間に改築し、之を永久のものとする考なりしならんも、今日は、既に自働車や馬車の通行に困難を感じ、路面軌道の交叉點の如きは甚しき危險を覺ゆる。若し、今後交通量の倍加するに至らば、奈何に之を處理せんとするやは誰しも當惑する問題であらう。而して、大通りの交通激增は現時の趨勢にして、十年十五年を待たずして其困厄は到着することゝ明瞭である斯くの如き結果を稽ふるときは、都市計畫の研究は、實は急切の問題であつて、建築條例に先ち其確定を急がねばならぬのである。大阪の堺筋や本町通りは、今は一等道路として實施されたのであるが、歩道の幅員僅々九尺に過ぎず、電柱、植樹等之に障碍を與へ、眞實通行用の幅員は五六尺にも滿たず、小建築内の廊下程の幅員である。之を以て一般歩行者を通行せしめんとする無謀は云ふまでもない。今後之を大都市の一等道路として押し通し得るものでないことは明である、京都市は大阪市よりも比較的閑散の地として知らるゝも、實際四條通り（幅員十二間）を通行するときに奈何なる事實を發見するや、初夜の時刻の如きは歩道は、餘りに狹く、容易に通行し得ざるが故に群集は車道に溢れて、自働車、人力車の通行を妨ぐるといふ始末である。

以上は、唯一二の實例に過ぎざれども、我國大都市が其重要なる中樞街路の系統を考へず、又、其幅員計畫を誤れることは爭ふべからざる事實である。都市建築の發達を期待するに先ちて、其街路の計畫を永遠的に確立せんことは、現時の急務であると云はねばならぬ。若し、誤られたる街路に沿ふて堅實の永久建築を築造するも、其擴張に際しては、更に之を破壞するの不利を生ずるは、到底吾人の忍ぶ能はざる處である。我國現時の都市狀態は都市計畫の最大急務なるを叫ばしめねば已まぬ。先覺の士、宜しく此に慮りて輿論の喚起を促し、貧弱なる我都市の將來に向つて光明ある計畫を樹立すべきである。

世界大都市の大街路幅員表

所在地	幅員
巴里シヤンゼリゼー廣道	二五〇呎
維那リングストラツセ	(二三〇、二六〇、一八五)
漢堡リーペルバーン	二一〇
伯林ウンテルデンリンデン	一六〇
伯林ベルアリヤンス街	一九〇
匈牙利ブダペスト市アンドラシー	一四五
巴里アンリーマルテン街	一三〇
倫敦ホルボルンヴヰヤダクト	九〇
倫敦ホワイトホール通	一二〇—一四五
東京日本橋通	九〇
東京、馬場先門通日比谷、神田橋通	一二〇
京都烏丸通	九〇
伯林フリドリツヒウヰルヘルム街	一一〇
倫敦レゼント街	八五
伯林ポツダメルストラツセ	一一〇
倫敦ピカヂリ街	七五
エジンバラ市プリンセス街	一〇〇
倫敦クヰンヴヰクトリヤ街	七〇
エジンバラジヨージ街	一〇〇
大阪堺筋	七二
紐育第五街及其他縦貫大街	一〇〇
京都四條道	七二
巴里オペラ廣道	九八
倫敦オクスフオード街	六四
巴里バリジアン廣道	九八

都市計劃雜話

■獨逸の都市計畫大家スチュツベン博士の意見に據れば『都市の街路系統に、均齊（シムメトリ）を重んじた時代は既に過ぎ去り現今にては極大まかに彎曲せる線路を以て適當に相連亘せしむるを方針とする』と云ふことである。同博士の改良計畫は孰れも其意味を十分に現しるるのであつて獨逸にては、大体同博士の計畫が用ひられつゝあるように見へる。同博士の考案は、中古式の都會の研究中、偶然にも、一直線街路よりは彎曲せる街路の奈何にも優美にして、建築美を發揮するに便利なることを發見したに起因する。千九百十年の萬國都市計畫會議の際に、同博士の爲せる講演と其出品は、正さに其理想を明瞭にしてゐる。

■東西を通じて放射線系統の極端なる街路系統を有する都市は、獨逸のカールス、ルーヘと南滿の大連とであつて

碁盤格子式の最も正確なる實例は、北米合衆國の紐育と我國の京都(桓武遷都當時の)とである、其孰れも、今日では理想的のものとせられてゐない。極端なる一方式は現今の如き交通量激增の趨勢や、都市中心の過重なる責任を全ふするに不備であるからで、殊に、晩近都市建築の進歩と與に、建築美と街路との調和を深く考ふるときは全く一直線に並列せる均齊の街路よりも、漸次蜿曲なる旋廻を爲す場合を以て優れりとすべく、又、一直線の大街に交叉する街路が、凡て或る角度を有するときは、其突角の地に優美なる建築美を發見し得らるゝことは、交通の便と共に大に利用すべき點である。對角線の大廣道を以て理想とする都市計畫論者の論據は、つまり其長所を認むるからである。北米合衆國の首都華盛頓市の街路計畫が、千七百九十年頃第一期大統領華盛頓のとき、既に對角線式の大道路を以て、中心市地區を其交叉點に造りたるを見る毎に、吾人は、都市計畫の技能が何故に其時代以後研究されなかつたかを怪まざるを得ない。華盛頓の都市計畫者ランファン氏は佛人である、同氏は色々と苦心し委員會にて其原案を作成し大体賛成を得たのであるが、其計畫發表に就きて委員連中と意見を異にし、竟に辭職するに立ち至つたのは、千七百九十二年三月にして同氏は、其原案を什うしても委員會へは提出せず、委員連を餘程手古摺らせたさいふことである。然るに、委員連は、ランファン氏の計畫案の記憶を辿りてアンドリューエリコット氏に複製せしめ、大体ランファン案に似寄つたものを作成して一時夫れを間に合はせた。其後、千八百二十五年ランファン氏死去の後其原圖案は委員會の手に戻り、エリコット氏作成圖案と比較するの機會を得たのである。ランファン氏作成の原圖案は、今はコングレス圖書館に秘藏されてゐる。

■都市計畫に就ては、獨逸は十九世紀上半期の末に既に卓越したる考慮を廻らしつゝあつたのである。若し其事情を知らんとせば、千八百三十九年英國の内閣調査會ローヤル、コンミッションに於て職工の衛生狀態改善を研究し、其關係から、家屋經營と都市計畫の有益なる報告書を發表した。其内容を通讀すれば充分に了解が出來るのである。其報告の一節に曰く、

『獨逸の新都市や舊都市の新しき部分に於ては、衛生行政の注意著しく行き屆き、家屋の配置と其家並は一定され、市民の保健と愉快の爲に十分なる施設を怠らず殊に、フランクフルト、アム、マインや、バーデン、バーデンに於ては街路と公園の優秀なるを感ず……

獨逸にては、衞生警察は理論と實際と共に發達し、他各國の遠く及ばざるまでに進歩してゐる。唯佛蘭西の如く少しく行屆きたるものは、全く獨逸を眞似つゝあるに過ぎない。之に反して、英國や亞米利加の如きは、何等見るべき施設を遺つてゐない……』と。

■獨逸都市の都市計畫が各國の夫れに一歩先んじたことは事實であるが、千八百四十二年に英國の内閣調査局にて其事情を發表した其さきに偶々漢堡に大火ありて、燒跡の街路計畫の問題が持ち上つた。而して、其擔當技師として英人リンドレーが參加して、其計畫には有力なる役者であつたのは、不思議な事と云はねばならぬ。リンドレー氏は、其後フランクフルト、アム、マインの技師として聘せられ、他の獨逸都市計畫の顧問となつたのみならず、其子エチ、リンドレー氏は、千八百九十六年まで同市の技師に就職し、獨人技師ボイテル氏と協力して同市の大計畫を作成したのである。同市の計畫は、近代獨逸都市の模範として知らるゝものにして有名なる市長アヂッケス博士は、其計畫遂行の爲に市街地區收用分割等の難問題を解決したのは隱れなき事實である。

■英吉利にては、什うしても獨逸の如き計畫を喜ばない官僚式の統一的大計畫は、民衆主義の自由放任といふ方針に一致せぬからである。現に、千六百六十六年の倫敦大火の燒跡計畫は、其當時の名建築家クリストファー、レン卿により發表され、チヤーレス王の御前會議まで提出されたけれども、かゝる計畫を市民に强制することは容れられなかつた。今日其失態を彼是云ふ者もあれど、實は、英國人は現在でも容易に斯る統一的都市計畫に贊同せぬのである。故に、千九百九年に發布されたる英國の都市計畫法を一讀するも、都市改良の大計畫を是認した文字は一句も無い。唯、問題は、勞働者住宅の改善を主眼とし、新規なる都邑開始の際に其計畫を誤らざるように注意するに止まる。素より、萬國の凡ての都市は、其街路改善に土地を收用する爲可なり便利なる法律上の權能を與へられてはゐるが、大体、已むを得ざるに出でた場合に之を適用するだけであるから、都市街路の系統を一變する如きは、英吉利の都市にては不可能である如く思はる併し、此次大戰亂の後には、英吉利の國民性も或る程度までは大陸風に化するであらう、其曉には隨分大膽なる計畫を斷行するかも知れぬ。我國にては、官民共に英吉利風の誤れる權利思想を遵奉し、公共的永遠の大計畫の爲に犧牲を惜まぬといふような大陸的氣分に乏いのは、都市計畫の如き問題に於て殊に其缺陷を感ずる。



淀川の洪水と河村瑞賢

淀川の洪水と河村瑞賢

最近三百年間畿内地方淀川流域の洪水は可成り頻繁であつた。今試みに其著しきものを記錄より抜萃すれば、

延寶二年(紀元二千三百三十四年)六月十三日、畿内洪水

六月十三、十四日兩日の大雨にて淀川筋より水溢れ、處々堤防決壞し、大和川の堤防も亦崩壞せり、それより榎並川と云ふ在所其他河内等の國まで水入りて屋梁を越へ、人畜の溺死甚だ多し、堤防決壞十七ヶ所、攝津高槻領一萬石許の處陷りて永く川と成る、

大阪は京橋、天神橋流墜、外に小橋二ヶ所、天滿橋破損、野田の町家悉く流れ、爲に溺死せし者甚だ多し(玉露叢)

延寶四年(紀元二千三百三十六年)五月八日、京都及畿内大雨洪水

五月五日の午刻より同八日までの大雨にて洪水と成り五條の橋、三條の橋流墜、大阪は四月二十六日より五月に入るまで霖雨にて天滿橋流墜、此他河内も亦洪水(玉露叢)

元祿三年(紀元二千三百五十年)八月十四日、京都及近畿大雨洪水

正德二年(紀元二千三百七十二年)八月十八日、山城及攝津大洪水

八月十八日の夜大雨にて木津川及淀川洪水人多く死す此時尼ヶ崎武庫川も亦洪水(續皇年代略記)

享保元年(紀元二千三百七十六年)五月、山城伏見、淀、宇治、木津洪水(泰平年表)

亨保六年(紀元二千三百八十一年)閏七月諸國洪水、
七月十日、大風雨、山城淀、八幡、山崎洪水、十五日亦風雨水(續皇年代略記)
亨保二十年(紀元二千三百九十五年)六月二十一日畿內大風雨洪水(泰平年表)
元文五年(紀元二千四百年)閏七月十六日京都大風雨洪水
閏七月十六日、京都大風雨洪水にて三條大橋破損四條下宮町石垣町東西の民家は二階まで滿水、二條河原東新地は水高きこと六尺餘、大和の葛城川も亦洪水にて五瀨村の民家多く漂流す(續日本三代一覽)
寬保二年(紀元二千四百二年)八月、京都及東海。北陸洪水(御當家年代略記)
七月二十七日より八月朔日に至りて畿內の諸國大風雨にて、京都三條の大橋流れ墜ち、堀川の石垣崩る、淀伏見の邊洪水云々
寶曆六年(紀元二千四百十六年)九月十六日、山城大風雨淀、伏見洪水
明和六年(紀元二千四百二十九年)八月二十六日、山城洪水
安永七年(紀元二千四百三十八年)七月二日、京都大雷雨洪水(柳營年表秘鑑、泰平年表)
七月朔日、京都大雷雨、同二日の夜洪水、禁裡築地及公卿等殿堂の塀多く倒る、所々山崩れ、家潰れ、人馬の溺死せし者六百ありしと云ふ。
同八年七月十二日及七月二十三日畿內大風雨洪水、
天明六年(紀元二千四百四十六年)六月十八日河內洪水(續王代一覽)
六月十八日の夜、河內牧方の北天河、保谷川、舟橋川等洪水、田畑大に損壞せり。
文化四年(紀元二千四百六十七年)六月二十三日、山城大雨水、淀川決、河內大水(續皇年代略記)
文政四年(紀元二千四百八十一年)八月四日、畿內及近江丹波、丹後大風雨洪水(泰平年表)
嘉永元年(紀元二千五百八年)八月十二日、京都大阪……大風雨洪水(嘉永雜記)
大風雨人家數多吹き倒さる、水市中に入り來り、川々常水より高きこと一丈九尺、慶長以來未聞なり。
安政四年(紀元二千五百十七年)七月朔日、畿內大風雨洪水(嘉永明治年間錄)
以上は、記錄の上に著名なるものを列記したるに止り其被害の程度中慘狀の奈何なるものなりしやを知る譯にはゆかないけれども、此回、新淀川堤防の一部大塚附近の

決潰に因り生じたる被害よりは、幾等か著大なるものもありしを推定し得られる。殊に、大阪市街は、淀川の大增水ある毎に浸水の被害を受けたことは、徳川氏以前より可成り著いものがあつたのである。幕府は、大阪市街の被害を少からしめんとの考より、河村瑞賢をして治水計畫を立てしめ、貞享元年其計畫を彼れに命じて施工せしめたのは有名なる事實にして、現在の安治川は卽ち其當時に開修したものである。

抑も大阪の地は、仁徳、孝徳、聖武三朝の帝都にして爾來、西海、南海出入の關門と成り、百貨の集散全國に冠絶し、徳川氏に入りては、天下の臺所として知らるゝ程に全國に重きを置かれたのである。而して、其地理上の便宜たる瀬戸内海に面して有する天然の良港も一に淀川の漫々たる水流に其價値を發揮するのである。淀川は、大阪に取り實に其生命であつて、又、同時に甚だしき災厄を被らしめたる怖るべき破壞者であつた。平靜の時は、河口一帶に大小船舶往來の便あるも、霖雨風雷の襲來あるや、水流一時に怒漲して、堤坊を決潰し、田園を漂沒し、人畜を漂流せしめたこと古來其例に乏しからぬのである。大阪の地が、我邦に於て漸次重要なる地歩を占むるに從ひ、斯の地の治水計畫は、古來數次企畫され多少づゝ河岸修築の進捗したことは事實である。之を例へば、桓武帝が攝河兩國の境界に於ける新河開鑿を施し給へる如き、豊太閤が宇治川の河道を變更せる如きは其著しき實例であつた。徳川氏に入りてより、淀川沿道の水災增々甚しく、人民の哀訴止むこと莫きの有樣と成り、就中、延寶二年六月の洪水の如きは、寔に慘狀絶大のものありしを以て同八年將軍綱吉新に立ちて、治水大計畫を企て、若年寄稻葉石見守以下有司に命じて實地踏査をなさしめた。其の一行中に實地家として河村瑞賢が同行を命ぜられたのである。天和三年五月右一行は江戸に歸來して治水の策を上申し、且つ、水源地の林木伐採が洪水の因を成すこと多きを述べ、濫伐を禁じて殖樹を奬勵すべきことを極論した茲に於て、幕府は、山林保護令を發し官民をして嚴守せしむるの手段を執つたといふことである。明治維新の際、爲政家の識見淺薄にして、徳川氏の中期以來の山林保護令を深く慮らず、各地に山林濫伐を行はしめ、明治年代の水災を劇甚ならしめた譏は今更繰り返しても詮なき事ではあるが、治國平天下の道は、緻密なる科學的考索を要するに在ること今も昔も異りはないのである。

幕府は、淀川治水工事を以て河村瑞賢に委任し、往來の傳馬朱印及配下吏員の月俸を賜ひ、又、使番加藤泰茂、

書院番堀直依、小姓組猪子一興に命じて監督たらしめた。瑞賢は、翌四年大阪に至り、先づ九條島開鑿工事を始め新に新川を開鑿した。其長さ千丈幅三十丈、後に之を安治川と名けたのである。

瑞賢は、更に複雑なる淀川尻の各部に亘りて精緻なる觀察を遂げ、中津川の水量を淀川に割くの方法を覈へて之に成功し、堂島川、曾根崎川の浚渫を始め、福島百石島沿岸の開鑿を爲し、大和川筋の治水をも一通り修築したのである。又、京橋以北の淀川本流に於ては、源八渡、友淵村、毛馬村、長柄村に亘りて曲岸を繩治すること一千丈、更に、西神崎川に轉じ、江口、吹田より尼ヶ崎に至る間を浚渫し、又、中津川一帶及傳法口逆川、四貫島等皆形勢に從ひ蜿曲に改修加工を爲し、又、淀川上流方面に於ては宇治橋下流の横堤を壞ちて河道を廣濶ならしめ、更に、淀に至るまで河心の蘆葦場柳等を剪除して河水の逼迫を少からしめた。其他、宇治山の石材採掘を禁じて、土砂の崩壞が河川に流入すること防ぎ、又、淀川下流の水底に沈沒せる多數の亂石（秀吉の大阪築城に際し水中に取り落せしもの）を鑿出して之を工事に使用せしめた如き、其用意の周到なること驚くべきものがあつた。貞亨四年京畿の治水工事全く成り、瑞賢は一先づ皈京復命した。其工事期間五年、工費幾何を要したかは知るに由無しと雖も數萬人の人夫を勞役に服せしめ、五年の日子を費したことを計算すれば、現今の時價に換算して或は數千萬圓に達したものとも見られる。

淀川の治水は一と先づ片付きなれども、更に施設を要すべき殘工事尠からぬが故に、元祿十一年、幕府は、再び河村瑞賢をして其實施に膺らしめた。其淀川第二治水工事の工事區域は、宇治川、木津川、淀川本流、神崎川、中津川、大和川及淀川下流に及びしも、其中に就て最も注意すべきものを堀江、道頓堀川南岸、富島及兩川口附近新田の開發とする。堀江は、西横堀川以西長堀、道頓堀兩川間の地域にして、元は上下難波村に屬し、四方川に沿ひて一條の民家あり、内部は一面畠地であつた。瑞賢は、西横堀川より堀江の中央を横切りて木津川に注ぐべき新河道を開鑿し。尋いで、道頓堀川南岸、古川及富島の新開地をも完成し、之を希望者に分配し了つたは、僅に半歳の時日を要したのみであつた。奈何に彼が土工の實施に偉大なる才能を有してゐたかが想像される。

元祿十二年二月を以て工事は竣或し、瑞賢等一行は歸京したが、彼れは、其年の夏八十三歳の高齢を以て沒し、鎌倉の建長寺に葬られた。瑞賢は法名にして、通名は義通

ミ云ふた。我大阪近時の發展は、彼れの治水及新田開發の計畫に其根源を有するのであることを識らねばならぬ大阪が、元祿以來洪水の爲に被りたる損害の比較的小なりしは、德川幕府の計畫宜しきを得た爲ではあるが、一面より見れば、瑞賢の治水計畫が、科學進歩の幼稚なり

し時代にしては驚嘆に値すべき精緻なるものなりしことに其根本を成せるものと見ねばならぬ。吾人は、我大阪の發展を稽ふる毎に、又、殊に此回の洪水の襲來を見ては河村瑞賢の偉蹟に對して十分の故意を拂はねばならぬものであると信ずる。



水の行衞

會員　野人生

寒い風の吹く晩である。夕暮の幕が閉ぢて人の影の朧に浮ぶ春の夜といへばいかにも興あり氣であるけれどもさすがの盛り場も寂しいものである往來の塵を吹き卷くる風は窓の障子をがたつかせる。のみならず此處の障子には硝子がない、店の外裝を修繕中の「カツフエー、ラフアエル」は目下の處二階に御客を迎へる餘裕がないのである。從つて此處の二階を特に望んで集まつた連中にとりては室の完備を問題とする事は出來ないのである。寒いけれども辛棒せざるを得ない。汚れた天井や破れた壁紙の駄々つ廣い室の眞中に食卓を四つ並べてあやしい椅子に腰を据ゑた連中の顏はいかにも緊張してゐる樣である。

「風聲會の此風は誰へ向きぢやないか」

と西側の中央に陣取つた金緣の眼鏡がいふ

「さうさなあ此の前のときも風の日だつた」と記臞のよい男は直に答へる

「誰だれ。風聲會だなんて變な名を付けたのは」「名詮自稱さ、天公亦吾黨の擧に應ずるの謂ひか」

「迷信家はさすがに違つてゐる。君の其說で行くと吾々の會の將來が危まれる譯かれ心細い話だアハヽヽヽ」

側に居る肥ゑた男が愉快さうに笑つてゐる記臞のよい男は數島の灰を靜かに灰皿に落

しながら

「こういふ會は消滅する方がよいかもしれんて」

此度は**ニッケル**の眼鏡をかけた男が口を出した。

「また例の皮肉をやつてゐる、「吾黨」の會合といふと大きいが誠意を持つて意見の交換をやり各自の智識の開發に資するといふ主張の下に集まるのだから必ずしも不穩の行動をする譯でない、消滅する方がよいといふのは心得ない」

記臆の男は濟まして數島の烟を吹いてゐる。「**ニッケル**」は相手の口元を見詰てゐる相手の口元は大隈侯爵に似て「へ」の字に閉ぢて動かない

金緣は議長といふ格で口を入れる。此男は寢るときも金緣を外す事を欲しないさうである。鼻下に美髯を蓄へ指に金環を貫くと同樣にもはや吾身体の一部に同化した眼鏡は外す必要がないといふのだ從つて時には金緣の儘顏を洗ふ折もあるとの事だ

「さあ自然消滅といふ事は人力の如何ともすべからざるものであらう。しかし今日何も將來の事を云々する必要を認めないと思ふ、風だつて強い日もあれば弱い日もある靜かな日もあれば荒れる時もある今日顏を合して樂しみ多ければ亦足れりではあるまいか」。

「しかしこう寒くてはやりきれない」

と鼻の高い男は一旦ぬいでおいた「**オーバ**」をまた着初めるその丈の高い男振りは室內を壓して熱して來た談話の膜を見事に折つてしまつた、此の男が席につく迄じつと其体度を見て居た一同は此の男から再び話の緒口を求めるかのやうであつた。

寒い事に氣の付いた「**ニッケル**」君は突然手を叩いた

「どうするんだ」と隣りの肥つた男が聞く

「**ビール**」を飲まうぢやないか

といふ却つて寒からうといふ者もあつたが決極「**ビール**」の盃を擧げる事に衆議一致した。

十二段しかない階段をトン〳〵いはせて丸顏の給仕女が上つて來た。「**ニッケル**」君は此の女に「**ニックカーター**」と徒名を付けてゐるどういふ譯だか御當人も知らないらしい。

「何か御用」とと「**カーター**」は一寸心持頭を傾けて女に有勝な姿をする

「用があるから呼ぶのだ」

と「**ニッケル**」君はぞやし付る

「**ビール**」を持つてこい

「**カーター**」は大きな眼で笑ひながら

「一本でよろしうございまつか」と逆襲する

「これ丈の人數で飲むんだ一本で足りると思ふか」

鼻の高い男が「**ポケット**」から富士の袋を取出して向ふ側にある「**マッチ**」を手を延して執りながら

「菓子があるなら何か見繕つて持つておいで」

と注意する火を付けてから思ひ出したやうに

「この間の山川樓の料理は僕あ聞いた程甘くなかつた。あすこは有名な料理屋なんだらう」

と隣に黙つて三笠の烟を吹いてゐるチョボ髯の男にきく此の男の髯は一種妙な手當を加へてゐる元來東北出の毛深い方だからもつと立派に仕上げたらよさそうだが妻君の注文もあるんだらうが無慘にも短く切り詰めてゐる。

「そりあ、料理がまづいのではなくて君がうまく食へなかつたのでせう—尤も名物に甘いものなしといふ事はありますがれ」

と至極穩かに挨拶をする。

金緣君は丁寧に包んだ風呂敷から何やら草案めいたものを取り出して眼を通してゐるその隣りに居つた迷信家と呼ばれた男が

「吾々の分際から考へると山川の料理は甘いのかも知らんが、第一流の料理とは考へられんれ品物ばかりならべて立派な器に盛つても甘いといふ實質に缺けてゐる樣だそれに値段が高いと聞いてゐる珍らしい品物を集める爲めもあらうが、安價で甘い料理といふのが僕は第一流の料理と考へてゐる。れ—君さうぢやないか」

と金緣君の贊成を促したがあいにく金緣君は料理の話を聽いて居なかつた草案と迷信君の顏を見比べて一寸返事に困つてゐる。

鼻の高い男は迷信君の贊成を得たので直ぐに引取つた。

「僕もそう思ふ。一体料理屋が二の膳だとか三の膳だとか盛んに並べるけれども僕あいつも馬鹿氣た事をするものだと思つてゐる。あれは食ふ料理でなくて見る料理法かもしれない。此點から觀察すると大阪の人が宴會に出掛けて行つて酒ばかり飲んで料理には一箸も付けずに折詰にして大きな包を抱へて歸る習慣は心得たものだと感心してゐる。東京の人が甘くもない料理を荒して濁つた酒に醉ばらつて無禮講を演ずるのは甚だ其意を得ないのみならず殺風景な話だと思ふ、僕あ料理は「食ふ爲めに造る」のが本當の料理であると信じてゐる」。

「しかし」とチョボ髯君は口を出す。「東京の料理と大阪の料理とは比較になちぬ程今日では差がありますぜ「山川」にしても「灘萬」にしても「はり半」にしても「つるや」にしても如何に料理法に苦心してゐるか君は知らないでせう此等の料理店の主人公は日本全國を旅行しては有名な料理の實地見聞をやつて居ますそれ丈け大阪の料理屋は益々繁昌して行く樣ですぜ、毎年暮になると料理屋組合が色々の珍趣好を工夫して料理法の腕競べの懇親會をやつて居ます、處がどうでせう江戸前の料理屋は段々倒れて行くぢありませんか「植半」にしても「八百膳」にしても名だけ殘つてゐるに過ぎませんし「雁鍋」や「松源」の家が人手に渡つて行くのを見ると上野の公園の大木が段々枯れる樣に寂しい悲哀を感じて、東京の料理の末路に一滴の淚を注がない譯には行きませんし此の衰亡の原因は何でせう新時代に應ずる研究を怠たつた爲ではありますまいか、昔の看板の御蔭で、或る時迄は惰性の力がありますがもう其本當の實質を失つては形骸を守るに過ぎないから滅亡して行くのです。でありますから今日大阪の料理は東京の人をも感心させて居ます。要するに大阪第一流の料理は現在日本第一流の料理といふても差支ない樣です」。

と大に大阪のために氣焰を擧げたので金緣

君も思はず耳を傾けて熱心に聞き始めた。

處へ「ニックカーター」が「ビール」を持つてくるとニッケル君は「ビール」の金蓋を抜いて注ぎ廻る一度下りた「カーター」は此度は西洋菓子の皿と櫻坊の皿とを持つてくる肥滿君は「カーター」を呼んで「シトロン」を注文する記憶の男はさつきから默つて居つたが菓子皿を引寄せて小さなサジで一角を鈇き取つて食べ始めた。

「ニッケル」君は「ビール」を一呼吸にあほつてとんと大理石上に置くと迷信君は自分の一盃を注いだものだからついでに「ニッケル」君へも注いでやる

袖へ手を入れて「ゴールデンバット」の青い箱を取り出した金絲君は吸口を欲めながら

「君は大分に研究してゐるね、近頃大阪人の活動は實際各方面に亘つて見醒しい。實業界はいはずもがな新聞にしてもさうだし、電車市營も先鞭を付けてるし、郊外電車にしても非常の發達を遂げて郊外住宅の經營や、浴場の新設備をやるし。築港は失敗に終つてゐるが大事業の一つであるし、治水事業や級水設備も完備に近づくし、又文藝方面で見ると呂昇や雁次郎や曾我廼家を出し、松竹會社の活動は東京の歌舞妓座迄も乘取らうとしたし舞踏に至つては南地五花街の昔を偲ぶ演舞場が四箇所もあるしこう四邊の活動を檢べて見ても大阪に居る吾々はどうしても一致團結して斯界の發展を期さなければならぬ樣な氣がするぢあないか」

と一同を見廻した。金緣の光は一段強く見えた。

處が鼻高君は持說をまだ述べ足りないと見へて再び料理の話を持ち出した。

「僕かあ必ずしも東京の料理と、大阪の料理とが大差のあるとは認めないけれども今日進歩したと稱する料理―世間で認めて居る一流の料理が僕にいはせると其主要な目的を忘れてゐると思ふ。研究はしてゐるかもしれないが何といつても料理は食ふ爲であるから、要するに價段を安くして味い料理でなければなるまいかと思ふ。

此時橫槍を入れたのは肥滿君である。此の男は近頃めつきり肥つて來た。酒をやめた爲だといふてゐるが肥つて來たから止めたのか止めたから肥つたのか、その處はどつちだか解らない。今日も「ビール」は飲まないで「シトロン」を命じた位だ。何んでも醫者が酒を止めないと益肥ると注意したとかいふ話だ。

「君の說は一寸偏つてゐる樣だぜ、料理を食べて快感を得るのは主として味覺に歸因するかもしれないが視覺が第一でありあしないか先づ眼で見て味さうだなといふ快感を得て大に味覺が動くのだらうと思ふ。盲人ならいざしらず。立派な眼のある人間では視覺が第一だと思ふれ藥は眼を閉ぢて飲むときもあるが料理は眼に視て快感を起さゼるのでなくては其資格に缺けてゐると思ふ、君の說で行くと色や形なんかはどうでもよい只味覺の滿足を得ればよいといふのだらう。どうしても偏つてゐるね」。

と皿に盛つてある櫻坊を味さうに眺めて居る。

「チョボ」髯君は大に贊成した。

「僕もさう思ふ、大阪の料理屋の研究してゐるのも其點でせう、どうしたら現代人の

滿足に適するかといふのに非常な苦心を拂つて居ます。夏目さんも「草枕」に此の點を論じて居られた樣です日本の料理に見た丈でも充分な價値があるといふて居られますそれに膳や椀にも工夫を凝らし皿や鉢にも趣好を盡して大に視覺を刺撃せんとして居ます、處が西洋料理法では形や色よりも鼻高君の說に基いたか知らないが滋養分に富んだのを第一として隨分いやな連想を起させる料理を出すぢやありませんか、又其用ひた材料の形や原色を全く潰してしまつてどんな材料で造つたか譯の分らぬ奴を食はせます。私は日本の料理法が一頭地を拔いてゐると思ふのであります」。

「と滔々論じ出した」

「僕あ西洋料理法が必ずしも日本料理法より優れて居るとも思つては居ないが兎も角喰ふて味くない料理や見た丈で下げる樣な料理は既に料理としての第一義を失つて居ると思ふ視覺も必要には違いないと思ふが視覺が大切か味覺が大切かといへば勿論味覺が中心となつて働くので味ふて快感のない料理は一種の墮落であると思ふ」と鼻高君は大に防戰を始めた。

「しかしれ君よく聞き給へ」と黑文字を指につまんで櫻坊を動かしながら「墮落か高尙かは衆目の視る處に依る外はないが所謂通人の間では視覺所か觸覺や嗅覺も働いて見る此等の感覺が多く働く程味覺が生でなくなる證據で今に聽覺迄働かす事になるかもしれない例へば東京の「オデンの」如き當地には「關東だき」といつて居るがあの大きな鍋のゴト〳〵煮へて居る音を聞いてると食指が動くといふ連中もある世の中だかられ。長火鉢の前で妻君とさし向ひでたぎる鐵瓶の熱燗にピン〳〵いふ音をきく亭主などは必ずしも味覺を中心としては居るまいかと思ふ。又或種の人々は出された料理が如何に苦心されて收集されたか如何に苦心して出來上つたかを考へたり聞き正すのを樂しみとして食ふ前に先づ快感を覺へる連中に至つてはもう口で食ふのではなく頭で食ふといふてもよい位ちあないかこの櫻坊にしても少なくとも其原形を保存して居るので其の樹上に在るときを聯想して一種の快感を覺ゐない譯には行かない、此の行き方で見ると料理は五感を出來る丈働かして味ふのであつて料理が滋養になるか成分かどうだとか味がどうのといふ部分的の問題を超越してもまふ樣に思ふ。」

と鼻高君の顏を見る鼻高君は急に反駁の議論がまごまらぬと見て

「僕あ僕かあさう思はないさういふ連中は所謂第一義を忘れて墮落した食客だ」と思ふ

此時後を引受けて應戰したのは迷信君である。

「肥滿君の說は至極尤もと思ふが僕の意見としてはそういふ五感を悉く働かして食ふた料理はさつぱり其味をなさんと思ふ食ふときはどうしても味覺が主であると思ふ若し味覺を主として考へん連中は味覺が遲頓となつて來たので他の感覺を手傳はせて強いて決議をむさぼるのだと思ふね。論語に「食不語」とあるがこれは食ふときに話をするなといふ意味ではなくて食ふときは專心食事をしろといふ注意であつて當時の支那人が極端に食事の際に話をしたのを諷したのではないかね。心不在是則見而不見、食

而不知味といふたのも同様の意味かと思ふ

恰も此時階段の上に現はれた男は立派な八字髯を蓄へた好男子である

「遅くなつて失敬した馬鹿に寒いね」

と南側の席につく論戦酣にして正に口角泡を飛ばさんばかりの際だから一同は寒いのを忘れてゐる「ニッケル」君は既に二杯の「ビール」で眞赤になつてゐる金縁君はいつの間にか草案を風呂敷に収めてしまつて今迄の成行を一應説明する

「今れ料理論が起つて正に酣なのさ料理は味を第一とする説と味覚丈ではいかぬ視覚を盛に働かせるが大切だといふのと二派に分れたのだが君の意見はどうだね」

八字髯は説明は聞いたが意見を出す餘裕がなかつた

「僕あどうしても食ふて味がない料理は間違つてゐると思ふ」と。

鼻高君は自説をどこ迄も主張する。

眞赤になつてゐる「ニッケル」君が此時漸く口を開いた。

「いや段々御説を聞いて居たが、此議論は相方ともに缺點がある缺點があるといふと語弊があるが相方とも其「スタンドポイント」が違ふから議論にならない、例へて見ると建築術の形式だ構造だといふのと同様だ形式論を主張するにも一理があるし構造を主張するにも一理があると同様に味覚が第一か視覚が第一かそこは観方が違つて居るのだから兩方とも議論が偏つて居る。」

「さあ建築とは比較し得らるゝものかどうか考へものだ」と鼻高君は言葉を入れる。

「まあ待ちたまへアナローヂーといふ事は必ずしも論據にはならぬにしても藝術の通有性から見て不問に附する事は出來ない殊に君の立てた議論が建築構造派の立場と全く一致して居るのと肥満君の説が形式派の論點と合致して居るのとは頗る興味のある事柄と思ふから比較したのだ」

と「ニッケル」君は飲み殘つて居た「ビール」をぐつとあほる

「いやいかん折角の議論が脱線するよ、混亂は解決の道でないかられ」と今度は肥満君が對手になる。

「さうでない混亂は却つて解決の第一歩かもしれない。しかし論點の相異を明瞭にして解決をしたいのが僕の希望なのだから敢て混亂はせしめない積りだ。兎も角鼻高君の説は一理あるにしても復雑な感覚を持つて居る多くの人間が料理に對して味覚のみに依るといふのは開けない時代は知らず今日の様に復雑な文明世界では通用しない議論だ。西郷南洲が明治政府の役人として腰に握飯を付けて通勤したとき外の役人が困つたといふ話なんかは其時代としては頗る面白い社會の反面を語つて居ると思ふ南洲にとりては山海の美味も手製の握飯には比べられなかつたのだ。西郷は即ち鼻高君の意見を持つて居たのだ形式も外觀もはたまた内容の如何迄も敢て問はず自己の單純な味覚の満足を得れば足りるといふ主義であつた。乍然南洲の様に極端迄行くと料理ではなくて食物である。食は身を養へば足るといふのである。斯んな時代には服装にしても建築にしても頗る單純で其目的を達すればよかつたのだ、乍然衣食住とも人間の欲求が復雑になると共に其

目的にかなつた丈では滿足が出來なくなる。茲に快感の追求が藝術と早變りをして第二義第三義の要求が第一義と同じレベルに頭を出してくる。こうなると最後はどれが主か全く解らなくなつてきて始めて本當の目的はどれかと詮鑿を始める樣になる鼻高君は果して此詮鑿の立場に居る人か亦は南洲の樣な原始的の立場に居るのか一寸不明だが若し改革者の立場に居るならば君は敢て食物といはず料理といはず劇にしても建築にしても繪畫にしても同じ立場からの觀察を下さなければ君の說に權威がなくなる。料理論は詮鑿派だが劇はやはり舊劇に限るといふなら矛盾が起るぜ」

と「ニッケル」一流の駁辯を弄し始めた。鼻高君は一寸判斷のつかぬ顏をして居たが

「なんだか君の話は混亂していかない今は料理について議論をして居るのだから劇の新舊を云々せんでもよいではないか僕にいはせると詮鑿派だか原始派だか知らないが今日の料理が其正鵠を失つて居るといふ點にあきたらないのさ」

「いや少しも混亂にはなつて居ない、舊劇は所謂形式派の建築と同じ樣に獻立が中々むつかしい鳴物が入る鈍張か入る花道が必要だ廻り舞臺がなくてはならぬといふ樣に之を觀る連中も芝居行の服裝から改めて出掛け茶屋から入場して平土間や出孫に陣取つて御馳走を食べながら見なければ收まらない、それだから此連中には芝居を視に行くのではなくて觀られに行くんだといはれて居る丁度料理が觀る料理と食ふ料理との別があるのと同樣ちあないか」

肥滿君は大に贊成して話につりこまれる

「劇の通人になると東京では所謂立見に出掛ける大阪にはないが動物園の樣な金棒が立つて金網の張つてある所につかまつて阿彌陀の中折帽子を眞深にかぶりわざと目立たない風をして見るのが樂しみだそうな。此連中が善い幕を漁つて歩くのは丁度芝居裏の出店に關東だきの立食や魚河岸の張店で小指で壽司をころがすのと同日に語り得る程度の快樂をむさぼるのでこんなのは味覺が主であるのとは異つて其場所や行動に趣味を持つた連中であると思ふ。」

「おい〳〵君からして脫線しちあいけないちあないか」

と迷信君が注意する。

「ニッケル」君はまだ後を續ける

「今の立見の連中や張店を漁る連中は快樂をむさぼる立場から見ると如何いふ立場に在ると思ひますかいはゞ普通の標準から脫線した連中でこういふのはつまり極端に走り過ぎたので何が主要な快樂か一寸見當が付かない時代時代の末期になるが斯ういふ連中が活動する足利時代の末期の茶屋建築や復興期の後りのロコヽ式などは此の部類に屬します。古羅馬の末期に御馳走の連續を防ぐ手段として食ふた料理を吐く事を初めてそれからといふものは山海の珍味を食ふては吐き食ふては吐きして一晩に何軒もの宴會を飲み廻つたなどは面白い一例だと思ふれ。最後には食物を吐くといふ事に趣味を持つ樣になつたかもしれない。」

「ハヽヽまさかそんな極端に迄行けるものか然し今の話はたしか夏目さんの猫

に出て居た樣に思ふ」

と迷信君がスッパ抜く

「いや解りませんぜ人間のやる事は隨分想像の範圍を通り越す事がありますから れ支那では豚の料理が色々ありますが料理の方法に苦心して最後には不意に豚を叩き殺して直に料理した胞の肉はなんともいへぬ味があるとかで大變流行したなんて話を聞きました。罪なくて配所の月を見たいといふ位な道樂は往々ありますからね。自分の戀人に恐迫されるのが面白いといふて態々土藏の中で鎖に縛られたなんて話もありますぜ」

記臆の男が此時口を入れた

「僕にいはせると出された料理が毒かどうかを吟味しなければ食ふ氣にならん」

「それ見たまへ斯ふいふ人がある普通の人間では味さうに見へる料理は直ちに口へ入れたがるが苦い經驗のある人か用心深い男かさもなくば恐怖時代の御馳走には用心が第一となつて御毒味役といふ大切な役目が設けられた樣に吟味が第一となる斯ふいふ人々にとりては御馳走が御馳走になるまいと思ふ。乍然食べる前に一應の鑑定をやるといふ事に趣味を持つた人にとりては其御馳走を鑑定してゐる間が何ともいへぬ快感を味ふ事が出來る事になりはしないか。」

金緣君は意外の事を聞くもの哉といふ顏付で

「成程色々の人があるものだな。其説明で行くと乃木大將の食事なんかは山盛の一杯飯であつたと聞くが大將も食ふ前に一種の快感を味はれたかもしれないね。しかし要するに君の議論は料理をどう見るのだ。」

と質問を發した。

「さあ乃木將軍の食事は見樣によつてはさう見られない事もないがまあ南洲の辨當と同樣に原始的の食事と見る方が穩當かと思ふ。處で僕の意見といふのはさつきもいふた通り料理術にしても建築術にしても……」

「比較論は混亂していけない」

と鼻高君が注意する

「いや混亂はしないが要するに凡ての藝術は時代時代によつて其定義も原則も學理も變化して行くものだといふ事が眼目だから異つた時代異つた見地から見た立論は論にならないと同時に或立場から論じて行くと偏つた議論になつてしまふ」

「それで君の自説はどの立場から見るんだす」

とチョボ髯君が突貫する

「僕の持論は詮鑿にあるんだ今日の日本料理は德川時代の後を受續いた料理法であつて多少進歩轉化の跡はあつても其形式や習慣は殆んど德川時代の作品の摸倣であると思ふ。丁度日本建築が今日行詰つてるのと同樣だ。食物といふ食物は數は增加して來たし洋風料理が加入して來たには異いないが主要とする米と酒と魚と菜それから醬油と砂糖塩と味淋などの基本材料に變化のない間は或程度迄摸倣より方法がない樣だ。乍然材料が變化をすれば樣式が變化をするといふのは、材料からのみ見た方則で僕から見れば人の頭が變らなければいくら新しい材料が出來ても駄目と思ふ。術の變化は人に在つ

て物にない材料の變化も人の思想が變化するので用ふる材料が變つてくるので今日の樣に洋風の材料が澤出輸入されても人の思想が洋風か和風かの一方にのみ偏つて居る間は到底料理術の進化は出來ない」

「大分長いれ今少し簡單に出來ないか」

と八字髯の君があくびを噛みながらいふ

「料理術も今日の樣に行詰つては革正を絶叫する鼻高君に贊成をするが今の時世に一般に視とめられてゐるのは確かに肥滿君の說に近いものである。換言すれば世は明治から大正の御代となつても料理術にあつてはまだ〳〵德川期の手法を用ひて居るし食ふ連中も殆んど德川流に味つて居る樂しむにしてもやはり江戶式か難波式の樂しみ方をつゞけてゐる。早い話が米、酒、砂糖醬油なんど皆元祿頃の發明の恩澤を蒙つてゐるのだ。爛熟した德川藝術の賜だから多少はロココ式の部分もあるのだらうと思ふ若し明治時代の產物として特筆大書すべきは牛肉屋である豚や牛肉の食べ方を發明したに在る。大阪神戶の精肉屋の繁昌を見ると日本人も馬鹿に出來ないと思ふれ。乍然其頗る原始的な食ひ方には亦更に感心せざるを得ない。

「牛肉屋は料理屋の分類に入るかな」

とチョボ髯君が首を傾ける

「劇でいふと新派といふ處だ」

と肥滿君が說明する

「すると大正時代に勃興した新劇團と相應じて大正式の料理屋を經營する必要が起るれ。」

と金緣君が口を出す

「大正藝者といふのも出來てゐるぜ、然しどうも新しい奴はいかにも粗製濫造的の嫌があつて面白くないれ。」

と肥滿君がいふ

「要するに、今の時代は新しい吾々の滿足を得る樣な新料理を要求して差支ないと思ふ。吾々建築家が努力し又努力せんとするも同樣で大正時代の建築界をして今少し活氣あらしめ一層の發展を期する終局の目的は大正の新建築を打出しやうといふのに歸着するといふ、關西の建築家は須らく關西の料理家に劣らざる努力を拂ふ必要があると思ふ」

「カフエーラフアエル は正に大正の料理屋でないかな、若い建築家が集まるに適はしい名だと思ふ」

と鼻高君が氣の付いた樣にいふ

「さあ此頃繁昌して居る「カフエー」や「バー」は正に新劇團に相當して居ると思ふ其洋風の摸倣といひ何處迄も「バタ」臭い行き方や新しい連中を御常連としてゐる處は全く似て居る乍然此の行方は德川流の行き方と方向は全然反對だが手段は全く同樣だ摸倣に過ぎない殊に料理といふ點については全く考へて居らん樣だ「ピヤノ」を置いたり新しい女を並べたり「セゼツシヨン」風の道具建を拵へて場所其者から新しい感じを與へやうとして居るのだ「デカタン」黨の跋跨するのも無理はないれ」

此時ドン〳〵上つて來た若い男がある實際に置いてある「ピヤノ」の前に腰を据ゑて何やら曳き出した

すると又一人ヨロ〳〵上つて來たのはハゲ頭の肥太つた男だ年の頃四十四五、大分に

聞こし召したか金時の様だ一同は思はず注目する、男はフラ〳〵と南側の方に割り込んでチョボ髯君に話かけた。

我輩も「デカタン」党の一人だ、しかし生れは天保御陵で大正の御代にも生き延びて、エツゲップ……」

と嗅い呼吸を吹き掛けた。

「ざうやら今日の會合もすつかり脱線して目的の議題を研究する事が出來さうもない。君何時だ」と金縁君が迷信君を顧みる。

「オヤもう十時になるそろ〳〵引上げやうか」

「まあ待ち給へ我輩だつて君等の仲間入は出來ん事はない」と「デカタン」君は迷信君に棹を向ける。

「エライ料理論が出來上つたれ、誰だ一体話の糸口を引出したのは」と肥滿君が立上る。と同時に大きな「アクビ」をして兩手をグット天井に突上げる。

風はざうやら止んだ様だ芝居がハネたか往來は雜沓して居る此連中が去つた跡の二階には一人得意の「ピヤニスト」が琴である亂調子と

「今の若い奴等は駄目だ〳〵」と殘りの「ビール」を傾けて居る自稱「デカタン」の爺と

窓から風聲會の連中の後姿を見送る「ニックカーター」との三人が殘つて居た。



石と日本人

會員　大蘆生

石について自分の感じた所を述べて見たい幸に貴重なる誌上の一隅を拜借し得れば此上もないことである。

圖㊀今日でこそ石造の建築はさまで珍らしくはないけれども明治の初年に東京と横濱間に鐵道の敷設されたとき新橋驛と横濱驛とが石造の大建築として當時日本人の眼を驚かしたのは想像に難くないと同時に眞に隔世の感がある。

圖㊁新橋驛が東京驛となり横濱驛が新築の大建築となつた様に新日本の興隆は世界の耳目を聳動させ今や東洋の覇權を確實に掌

握するに至つた顧みて五十年眞に夢の樣である。

■■乍然此半世紀間の活躍は實に多事多難なりしことを忘るゝ事は出來ないのである國運を賭したる兩度の大戰役が如何に國家の財政に影響せしかは東京驛が十年餘の歲月を要したるのみならず新裝の橫濱驛にしても今の新橋驛にしても共に煉瓦造の建築であつて外裝に石材を混用してゐるのを見ても解るのである。

■■大正の今日でも經費から云ふても外觀から視ても第一流の建築として石造を擧げなければならないが我國の財政に餘裕のない現狀は石造建築の振はざるを視て證する事が出來るのである。試みに指を屈して數へて見給へ思半ばに過ぎるのである。

■■大阪では先づ大支關の梅田驛、中の島に東から數へて大阪圖書館、日本銀行、大阪支店、日本綿花株式會社の三建築、堺筋高麗橋方面に愛國生命保險會社、三井物産株式會社三井銀行大阪支店の三建築、尙船場の西部には三菱銀行大阪支店と三十四銀行本店と朝鮮銀行大阪支店それから最近に出來上つた日本貯藏銀行がある。

■■此等の中心地を離れた新町に三井銀行西支店があるのと不動貯金銀行心齋橋支店と本町三丁目にある川崎銀行大阪支店とがある位に過ぎないのである。そして高麗橋通にある第一銀行大阪支店が此等諸建築の先達であるとして見るとかれこれ三十年の歲月を要して居るのであつて眞に曉天の星も啻ならないのである。

■■それでも大阪はさすがに商工業の大都市であるから十指に餘る大建築が經營されたのであるが東京を見給へ、日本銀行を中心として村井銀行、森村銀行、日本貯藏銀行等の新建築が日本橋附近に散在して居る外は上野に建てられた表慶館と十有餘年を費やして竣工された東宮御所が青山高臺に建設されたに過ぎない樣である。

■■京都には三井銀行と明治火災保險と日本生命保險と村井銀行と及不動貯金銀行支店を數へる位であつて、神戸には三菱銀行と三十四銀行と新裝の三井銀行の三支店を擧げ得るのみであると同時に。寡聞の自分は漸くにして以上の諸建築を想ひ浮べる事が出來たのである。

■■建築材料としての石材は島國であり山國である吾國には寧ろ豐富である事を主張したい、然るに此等大建築が何れも花崗石から出來上つてゐる事實は頗る注意に値する事と自分は思ふ。それはさもかく斯くの如く石造建築が寥々たる所以は何であるか材料は豐富にしても之れが工作に運搬に多大なる勞費を要するがために財政の餘裕なき國家經濟が明瞭に其證左な都市建築の上に示して居るのではあるまいか。

■■明治四十二年の秋と記憶する建築學會の講演で伊東工學博士は將來の吾國建築に就いて達觀せられ世界を擧げて大建築らしいへば石造建築を採用して居るに係はらず獨り吾國のみ二千年來木造建築一點張なるを痛歎せられたが由來日本人と石との關係が頗る冷々淡々たるには必ずや原因のなきにしもあらざる事を忘れてはなるまいか

■■埃及人は西洋紀元の五千年を溯つた頃から石と親しい關係が出來て居た。そして年々氾濫するナイル河沿岸の國民が植物としては河中の蘆と耶子とよりない國土に泥

壁を築いて家を造つたのは止むを得ざるに初まつて國王の賢者が洪水期に産を失ふ民を撫するの便法として「ピラミツド」の大土木に努力せしめたのは國家經濟の然らしめた結果であろうか。

■■今度の洪水の慘狀を視てもナイル沿岸の民が年々歲々の苦勞苦役には閉口した事が痛切に察せられるされば後年都はメンフィスからテーベーに移され「ピラミツド」の大土工は止んで大寺院の建設に努力する樣になつたが愈石との關係が密接になつたのは爭はれない事と思ふ。

■■埃及人がカルナークを中心として活動する時代になつてはナイルの兩岸は千丈の絶壁であるがために僅小な沿岸の平地に安住するの餘裕を持つ事が出來なかつたからこう〳〵岩窟を穿つて石の內に家を造り寺院を掘鑿するの大努力を惜まなくなつた時にはもう埃及人は石から產れて石の中で活動し石の中に葬られる國民であつた。

■■希臘の國民が頭を出して來た時は學問藝能に於て埃及民族を師と仰がねばならなかつた元來が石に關係のなかつた國民だが先生が石から產れて居る以上は弟子として石を疎んずる事は出來なかつた。加ふるに猫の額の樣な希臘の國土は早くから木材の拂底を告げて石と親まざるを得ざる破目に陷つた。まして や朝に敵を攻めては夕に仇に圍まるゝ國民は國費を拋つて都市の防備に全力を注いだのは無理もない。

■■武で鳴つた「スパルタ」武士は常に進戰を策の上なるものとした結果都市の經營には腐心せなかつたけれども「アテン」の民士は富强に乘じて大土工を劃策して雄大の氣宇を殘して居る況んや。雨量の少ない多島海沿岸の民が石の家に愉快な安寧を樂しんだ跡は歷々指摘出來るのみならず後裔を拜する歐米諸國民が其遺業を歎美措かざるは自然である無理がない。

■■されば羅馬大帝國の大廈臺にも石造の建築は其背景となつて居る。白大理石の黃ばんだ色の建築が起伏する丘陵の上から紺碧の空に瞭然として浮ぶ景色は今尙遊客の曳を留めて懷古の憧憬に歸るを忘れしむるといふのは渾然として大自然の裡に畵かれた約束であると思ふ。

■■羅馬を荒し羅馬を破壞した「ゴート」民族は北方の蠻民であつた連年南征の凱歌は「アルプス」の森を震動させたが結局頽破の羅馬より物質的に得る處は何もなかつたにしろ。石や煉瓦や「コンクリート」の建造物が各所の要害を扼せるを見て得る處は頗る多かつたに違ひはないされば にや元來多產でない石材をも採集して彼等は其城砦を築き其寺院を建設するに至つたのであろう。

■■「ゴート」民族はこれがために南方の民族の知らない苦心を味つたのである如何にして細小なる石材を積んで古羅馬に劣らない要害を建設し得べきかとは彼等の相傳へて解かんとしたる問題であつたに違ひはない。されば中古の武士傳話の中心地は彼等の據つて以て野の敵を腑瞰し得る城堡であつた。それと同時に彼等が在天の靈威に憧がるゝ祭壇の寺院は一族の勞費を惜しまずして建設する處であつた。

■■斯くの如くして歐洲の天地に活動し活動しつゝある民族は傳習の久しき、經路の悠遠なる。國土の切實なる關係から石に對して親しまざるを得ざる人民である彼等が

今日迄に相繼ぎ相應じて石造建築の都市を到る處に建設し得た主要なる理由は歴史の然らしむる處。天然の然らしむる處。民心の然らしむる處である。

■然るに古來二千餘歳吾大和民族は今に到つて尚木造建築裡に安眠を樂しめるは世界的に觀て一種の奇觀たるを阻げない蓋し國土の自然が要求する當然の結果であるのである。寒帶に起つて熱帶に亘る我國は主として溫帶に横はつてゐるのである。加ふるに洋々たる黒潮の海は吾國の空の色をも淡青にする程水蒸氣を擧けて還つて居るのである雨の多いのも是が爲である。

■溫帶に位置を占めて居る日本人が溫かな性情を供へて居るのは自然であると同時に平和な天然の恩惠を樂しみ何處迄も此平靜な天地に自然其者から受くる領域を離れまいとする思想が横溢して居るのを見逃す事は出來まいか。

■試に其年中行事を見ても解る。嚴寒に香露峰の雪を問ひ。梅見に轉ぶ所迄も出掛ける風流心はあつても氷を碎いて船を進め雪を犯して目的地に到達せんとする覇氣や功名心はあまりなかつた樣だ、それと同時に都の夏に面を晒して白河の關に遊び道場の中で熱汗を流す修行心はつてあも名山大川の暑熱を訪ふの士は少なかつた樣だ。

■實際日本では石を見て冷い寒い寂しい感じを受ける外、暖い溫みや親しみを寄する事は中々出來ないのである苦むす巖や石燈籠を愛しても其風致や狀態を稱するのであつて石其物から何物を得られやうか。只夫れ無言の石塔や石地藏尊に連がる愛情は冷々淡々として些の暖か味を宿さないのである。

■これも無理がない一千年の大昔から現世を冷眼に觀る佛陀の教は深く濃く日本人の心臟に染み込んで大正の今日に至つて居るのだもの。何んで堅い〳〵其感情を柔ぐ事が出來やうか。まして植物に緣の深い坊さんは家でも食事でも衣服でも植物からのみ其材料を工夫して居るからである。

■然しながらと申したい此等の坊さんが日本人を指導した時分は今でいふ時勢の先達で新智識で技術家で先生であつた。そして其時分の佛教はまだ〳〵現世への執着が盛んであつたから御寺でも石疊や瓦敷を用ひ礎盤や礎石の大きいのを建築の土臺に用ひたものである壁や屋根でさへ鑛物質の材料を盛んに用ひてあつたのである。

■其時分の人間はやはり氣を大きくして石の上に九年十年の歡樂を喜んだものであつた。都が奈良の地から京都に移つてからはがらつと人間の心持が變つて來た。世間を廣く、唐天竺を跨に掛けて來た人の子や孫は東山三十六峯の雪月花を樂しむ樣になつてしまつて石や瓦や土なんぞいづれも緣が薄くなつてしまつた。

■太平の夢の幾百年。そのあげく世は麻の如くに亂れ人の氣は荒く英雄雲の如くに躍ごり出した元龜天正から文錄慶長へかけては佛も「ヘチマ」もなくなつて現在の欲求に望蜀の焔が燃えて堅い強い重い硬い心と心とが盛んに衝突したのだから柔い輕い弱い軟い植物性を忌んで鑛物質の材料を愛する情が燃えだしたのである。

■其頃の建築は石に再び緣が結ばれた、否、石の城、石の門、石の扉、更に進んで石の家も出來さうであつた、豐公の雄圖は

消えて跡なき夢であるが錦城の巨岩は何を
か語る。千代田城の規模は誰の手に出來た
か。併しそれも束の間「歡樂極まつて哀傷
多し」豪華に誇つた桃山期にも世の中を棄
にして暮した連中の思想が英雄の心迄も搏
つてしまつて反面に植物的反動が漂つて來
た。

江戸三百年の平和の小天地。狹く少さ
く壓せられ拘はれて折角の大機運もあたら
消滅して「石が浮んで木の葉が沈づむ」世の
中と相成つては因習の久しき恐るべき惰性
の勢はあはれ大正の新時代迄も及んでいる
のである。

斯くの如くして新日本の大天地にも陰
氣の影が付纏ふているから吾々の頭にも心
から石と親しむ氣になれんのではなかろう
か、否々、もう早や時勢は違つている此頃
の日本人は「アルプス」越をやる。「スキー」
隊を編成する。熱汗淋漓「バツト」を振ふ健
兒團がある。遠征萬里黑潮を乘切る娘子軍
があ
る。

眞に是からである。日東帝國の新國民
が現世の執着を積極的に活躍させ貧弱と輕
薄と冷淡と優柔な植物性を捨てゝ堅實な強
固な剛重な雄健な鑛物的建築を吾國土に建
設しなければならないのは。

熱するはよし乍然熱し易きは亦冷え易
い。殊に石に於て然りである。吾國先覺者
たる建築家が進んで石造の建築に雄大の思
想を倶楽するのは自覺であり覺醒であると
同時に國民的思潮の指導であり革進である

過去は將來の源泉であるとせば此雄大
の覇業もあたら三代にして逸するの前例に
陷らない樣に心掛けねばなるまいか。石造
とせしへば花崗石をのみ愛する日本人の氣
がしれぬ。一得あれば一失ある堅い強い御
薩石は誠に美しい男らしい顏をしてゐるけ
れども存外火に脆い、熱に浮かされる憂が
あるのである。

白い淡い色、それは日本人の淡白な思
想を語るものとすれば花崗岩を日本人が愛
する至情は無理もない。乍然茲迄木造一點
張で押通した日本人が是から新しい舞臺に
入る大切な時に其短を捨てゝ長を執る主旨
に合致はするとはいひながら工作に運搬に
價格に最も條件の多い此奴をのみ好愛する
は覺醒であろうか自覺であろうか。

由來火の國水の國、朝に御江戸の花が
咲けば、夕に難波の水が出る。火成岩やら
水成岩は到る處に人待ち顏で開としてゐる
のである。火に弱い奴の面ばかり幾十返も
磨いたら折角の色男振も元祿姿になつてし
まいはせぬかと危まれる。

由來建築は男性的な藝術である內外共
に雄大な思想を基礎として何處迄も男らし
い連中を驅り募つて大正の新建築の建設に
努力し進んで國民思想に健實なる岩石の友
人がある事を知らしめたいものである「日
本人と石」との關係も考へて見ると種々の
連鎖があるものである。



パルテノン哀話

——建築史ローマンス——

會員　須藤眞金

「流人」が出來上つた。

フイデイアスは、がつかりした樣に鑿を拋り出して、どかんと淺い椅子に腰を落し、眼をすゑて自分の作り上げた高浮彫を凝視した。

雪の樣な大理石の面には**大アテネ**の建設者、一世の巨人**テミストクレス**が今日は世に五尺の小軀の置き處も無い流人の身の上と成つて、今や**ギリシア**の仇敵**ペルシア**の都**スーサ**に落ち延びる爲めに人目を憚る女車に身を載せ樣とする悲しい姿が刻まれてゐる。

フイデイアスは何日も制作の後でする樣に泌み〴〵と自分の鑿の跡に見入つてゐた。その裡に不圖心の奥底に今迄曾て經驗しなかつた、或る不思議な感觸が湧き出した。彼れは今日初めて自分の作品に對して滿足を覺えた。制作にかゝる時、心の裡で思つてゐた丈けの構想を悉皆り其の大理石の上へ握み出して了つた樣な心持がしたからであつた。

女車に片足を載せて一寸振りかへつて、一樹の蔭を賴んだ**ミーシア**の小邑に名殘を惜む**テミストクレス**の顏には、鳥の羽音、虫の鳴き聲にも心を戰かせて、あはれ寂しく歩して**マケドニア**の山地を過ぎ、輕舸に棹さして**ナクソス**の島に漂ひ着いた、艱難辛苦の跡が一條の皺の裡に遺憾なく刻み込まれてゐたのだ。そして其の瞳孔の葡萄色の彩色（ポリクロー）からは政敵の卑劣な術數と、陰險なる友國**スパルタ**の奸策とに對する憤怒の熱線とが、**テルモピレー**の戰ひの矢よりも繁く拋射されてゐた。

フイデイアスは今自分で刻んだ大理石の垂直な面に浮き出してゐる。その「流人」の下顎骨の張つた頰のあたりを夢心地に見入つて居ると、滿足の情がしん〳〵と身內に漲つて來るのを感じ初めた。そして其の滿足の堪らない快感に魂を浸して、未だちつと美的恍惚を貪つてゐる裡に、今度は其れ

がふと秋らしい寂しい氣を起させたのであつた。

いやに淋しく成り出したのでフイデイアスは妻のアスペシアを呼んで世間話に氣を紛らそうかと思つてゐる處へ、唐突に扉を押し明けて其處へ建築家のイクチノスがぬうつと這入つて來た。

フイデイアスも建築家なんでは有るが然し彼れは建築師としてよりも、又畫家としてよりも、彫刻師として知られてゐる聲名の方が餘程分量が多いのである。

「やあ、いゝ處へ來て吳れた。ふつと怎う妙に淋しく成り出してねゝ、話相手が欲しいと思つてゐた處なんだ、まあ掛け給へ」

フイデイアスは左も嬉しげに、いそ〳〵と立つて親しい友を迎へ、椅子の一つを側ろに指し勸めた。

「いや、こりやあ怎うも痛み入ります。」

イクチノスは輕く會釋をして椅子に腰をおろし、ぐるつとアテリエ中を視線で撫で廻はした。そして直ぐに「流人」に眼をつけた。

「出來ましたね」

そう云つて、出來たての浮彫の大理石の匂を嗅こうとする樣に、その傍へすり寄つた。

「アテネを趁はれて落ちて行く、テミストクレスですよ」

フイデイアスは腰を掛けたまゝで說明をした

「成る程」

イクチノスは吸ひ付けられた樣に、滑らかな石の面を見入つて何時迄も感歎を續けてゐた。

「自分の建設したアテネに趁はれ、姿を窶し身を忍ばせて悲しい漂泊を續けて行く英雄の心持を表し度いと思つたのさ、廣いギリシアにも身の置き處が無くなつて之れから敵地スーサに遁げ延び樣つてはテミストクレスの氣持が出てるか怎うだね」

イクチノスは何とも答へずに未だ石の面を見入つてゐる。それでもフイデイアスは調子に乘つた樣に熱を込めて言葉を續けた

「サラミスの水道でペルシアの大艦隊を粉碎したテミストクレスぢや無いか、スーサに入る日には征服の大旆を飜して、肥馬に跨つて堂々と乘り込む事は思つたろうが、女車に姿を匿して、羽を失つた鳥の樣になつて、すご〳〵とペルシアの都へ漂泊い來ようとは夢にも見なかつた事だろうね僕はその哀愁をれらつたんだよ」

フイデイアスは馬鹿に亢奮して涙を流してイクチノスの肩を打ち叩いた。

「先生は、ちやあ今度の事を豫知してゐたんですね。」

イクチノスは纔にふりかへつた。彼れも大變亢奮して、何か堪らない感動が胸にひしひしと込み上げて來てる樣な容子である

「今度の事とは？」

フイデイアスは訝しげに眼を瞬つた。

「矢張り先生は未だ御存知ないんですか。クレオンの中傷の一件を」

「クレオンの中傷と云やあ、又何かペリクレス君の身の上に誣告が被せられたのか」

フイデイアスは不安そうに問ひ返した。

「クレオンの奴、ペリクレスさんには到底歯が立たないと諦めを付けて、八ツ當り氣味で貴方に突つ掛つて來たんですよ」

イクチノスは忌々敷げに答へた。

ペリクレスと云ふのはアテンの民心を一身に集めてゐる大政治家で、全國民の代表者として丁度アテン共和國の大統領と云つた位置をしめてゐる英傑である。彼れは其の比類の無い海軍力を持つてアテンの武威を輝かしたばかりで無く、科學の發達、敎育の普及と云つた事にも大に功績を殘げて又アテンをしてギリシア文化の中心としたのであつた。そして未だ其の上に藝術の奬勵者であつて、友人フイデイアスを主宰として澤山の美術的大工事を營んで到々アテンの市民と云へば皆んな美術の愛好者だと云ふ風に馴致して仕舞つたのであつた。

フイデイアスは又思想や見識に於ても當代第一流の人物で、能くペリクリスの思想に通じてゐて、彼れの美的計畫の翼贊者としては誠に申分の無い美術家だつたのだ。

又クレオンと云ふのはペリクレスの政敵の浮浪政治家で、一度は官金消費の罪を被せてペリクレスを彈劾して、とうとう裁判の結果ペリクレスに重き罰金を課し、將軍に撰擧される資格を剝奪して全く一私人の位置に擠す事に成功したのであつた。然しペリクレスに對しては兒童が茲母を慈ふが如きアテンの市民は直ぐにクレオンの成功を轉寢して、再び總大將に擔ぎ上げて仕舞つたのであつた。

「ハ、ハ、ハ、そうですか、然し僕に何か因緣を付けられる樣な落度が有つたかれ」

藝術家肌の、何處迄も卒直なフイデイアスは高らかに打ち笑つて、イクチノスの顏を眺めて返答を待つた。

「クレオンの云ひ草は怎うなんですよ、アマゾーンの上に建てたテゼーの勝利を彫つた女神の楯にれ岩を支へてる老人が彫つて有るでせう。あの老人は先生が自分を刻んだ物だと云ふんです、其れから投槍を投ろうとしてゐる勇士の顏はペリクレスさんだつて云ふんです。そしてれ、女神を煮汁に使つて自分達を永久に記念し樣と云ふ冒瀆の罪は將しく追放に價してゐるつて主張し出したんです」

イクチノスが唇から言葉を一つ宛出して行くに從つて、フイデイアスの顏は次第に曇つて行つた。そして腕が自づと胸の上で組まれ、頭が地にうなだれて行つた。

「私は今の今までアノ老人が自分に似、アノ勇士がペリクレス君に似てようとは氣が付かない事だつた。そう云はれて見るとクレオンの云ふ通りかも知れない。又似るべき筈だものなあ」

フイデイアスは獨り言の樣に呟いて深い溜息をついた。實際彼れのモデルは只自然其物丈けでは無かつた。彼れは始終心の裡に美の或る典型を組立てゝゐた。それはホーマーの詩に憧憬を燃やした事も有つた。然し又自分自身や親友のペリクレスの現身をば理想化して見た事も有つたのだ。

兎に角フイデイアスは何時もモデルを前に置てそして自分自身の頭の裡の幻影を石に刻んでゐたのだつた。

「浮浪政治家の筋書通りに、先生は怎うしてもアテネから追放されなければならない樣にもう輿論は決着してゐるんですから、殘念です」

「之れも運命だ、是非も無い」

二人は「流人」の前で淋しい沈默に包まれて佗しく顏を見合せた

◆

追放人フイディアスを乘せた小舟は今アツチカ洲の海角スニオン岬を廻ろうとしてゐる、さらばアテンよ、花のアテンよ。多情多感の追放人は舷に延び上つて經つて行く心の故郷に名殘を惜しんでゐる。

アクロポリスの丘の頂には三層の石階を敷いてあの諦めても懷かしいパンテノンの姿が突立つてゐる。其れは此の追放人が主宰の許にカルクラチスとイクチノスとの兩建築師が設計した殿堂で、正面の八本のドリツク柱は悠揚として重いフリーズと廣いペヂメントとを支へてゐる。そして其のチムバナムの群像もメトープの浮彫も皆んな此の追放人フイディアスの彫刻なのである

それで彼れは舷から小手をかざして延びあがり延びあがり、しみ〴〵と其の造營の頃を懷かしんだ。

フイディアスが得意の妙腕を振つた彫刻の形態は空間の經りの爲めに眼に見さだめる事も出來ないが、周圍に柱を建て廻はしたペリプテラル、オクタスタイルの、美しい建物の姿は空氣の透明なギリシアの蒼空の裡で旭に白くクツキリと浮き出してゐる

「偉大なる彫刻よ」

フイディアスはその建物全体に向つて思はず感う叫んだ。彼れは今日程美しく其建物を打ち仰いだ事は無かつた。平面を持つて形成された様に打ち見へる其建物は、事實種々雜多な曲面を以て圍まれた錐体なのである。それがギリシア建築家の崇高な特技なのであつた。

ギリシアの建築家は水平な線が地上に向つて彎曲してる様に、又高い垂直線は前方に傾斜してゐる様に、眼に映る錯覺を數學的に研究してゐた。それで建物の全体は何處一つとして、いと細微な視管の要求をも辱かしめない様に必要な彎曲を考慮して設計すると云ふ事が建築術の第一義になつてゐたのだ。

そしてパンテノンはその完全な傑作であつた。アクロポリスの丘の上には未だ思ひ出多い建物が群集してゐる。

パンテノンの前方には稍低く城門が屹立してゐて、その背後には高さ四十七呎のアテナの巨神像がそゝり立つてゐる。神体は象牙、頭髪武器及び服裝は黃金で彫刻してあつて燦爛として四邊に光彩を放つてゐるそれも此の追放人の作品なのである。其れから尙其の丘の上にはディオニシノスの劇場やペリクレスの講演場等の大建築物が壯を競ひ麗を誇り合つて竝び建つてゐる。

フイディアスは眼に其れ等の建物を次き次きに眺め渡しては、心に追憶の繪卷物を繰り擴げて、なつかしみ、なつかしみつゝエーゲー海の小波に搖られて行つた。

心なの船は追放者と其の離愁とを載せてスニオン岬を廻つて了ゐた。

アテナの街が見へなく成つた時、フイディアスは不圖「流人」を完成した時と同じ様な淋しい「心の滿足」を覺へ初めた。そして此の追放の途が何となく墓はしく嬉しい様な心持さへが胸の隅に湧き出したのであつた。

紀元前四百三十一年の秋、陽は埃及の空を辷つてゐる。指して行衞はイオニア海の岸邊オリンピアの街なのであつた。

◆

八百二十六年の歲が流れた。

紀元後三百九十年の事、蠻族の長アラリツ

クがギリシアに亂入して意にはアクロポリスの掠奪を思ひ立つた。

聖殿掠奪の快擧に胸を躍らせて、海上遙かにパンテノンのペヂメントを目當てに三橈船を漕ぎ寄せると、やがてフイディアスの心を籠めた女神の像が蠻人共の瞳に映つた。

象牙の女神アテナは黃金の裳裾をひいて端然として鎭座してゐる。近づくに隨つてその姿から神々しい氣が迸つて居た。渚迄漕ぎ寄せた蠻人共は遂にその女神の威光に呑まれて了つて恐怖に打たれ、アクロポリスに足をも踏み入れ得ずして蒼惶として遁げ歸つて了つた。

フイディアスの入神の技が渠等を追拂つたのであつた。

だけども此パルテノンも後世に及んでは遂に土耳古人の砲火の洗禮を浴びるに至つた。アテンを攻圍したモロシニとケーニヒスマルクの手兵に依つて、あはれフイディアスの偉業も其大部分を破壞されて了つたフイディアスの神技も第十七世紀の終りに至つては其靈驗を失つたのか。

私はユマーソンの句を引用して彼れ及び其建築の謳歌を尙も續け度いと思ふ。

"Earth proudly wears the Parthenon
As the gen upon her zone."

◆

時は流れて今日となつた。

獨墺二强を相手に取つて協商の義の爲めに戰端を開いた伊多利は、其の餘裕の乏しい兵力の裡から一隊の山砲兵を割いて此のアクロポリスの守りに備へてゐる。

獨逸がクルップの工場を守護する樣に、英國がロンドンを警戒してゐる樣に、吾が友邦伊多利は此の遺跡にツエツペリンの爆彈を被る事を最も怖れて、只管それに備へてゐる。

そこに伊多利の國情の美しさ、パンテノンの歷史の尊さが偲ばれて堪らなく嬉しいでは無いか。

星霜二千四百年。フイディアスは未だ生きてゐるんだ。燬毀したドリック柱の列なりの陰で古ギリシアの大建築家の精靈は、意義ある生存を續けてゐる。（完）

請負人『此の明細書の數量ちやあ、附屬家の基礎の割栗が少し足りませんが……』

設計者『君は材料の多いのは知らん顏をしてゐて、足り無い事ばかり尻を持つて來るんだね、附屬家の分なんか知れたもんだ、本館の方をよく調べて見給へ、充分に見てある積りだから何とか融通が付く筈だ』

請負人『處が、半分しか出てませんので、仲々都合が付きませんので……』

設計者『そこが算段の付け處なんだよ、れ、下世話にも云ふぢやあ無いか—、割栗算段つて。』



風と水

本年は丁巳の厄歳である。上半期に於ける各地の頻々たる火災並びに爆發事件の夥しきに相應してか仲秋の良夜に至りて強暴なる颱風の襲來を蒙るに至れり。天意果して如何なるべき。由來天災地異に對して天意の暗示を鋭敏に感じたる吾國民は更に緊褌一番大に警戒すべき時機に非ずや

■颱風の進路

大正六年九月末日より翌朝に亘り本州を襲ひたる颱風は實に九月二十四日南洋新占領地パラオ群島附近の海上に發生し初め北西に進行し同二十八日朝に至り比律賓群島の東方に至り方向を北東に轉じて沖繩の南方海上に現はれ九月三十日夜六時紀州潮岬の南三十里に到着し同日夜半靜岡と濱松との間を通過して上陸し東京の北を過り武州大宮附近を一日午前三時半に至りて通路せり而して午前六時に至りて福島市附近に到着午前中仙臺附近より金華山沖を過ぎ夕刻に根室沖より進路を米國方面に轉ぜしものゝ如し。

從つて被害の範圍は近畿地方より東海道沿岸に亘り水害の慘を見關東地方は風害の猛烈なりし事近來稀有の大天災にして死傷者の夥多なる家屋の倒壞全滅せる數の多大なる眞に戰慄せざらんとするも能はず今內務省の調査に係る被害表を一覽すれば思半ばに過ぐるものあり

各地暴風雨災害取調表

（十月六日午後四時迄に到着せし報告に依る。）

道廳及府縣	人 死	人 傷	人 行方不明	人 計	家 全潰	家 半潰	家 流失	家 計	屋（戸數） 床上浸水	屋（戸數） 床下浸水	屋（戸數） 計	遭難解船
北海道	一〇	八	五	二三	一	—	—	一	—	—	—	五一
東京	四六六	四九九	一一三	一、〇七八			倒潰及流失共 七、五三三		—	—	一三〇、〇一七	六〇四
京都	九	—	—	九	—	—	二四	二四	—	—	四、〇七〇	—
大阪	—	一	四	五	六〇	—	三九	九九	—	—	一四、四二七	—
神奈川	四三	七九	九	一三一	一、五〇九	一、八五二	一四三	三、五〇五	二二、〇五九	二一、五〇二	—	一六二
兵庫	二	六	—	七	五七	一四	—	七二	—	一八	一八	—
新潟	一	三	—	四	二	五	二	九	五、七五二	四、二六二	一〇、〇一四	五
埼玉	一三	二九	四二	四四	四七五	一四四	—	六一九	七四八	一、三九六	二、一四四	七
群馬	四	—	—	四	四三	—	二	四五	—	—	未詳	—
千葉	二六〇	三〇六	七六	六四二	八、八四三	五、四〇六	八四六	一五、〇九五	一〇、八〇六	三、八二八	一四、六三四	二、七二九
茨城	一一〇	三一〇	一九	四四九	一〇、六九四	四、五七一	四	一五、二一三	九五九	七四二	一、一〇一	一八
栃木	三	六	一	一〇	一七七	三三	一	二〇一	九一一	八三二	一、七四三	—
奈良	二二	九	—	三一	三	—	二九	三二	—	—	未詳	—
三重	七	—	—	七	七	—	—	七	—	—	未詳	—
愛知	—	—	—	—	七	—	七	七	四五	四、三九九	四、四四四	—
静岡	一七	四七	二	六六	一、三〇七	一、三七八	九一	二、七七六	—	—	未詳	四〇七
滋賀	—	—	—	—	—	—	—	未詳	—	—	未詳	—
長野	六	—	—	六	一	一	一二	一四	一、二〇五	二、一九一	二、三九六	—
宮城	五	—	三	八	二	五一	—	二五一	—	—	一、〇〇〇	—

福島	四二	一一九	三	一六四	一、五八七	九〇〇	一	二、四八七	一	一	六四七	一	四、二〇七
巖手	一	一	一	一	八	一	一	二	一〇〇	一〇〇	二〇〇	二三	一
山形	一	五	一	六	一	一	一	九	七七	一三三	一九九	一	一
福井	一	一	一	一	一	一	一	未詳	一	一	三、〇〇〇	一	一
石川	二七	一	一	二七	一	一	一七	一七	一	一	一	一	一
鳥取	一	一	一	一	一	一	一	一	六	三〇九	三一五	一	一
和歌山	一	一	一	一	一	一	一	一	七〇〇	八〇〇	一、五〇〇	一	一
福岡	一	三	九	二三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一、〇四九	一、二四〇	二四四	二、七三三	一	一	四八、〇一四	一	二一四、三〇一	四、二〇七

此表を見れば死傷者の數に於て東京最も多く千葉茨城之に次ぐ、家屋の全潰半潰及流出の數に於ては千葉茨城兩縣群を抜き東京は其次位となり床浸水に至つては東京及千葉地方最被害多し。

之を要するに低氣壓は東海道より陸上を通過したれば風害之れに伴ひ東京附近一帶の慘狀を呈したるものにして近畿附近に在りては風力猛烈ならざりしに非ざるも雨量殊に多く淀川流域の增水は前例を破つて本堤防を決潰せしむるに至り水害殊に著し從つて東京附近の死傷は主として風害に起因し近畿地方は人畜に死傷なかりしも産業交通の被害は稀有の慘狀を呈しぬ。

■帝都を襲ひたる暴風雨

大正六年十月一日午前一時より二時三時に亘りて凄き大暴風雨は帝都を襲ひ家を荒らし人を害ひ稀有の慘虐を逞ふせる。實に十五年振りの大天災にして死傷者行方不明の多數なる家屋の倒潰の夥しきと同時に都南一帶の高潮は陸地を襲ひ、各河は氾濫して市內を浸せり。

雨量と風速と氣壓

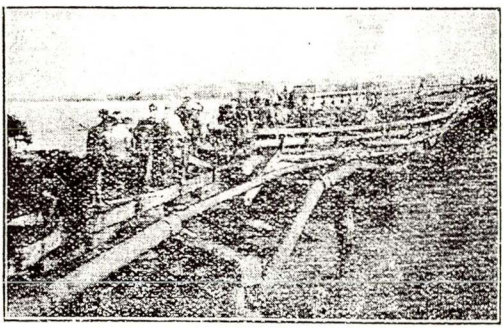
東京氣象臺に於ける當日の氣壓は七百十四、六粍を示し雨量は九月三十日朝より十月一日迄二十四時間に九十二粍を示し大阪附近より少量なりしと雖も風壓は實に午前三時頃に於て毎秒四十三米突を算せり。

被害の範圍

九月三十日は仲秋名月の夜なりしかば折からの滿潮に乘

じて颱風の猛威は東京灣一帶の海岸を襲ひて一種の海嘯を現出したり月嶋、洲崎、芝濱、品川、附近最も甚しく深川本所兩區亦海潮の浸入する處となり相生橋大破して月島の住民は進退に窮し洲崎遊廓は最も慘狀を極む商船學校練習船明治丸は海岸に乘り上げたる程にして濱離宮亦御損害甚しき樣なり

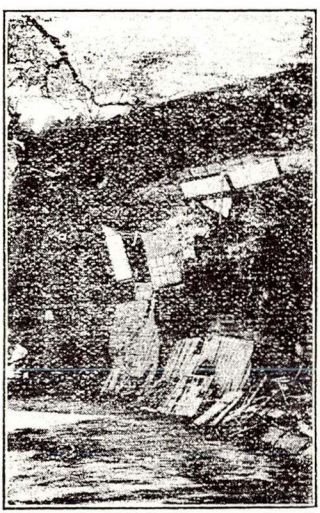
隅田川の水位は前日來增水し來りしが川口の壓迫せらるゝに及びて支流悉く逆流するに至り芝、京橋、日本橋、深川本所の五區は忽ち浸水の厄に遇ふに至りぬ下谷淺草兩區に亘り三味線堀附近は低地なり し爲め一帶の家屋は浸水を蒙りたり、而して山の手方面の家屋は風威の强壓を受けて倒壞大破せるもの頗る多し



相生橋ノ大慘狀

今主なる建物の損害を擧ぐれば

一、宮城振天府、望岳臺の屋根剝破あり
一、芝離宮洋館屋根剝破
一、東京天文臺子午線儀の圓塔屋根全滅



上野精養軒新館ノ倒壞

一、上野化學工業博覽會は正門、糖業聯合館、別館參考館教育館等全滅
一、上野精養軒新館倒壞
一、各區公園の樹木大挫折
一、深川越中島商船學校內機關工場、仕上工場、鍊鐵

工場崩壊

一、同所化學工業試驗所頽破失火燒失

一、同所水產講習所頽破船圍ひ場、漁船器械室寄宿舍、食堂、節養室製革室、修繕工場乾燥室等流失

一、洲崎遊廓大門前の家屋辨天町二丁目の妓樓全潰

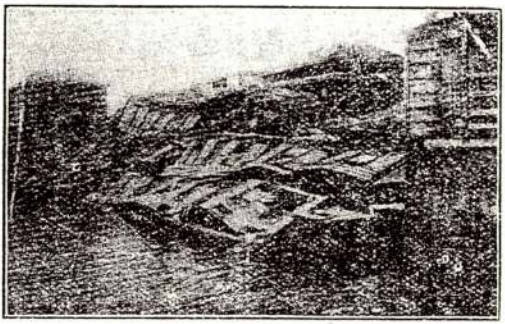
一、京橋區木挽町中屋印刷所木造四階建倒壊

一、牛込區矢來町四戸建二階屋及隣家千歲館倒壊

一、深川區古石場町渡邊印刷工場全潰

一、芝、高輪高輪中學寄宿舍倒壊

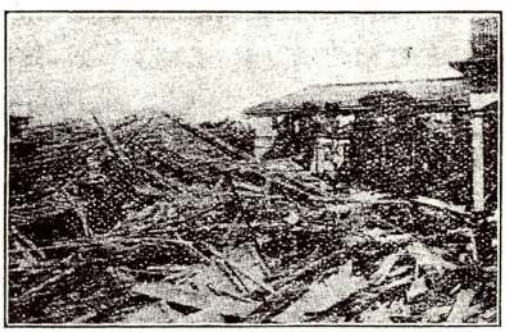
一、小石川區大塚町市電車庫全潰



京橋區木挽町中屋印刷所ノ倒潰

斯くの如く家屋の倒壊潰滅するもの甚だ多かりしかば人畜の死傷頗る多く慘狀目も當てられず加ふるに低地並びに海岸一帶は水害を蒙り家屋は住民と共に流失し溺死するもの亦多し、更らに特記すべきは電燈電話上水道交通機關に故障を起し暗夜燈火なく飲むに給水なきに困しみたる如き或は家屋の倒壊に次ぐに漏電のため失火するもの數ヶ所あり大事に到らざりしと雖亦不時の災害たるを失はず、

而して深川方面の各倉庫各工場が悉く浸水を蒙り商工業上に蒙りたる打撃は頗る多額に上りたる如し各地新聞紙が用紙の供給を絶たれ相協定して紙面を半減したる如きは未聞の出來事たり



洲崎遊廓ノ慘狀

之を要するに東京附近の災害は風害殊に甚しく輕卒なる家屋を全滅せしめたるは天意頗る妙なりしと同時に不時の高潮に下町一帶の損害は都市經營の參考資料たるを失はず。災害後の調査を充分にして大東京市の安寧のため再害の憂を除かんこと當局者の一大任務なるべし。

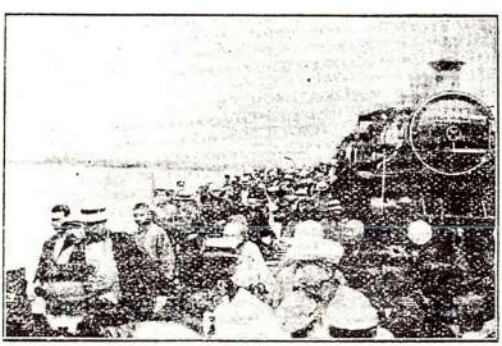
畏くも事天聽に達し宸襟を惱せ給ふこと深く罹災民救恤の御思召より左の通り下賜の御沙汰ありたり

金五萬圓　東京府へ　　金貳萬五千圓　千葉縣へ
金七千圓　神奈川縣へ　　金貳　萬　圓　茨城縣へ

近畿地方の大水害

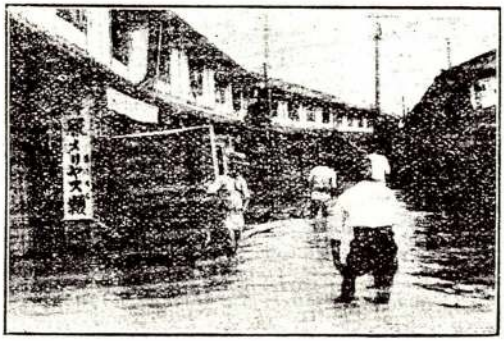
九月下旬近畿地方一帶の降雨は九月三十日の夜に入りて暴風雨となり風威は可なり猛烈なりしも午前一時半頃には全く通過したるもの、如く家屋の倒壞せるもの甚だ多からざりしはせめてもの幸なりしが雨量は地勢の關係上殊に多大にして三十日午後一時より一日午前一時に亘り百十六粍二を示せり、かくて木津川、宇治川、桂川諸川の增水は淀川本流に殺倒し伏見附近、枚方附近の堤防決潰して三十年來の大洪水を現出したるは天意何をか語らんとする。

かくて京都府下にては伏見淀附近一帶の低地と大阪府下にては北河内の一部及び淀川北岸に沿ひて三島、豐能西成、三郡に亘りて沿長六里廣茫一萬數千町歩の地域は泥海と變じ家屋の流出倒潰浸水するもの數十箇村に及べり。而して氾濫せる水量は一週日を越ゆて排水し得られず收穫期に入りたる三島郡の稻田は被害殊に甚しく西成郡一帶の諸工場は營業を中止して萬事休するの止むなきに到れり、住民は各地堤防上に避難して假小屋を設けて退水を待ちたるも淀川本流の堤防修築作業困難に加へて十月十日に到り第二回の暴風雨襲來したれば減水を見たる部分も亦



大阪吹田間假停車場

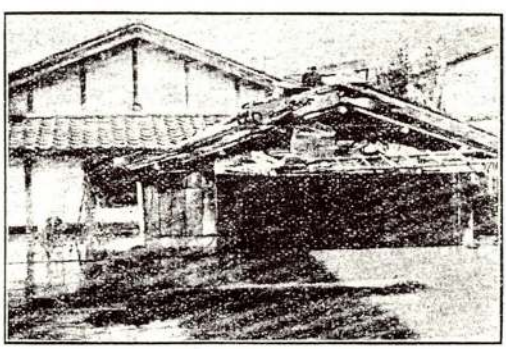
再度の增水を蒙り下旬に入りて更らに大雨の襲來するあり遂に三回目の增水を來し延いて滋賀京都大阪の二府一縣に亘りて多大なる關係を有する瀨田川洗堰閘門の大問題を惹起し一方に於ては大塚堤防工事は意の如くならざるに三回目の出水のため悉く失敗に終り今や善後策について當局者の苦心焦慮は被害民の慘狀と共に前代未聞の大慘事たるを失はず。



神崎川附近千舟村往道

淀川の水域

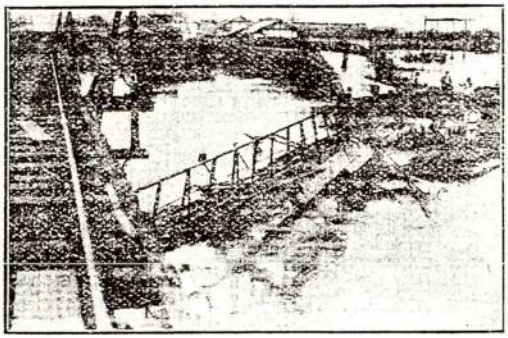
明治十八年枚方左岸堤防の決潰せしため河内一帶は泥海と化し大阪市内大半濁水を蒙りたるに鑑み淀川改修工事は爾來多大の經費と非常なる苦心と困難とを以て長年月に亘りての大土木工事なりしなり。かくて毛馬の閘門の完成と同時に瀨田川洗堰の大工事を斷行して淀川の水位の加減節調に一大成功を齎し大阪市民は爾來高眠をなす事を得たるなり然るに淀川本流堤防は從來數多の出水に遭遇して常に其偉力を誇りしが右岸堤防は尙一二回決潰の慘を味ひたりしが今回の豪雨は不計木津川上流に集中したりしと同時に滿月滿潮の夜に遭遇し大河の水面は風壓の影響を受け遂に從來の記錄を突破して毛馬閘門にては十九尺四寸五分の高位を示したれば最重要なる枚方附近の堤防は附近住民全力を注いで防禦したり而して遂に北岸大冠村字大塚堤防は一日午前八時半決潰するに至れり是より先き各支流



中島村附近

は悉く逆流の襲ふ所となり芥川兩岸堤防は午前五時決潰し北河内に在りては天野川及船橋川堤防決潰して牧野村一帶に浸水し、伏見町大半は早くも浸水を蒙り人家約二千五百餘戸を算せしが午前三時より四時頃の間に三柄堤防三箇所決潰して横大路村一帶より淀町に亘りて氾濫し却つて伏見町は退水するに至れり爲めに京阪電車枚方以北は不通となり。

淀川本流大塚堤防の決潰は濁水三島郡を襲ひ北は高槻町に達し浸水は民家の軒上迄も達せり同所工兵隊建物も盡く濁水に包圍され工兵隊は非常の際鐵舟を放ちて避難民救助に努力せしが芥川を決潰せる水勢は北は安威川の堤防に達し西は味生村に亘りて延長二里に餘る十四ヶ村の沃野を一望漫々たる泥海と變じつゝありしが同日夜に至つて芥川東側堤防は高槻方面の水量を支ふる能はずして決潰し高槻方面の減水と共に濁流は三島郡一帶を胃し神崎川に亂入するに至り吹田茨木方面亦浸水を蒙りかくて神崎川堤防は一日午後五時頃遂に決潰し、淀川安威川の水は悉く神崎川を傳ふて南下し吹田高橋は夜中流失し更らに神崎川左岸下新庄村堤防亦決潰し二日早朝に入りては三國橋亦流失し水量實に一丈五尺六寸に達す斯くて十三附近より三國に亘る一帶の良田は濁水の裡に沒し吹田梅田間鐵道線路、十三三國間實有電鐵線路は全く交通杜絶せり、二日午後五時には遂に阪神電車線路亦不通となり稗島村、福村、大和田村等一帶は浸水を見るに到れり。



三國橋破壞ノ實況

被害地の範圍

三島郡　被害田畑概算

富田村	田	百町歩	畑	二十町四段歩
三箇牧村	田	三百七十九町歩	畑	十一段歩
高槻町	田	九十一町歩	畑	三町歩
三島村	田	七十町歩	畑	二町歩
溝咋村	田	百九十町歩	畑	二町五段歩
宮島村	田	百九十八町歩		

三宅村　田　百四十町歩　畑　二町歩
如是村　田　二百九町歩
玉櫛村　田　二百九十三町歩　畑　四町歩
味舌村　田　百六十町歩　畑　二町歩
岸部村　田　百町歩
吹田町　田　三百六十五町歩
味生村　田　二百三十四町歩　畑　九町七段
鳥飼村　田　四百三十三町歩　畑　十六町歩
計　田　二千九百六十二町歩　畑　七百三十町歩

豐能郡、西成郡に於ける各工場被害

三國「セルロイド」會社
東洋製藥工場
晒　工　場
大阪電氣工場
大阪メリヤス紡績會社
蘆森製鋼所
小津細絲紡績會社工場
松岡紡績會社工場
武田製藥所
桑原伸鋼所
松風電氣工場
阪神電車變壓所

等其主なるものにして其他の工場尠なからず亦吹田、茨木、高槻方面に於ける小規模工場を算すれば枚擧に遑あらず産業中止と共に生産不能に到れるものもあり。

之を要するに淀川北岸一帶の被害地は東部は主として農産物の沃野にして收穫十三萬石に達すべきも郡内の浸水減少を見ざるときは米作上の損害百五十萬圓以上にも昇るべき有樣なると同時に西部一帶は大阪市に接續せる工業地帶にして水害は農作物よりも工業上に多く若し減水を見るに至るも損害の回復容易に非ざるなり。

是於當局者は先以て大冠村堤防の修理を急要と認め全長二百間の損害を調査して設計を立て鴻池組に命じ六日漸く着手するに至りたり而して三島郡民は芥川堤防の修築を先にする事を要求せしかば便宜彼等の意向を察し多少の保護を與へて自營的に着手せしむる事としたり下新庄決潰所は村民擧つて修築に着し京都方面も六日頃より三栖堤防の回復に着手せり此時に當り淀川本流の水位平常に歸したれば稗島方面にて村民は無斷本堤防を二ヶ所切開して水路を開きしかば溜水大に減少して各交通機關は六日頃より回復運轉する事を得たり。

乍然大冠村の決潰所は水深二十尺を算し工事意の如く進捗せず加ふるに材料の收集頗る困難なるため豫想外の遲延を見るに至りぬ。

而して十月十日に至りて亦第二次の暴風雨襲來するあり風壓雨量前回の比に非らざりしも淀川本流亦增水し來り各水害地は再び浸水を蒙り各所堤防工事亦中止の止むなき有樣なり各村民は住むに家なく去るに處なく各堤防上に假小屋を建設して一時の雨露を凌ぎたるも第二回の暴風雨に多くは倒壞して慘狀見るに絕ゐざる有樣なり各交通機關は水位の增加と共に再び杜絕するに到り大塚本堤防工事は計畫全く阻誤して豫定の日子に完成をする能はざるに至れり。

然るに滋賀縣内に在りては琵琶湖の水位上昇して沿岸稻田約五千町歩に亘りて浸水を蒙り來りたれば本月中旬に入りて洗堰問題漸く熱し來り淀川沿岸は擧けて大塚堤防の完成を切望したりしが下旬に入りて第三回の增水と共に全く絕望に終り治水工事上の最も苦き新しき大なる經驗を各當局者は悉く痛切に深刻に味ひつゝあり。

大阪市と洪水

大阪市は對岸の洪水を見て正に高眠を續けつゝあり。毛馬閘門並びに枚方方面堤防及防禦隊の恩惠に依りて此の大平和を見たるものゝいふべく水位の記錄を對比すれば蓋し戰慄を禁ずる能はざるものあり。若し夫れ枚方の堤防にして決潰せんか市民亦濁浪の中に呻吟するの慘狀を呈せしなり。

今枚方量水標の記錄を見れば

九月三十日	午後四時	九尺、六五（增水量）
十月一日	午前一時	一六、五〇
同一日	同五時	一八、四〇（最高大塚決潰）
同日	同正午	一二、四〇
同日	午後六時	一三、〇〇
同二日	午前一時	一〇、〇〇
同三日	正午	四、七〇

にして若し對岸大塚堤防にして今少し持徹へたらんか現に崩壞しかゝりたる枚方堤防の危機間髮を容れず。

毛馬閘門量水標記錄は

十月一日	午前六時	一九、四五
同日	同九時半	一八、二〇（大塚決潰のため退水）
同日	同十時半	一七、八〇
同二日	午前六時	一一、五五

にして十月十日後に於ける記錄は

自十一日	午後十一時	八尺、三五
至十二日	午前一時	八、二〇
十二日	同二時	八、〇〇
同	同三時	七、五〇
同	同五時	七、〇〇
同	同十一時	六、四〇

以て大塚決潰口が恰も本流の如き水路を穿ちたるを見るべし。

而して大阪市民にこりての苦痛は間接に直接に影響する處少なかず將來に亘りて淀川治水問題は考慮を費す必要を見るもの也。

殊に交通機關の杜絶は其最も困却の一なりき而して此等の軌道中阪線吹田梅田間筑有電車及阪神電車が僅々二哩に滿たざる範圍に於て浸水を蒙り不通の不運を見たるは至極滑稽の油斷にして京阪電車に在りては枚方以北各所に損害を蒙りたるなれば不運中の不運こして止むなきなり阪神間阪線鐵路が僅かに命脈を保てるを見たる當局者は此際至急善後策につき考慮するの必要あるべし。

◈被害地の善後策

被害地に於ける建築物の狀況被害並びに今後の復舊其他の注意事項に關しては更らに一考を要すべき點なきに非らず沿岸一帶の農民が淀川本堤防の完璧を信じ各方面共全く安心油斷せる結果此の慘を見たるなれば刻下の窮狀に鑑み將來を大に經營するの要あり然らば之れ禍を轉じて福こなすものにして災害の起る毎に將來の憂を慮の途に出でざるべからず。

家屋は二階建を必要こすべし寺院、小學校、病院、役場、警察署等の公衆用の大建物は須らく高地を選みて建設して非常時の策源地こすべく道路の設備堤防の修理等只現在に囚はるなく將來を計る事を勉むるを要す、而して被害地災後の公衆衛生については當局者も特別なる苦心を拂ひつゝあるべく最近に於ける各地の「ペスト」流行の初音をして此等悲慘なる災害地に蔓延せしめざる樣努力するこ同時に市民も亦一層の警戒を必要こすべく正に上下一致此大困厄を除くを要す。





火災保險率協定案と倉庫建築

■保險會社の協定案
■倉庫建築の現狀
■火災保險會社の体度

保險會社の協定案

內外火災保險會社は蔗分倉庫の爆發事件に鑑み聯合して火災保險の協定料率を定め倉庫會社に目下交涉中なる由なるが東京、橫濱、名古屋、京都、大阪、神戶、下關、門司の各倉庫會社は倉庫業の現狀に就て甚だしき苦痛ミする所なるを認め各代表者をして九月下旬協議會を東京に開き善後策につき研究し主ミして協定材率を通じて約二割の低減を希望し料率制の發止、日歩保險の復活及び特種貨物の今後保管認容等につき其主張を具体的に成案せん焦慮しつゝある樣子なり。

火災保險會社が一大爆發事件の突發より多大なる經驗を味ひ內外聯合して此の機に改定案を作成して將來の爲に計らんミする趣旨は自營上最も至當なる所置ミ謂べし、乍然之れが具体的成案に就いては我國倉庫業者の現狀を充分瞭解し相互の實務に適應せしむる爲に相當の研究を拂ひ實施し得べき程の料率案を樹立し以て所謂角を矯めて牛を殺すの結果に致らざる樣特別なる注意を要するや言を待たず而して各倉庫業者に於ても保險會社の要求の主旨を体して其の至當なるべき事項は多少の犧牲を拂ふて之を認容するミ同時に我國の現狀に鑑み亦保險會社側の了解し得ざる實務上困難なる提案に對しては之に應ずべき具体案を作成して折衝す

るの道に出る事最も至當なる手段なりとす目下兩者の間に交渉中の協定率案の內容は不幸にして知るを得ざるも倉庫建築の現狀については一應兩者の反省を促すべき點甚だ多し、依つて局外者より見たる倉庫建築に就て一言を費す事必ずしも無用の業には非ざるべきを信ず。

倉庫建築の現狀

今日現存する倉庫建築は所謂過渡期の狀態を遺憾なく發揮せるものにして其の種類の雜多なる其構造の亂雜なる殆んご一定の典型なし而して急激なる時勢の推移に伴ひ各倉庫會社は夫々其經驗する所ご其營業上の要求や經營上の方針等によりて各視る所を異にし各自の工夫せる構造法を實施建設せるものにして其の最簡單なるものは舊幕時代の倉屋敷あり、土藏あり、木造あり木骨鐵板葺なるあり其堅實なるものご稱するものも石造あり、煉瓦造あり、「コンクリート」造あり、鐵筋「コンクリート」造なるあり、鐵骨造あり其規模亦大小差異あるのみならず必要に應じ時機を見て修理、改築或は新設せるなれば一階なるあり、二階なるあり、三階なるあり其設備亦千態萬狀にして如何に複雜混亂せるかは蓋し想像以上なるなり。されば之が火災保險上の監督に際し建築の構造設備に關しては到底一定の標準を立つる能はざるべく特に、專門家の意見を參考ごするの必要を認めざるべからざるべし。殊に最近商工業の發達に伴ひ保管貨物は其種別を增大し其外裝の雜多なる其形狀重量の異同あるに加へて其內容の品目亦千差萬別にして危險性貨物の激增するあり。倉庫業者は到底其貨物に適應すべき倉庫の建設に應ずる能はざるべきのみならず危險性貨物の取扱設備に關しては更に一層の困難を感ぜざるを得ず、之を舊幕時代に於て彼の倉屋敷が主ごして穀類の保管、貯藏をなせるに比すべくもあらず彼に於ては其簡單なる貨物の保管には亦簡單なる一定の建築構造法を採用し留守役の小人數にて立派に所理し得たるなり。更に是を歐米諸都市の現狀に比較せんか彼にありては各倉庫業者の資力充分なるのみならず早く產業革命の歷史を味ひし丈總ての關係に於て秩序ある發達を遂げ來れり。されば最近に於ける新式建築構造の採用に於て設備の改良に於ても殆んご同日に談ずる能はざるなり。殊に交通機關の完備ご器械力の利用法ご大規模の經營法は相待つて新時代の要求に應掌しつゝあり。反之運輸交通の機關の幼稚なる吾國に在りては今尙人力によりて貨物の出入を

取扱ふのみならず馬力あり舟運あり汽車に依るあり汽船に託するあり從來水運のみに依りたる大阪市の如きは近時道路の發達に伴ひて盛んに馬力を利用するに至れるも内は却つて倉庫構内の設備交通に異狀を來し不便を感ぜざるを得ざる破目となるあり、外は水陸の交通連絡の完全するに前途遠く神戸市に在りては幸にして汽車汽船の運輸を利する便稍大なりと雖市内の道路は尚發達せず海陸の連絡は尚缺くる處多し又東京市に於ける運輸交通の連絡は主として水運に據るの外なかるべき狀態を視て思ひ半に過ぎるものあり。

之れを要するに我國倉庫建築の現狀は亂雜幼稚にしてこれが改良進歩は我國運の發達に伴ひて徐々に行はざれば到底一朝一夕に改革するを得ざる有樣なる也。而して斯くの如き今日の狀態を持續して止むべからざるは主として經濟上の壓迫より來るものと斷定せざるべからず貨物委託主は保險料金の低廉なるを望み火災保險會社は保險料金の高率を要求してある間に在りて倉庫經營者の苦心困難は想像に難からず況んや我國に於ける建築法規は一二都市の外施行せられず其の實施せられつゝある建物取締規則亦頗る簡單にして細密に倉庫建築を拘束するなき現狀に在りては倉庫建築の進歩遲々たるは亦止むを得ざる事實なりとす乍然斯くの如き狀態を順致せるは一面保險業者亦其責に任ぜざるべからず。

火災保險會社の体度

倉庫建築が斯の如き現狀を持續しつゝあるは主として我國狀と經濟的の壓迫とにありとするも斯の如き狀態を順致せるは一面保險會社側との相互關係に於て默契の結果ならざるなきを保せず何となれば吾國に於ける倉庫業者が舊幕時代の慣習を繼承して新時代の要求に轉業し歐米諸市の先例に則りて漸次革進の實を擧け來りつゝある間に保險業者は遲れて泰西の新營業法を模倣して全く新起なる地盤を開拓し來り漸く其の地歩を占め來りたるものなれば保險業者は親しく倉庫經營上の苦心經驗に接觸し得ざる點頗る多きを認めざるを得ず。

各倉庫業者が最近從來の舊式倉庫を排し最近構造の建築に依らんとし勢ひ新智識の技術專門家を聘して其の經營上の打算に應じて新設備の工夫に腐心しつゝある間に果して保險業者はこれが奬勵協賛を謀りしや否や或は進んでこれが指導改善の實を擧ぐるに努力せしや否や疑なき能はず。現存建築についても主要なる建築

構造の檢査鑑定に專門的考慮を費やせしや否や或は新舊各種建築の利害得失につき其料率制は我國狀に鑑みて研究を持續したりしや否や。

之を實例に徵するも所謂盜賊を見て繩を結ぶが如く災害の突發する毎に警戒焦慮するに止まり敢て技術的研究の範圍に接觸せざる事實頗る多し又新式構造の利害得失を調査して新式構造の推稱に努力する跡を見る能はざるは技術的專門家を聘するなく或は顧問にせるなきを見て思半ばに過ぐるものあり外國諸會社が御同樣なる狀態なればこすべきがそはあまり模倣に過ぎたる嫌あり由來泰西諸會社は洋風構造の建築に接觸せる關係深く我國人が木造倉庫の內容を了解するが如しされば必ずしも專門の技術家を雇用するの必要なくして事務當業者は自から建築構造の鑑定眼を供有するもの多し而して亦外國保險會社は我國情を知らず日本人を信じ仲介者の技倆に委託して一朝災害起るや初めて其缺陷を知了して警戒する如き例なきに非らず斯くの如くんば果して保險業者か當面の事務交涉に完全なるを得べきや否や。

斯の如き事情の經過に於て本年五月上旬蘆分倉庫の大爆發事件は突發せり此の時に際して保險業者が天來の霹靂に驚き今後の警戒自衞の爲めに焦慮するは一面自覺の第一步にして他面に於て倉庫業者の反省改新を急速ならしむ良果を得る事必然なりこするも我國倉庫建築の現狀は保險業者の希望の全部を容るゝ能はざる事を察すべきなり。從つて保險業者側に在りては從來の怠慢に鑑み此の際愼重考慮を要する事を必要こせずや。

若し夫れ蘆分倉庫の事件より得べき建築構造上の數多の敎訓を保險業者側に於て切實に理解せず技術的研究を等閑に附してしかも無理なる注文を提出するあらばそは保險業者の爲めに大に執らざる處ならずや。

要するに此度の保險協定案が蘆分倉庫の爆發事件に起因するこせば須らく專門家の意見を徵し實際上の研究を積み進んで此の機會を利用善導して以て幼稚なる倉庫建築界の革進を謀るべき事保險業者の當然の手段こするも其具体案の協定に於ては吾國の現狀に鑑み徒らに理想に馳する事なく着實なる成案を提げて交涉協議せざるべからざる事を切言す。



天滿青物市場災害調査報告書

第四部委員會

第一章　序言
第二章　罹災前の建物
第三章　罹災當時の狀況
第四章　罹災後の調査
第五章　結論

第一章　序言

大正六年五月廿八日午後二時五十分大阪市北區天滿青物市場の下部より出火新設市場の東部（約三分ノ一）を燒失し、尙隣接せる淀川北岸の民家を類燒したる火災は當時各地に於ける類々たる火災に續いて市民を驚かし世上の注意を惹きたるも、燒失戸數の比較的僅少なりしと人畜に死傷なく損害亦必すしも大ならざりしを以て單なる火災として記臆せらるゝに過ぎざるが如し

乍然建築專門家より見たる此の災害は頗る注意に値する特例にして學理上より視るも實際上より檢するも斯界のため多大の參考資料たるを失はざる事を認め第四部委員會は直ちに調査を開始し災前災後の研究に努力し漸く報告書を完成する事を得たり、而して災後の狀況は學術的考究を基礎として論斷せざるべからざるも尙鐵筋「コンクリート」建造物に關する幾多の研究事項は將來に亘りて調査の餘地あるべきを信ず。

故工學士松田亥作君は曾て天滿市場建物の設計に參與せられたる關係より種々の便宜を與へられ災後の狀況を撮影せる四葉の寫眞を本會に寄贈せられたるか本稿の完成を見ずして不幸不歸の客となれり、殊に災後の修理工事に關しては君の力を俟つへき事頗る大なるものありしなり。本員會は實に痛歎の至りに堪へざるなり。

茲に本會雜誌第二號の編輯に際し、漸く本報告書を採錄する事を得たり希くは世の識者の參考に資するを得ば幸甚。（大正六年十月下旬）

第二章　罹災前の建物

大阪市北區天滿淀川北岸の埋立地に新設されたる天滿青物市場は天滿天神兩橋に亘りて延長二百三十六間を算し幅員は大なる部分にて十四間、總坪數三千三百坪鐵筋「コンクリート」造の一大「プラットフオーム」の床上に新造されたるものなり。中央に四間の道路を貫き南北にも四間の通路を設け、木造平屋建合計二十一棟の上家を建造し總坪二千三百坪を算すこれを區分して百八十八戸とし、新市場と稱したり。大正四年四月起工せる大工事にして總工費貳拾萬圓、松村組の一式受負工事として實施され本年二月漸く竣工せるものなり。

由來新市場新設に關しては舊市場との關係上數多の紛擾を重ねたるものなるが淀川埋立地の利用策として頗る面白き方法なりとするも經費の都合上木造上家なりしは甚だ憾遺とせざるを得ず、殊に淀川治水の方策上此建物の上下には一朝出水の際に障害となるべき永久的構造物を許可せられざるが爲めに耐火的隔壁を設くる能はざりし事は災害の程度を大ならしめたる主要なる一因とす。

新市場の大「プラット、フオーム」は鐵筋「コンーリト」造にして「アンビツク」式に則り大略左の如き構造仕樣に據れり

一、基礎　杭打地形末口五寸長一丈松丸太杭間割栗地形「コンクリート」基礎五尺乃至七尺厚一尺。六分丸鐵組合せ「コンクリート」調合は、セメント」一、砂三、川砂利六の割合。

一、柱　方十八吋角、地上平均八尺、地下平均基礎下迄五尺、五分丸鐵四本より成り約七寸五分の間隔に八番線の「フーブ」を結び三十番條線にて緊迫、外圍厚二分「モルタル」塗、「コンクリート」調査割合、一、三、六、四隅面取り面一寸柱間隔は東西平均四間宛北中央に於て四間、兩側は二間半。

一、梁　大梁　幅十八吋、厚三十六吋、下端兩隅取り、（面一寸）距程四間、鐵筋一吋二分丸鐵八本。

「スタラツブ」幅一吋厚一分平鐵。

中梁　幅十八吋、厚二十四吋、下端兩隅面取り（面一寸）距程二間半、鐵筋一吋二分鐵丸六本。

「スタラツブ」幅一吋厚一分平鐵。

小梁　幅十二吋、厚二十吋、距程約四間、鐵筋七分

丸鐵六本

「スタラツブ」幅一吋厚一分平鐵。

一、床スラブ　厚六吋、上部厚五分、モルタル塗、路面は厚八分「コンクリート」を打込、間隔七尺五寸乃至八尺鐵筋三分丸鐵六吋間、横八番鋼線を中央にて一本三通十番條線にて緊迫

一、以上梁及床は下方純セメント液を塗抹し「コンクリート」調合割合は一、二、四とす。

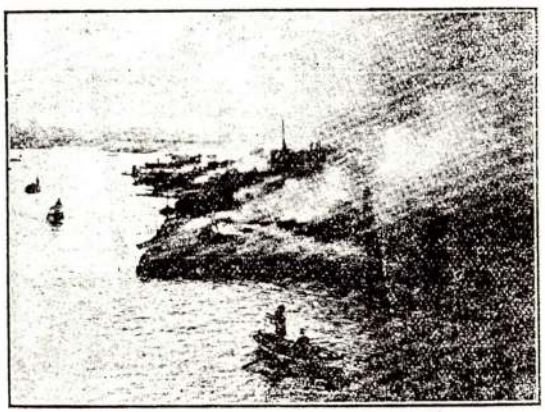
而して大中兩梁は連續して南北に架設され夫々柱の上部に於て持送を有せしも小梁は東西に平行して此等の大梁に架かり南北兩端の軒桁も小梁を以て代用せられ持送なし。

一、「セメント」は主として小野田「セメント」會社製品を無試驗にて使用し川砂及川砂利は淀川上流産を採用し砂利は六分目篩を通過したるものにして細粒六割を占めたるが如し、「コンクリート」練合せ混和器を使用し、西部より着手して順次東方に及び今回災害を蒙りたる部分は大正五年初秋より初冬の候に施工せるものなり。

假枠諸材料は杉及松材を使用し支柱の方法によりして假設し約四回に亘りて反覆利用し得たる由なり。

一、床「スラツブ」の上家内部には各戸前毎に幅三尺長五尺の艙口二ヶ所を設け床下に山積する貨物の上下に便せしめたるも經費の都合上掩蓋は木造とせしたるは甚だ遺憾とする處にして火焔は遠慮なく各所に於て下方より侵入せしめたる結果を産みたり。

而して經濟上の壓迫は之に止まらず「コンクリート」の調合に於て假枠の構成に於て充分なるを望むべからず荷重の計算に於ても鐵筋の數量を節減せざるを得ざりし次第にして設計者が杞憂せし「エキスパンドジヨイント」(膨脹豫防接合)も遂に其の



天滿青物市場火災當日の實況

實施を見合するに至りたるは特記せざるべからざる所なりとす。

一、木造上家　は軒高二間半棟高四間東部に在るものは奥行五間の木造下見張の和風建築にして瓦葺なり各戸前上庇は床上高九尺亞鉛鍍、鐵板葺にして鑄鐵持送金物を使用し木骨柱は沓鐵物を設けたり。

一、南北通路　は從來の町筋に相當するものは鐵筋「コンクリート」造の棧橋にて連絡し通路及四圍の邊端は鐵筋挿入の「コンクリート」柱に鑄鐵製の手摺を設け床下との交通用に供すべき階段は永久的構造物を許されずして臨時假設の木造棧橋に依りたり

一、床　下　は凡て空地として障害物の堆積を許されざりしも實務上の要求によりて各自營業の物貨を漸次山積するに到りたるも永久的棚壁を許されざりしかば或は木棚を連ね或は竹棚を假設しつゝありき

第三章　罹災當時の狀況

發火の原因　は遂に不明なるも第八號棟東寄床下なる陶器商加藤音吉方の荷揚場に積み上げある瀬戸物包の藁より燃え出したるなれば莨の吸殻或は焚火の失策に歸因せるものなるべし

燃燒の經過　は折から吹き送らるゝ西南風毎秒四米突の援助によりて連日の好天氣に乾燥せる可燃質物に類燒し四方開放せられたる河中なれば火の手早く忽ちにして上部の八號家屋に躍上し棟を傳ふて東方に火焰を吹き付けたれば各署の消防隊の到着する間に東部一帶「ブラットフオーム」の上下は猛火の包む處となり第四師團各隊よりの應援隊の參加する頃には河岸通南側の民家に類燒し黑煙盛んに放出し約半町離れたる信保町に飛火したるもこは大事に至らずして消し止むる事を得たり、而して新市場の焔は燒失倒壞するに同時に火勢衰へ各消防隊の努力によりて河岸通の損害を輕減し得午後三時五十分鎭火せしむる事を得たり

各消防隊　は主に陸路に活動し火勢を喰ひ止め得たるに同時に水上方面の消防隊は水量の充分なるを利して風上より盛んに注水して協同作戰大に効を奏したるも開放せる場所の事にて其燃燒時間は其燒失建物の量に比して甚だ僅少なりしは注意すべき事項にして類燒建物は殆んど完全に燒失するに至れり。

燒失戸數及損害は取調の結果左の如く判明せり。

燒失坪數　千九坪六合

一、全燒市場內店數　七十二戸、八棟　（六百九十坪）

一、濱側全燒居住家　卅一戸
一、同　半燒同　二　戸　三百十九坪六合

損害高

一、市　場　拾壹萬七千圓
一、居住家　壹萬四千八百九拾九圓

保險高

一、市　場　拾七八萬圓
一、居住家　壹萬七百參拾圓

を算し床下貨物は可なり種類雜多にして品目亂雜なりしも殆んど燒失せり第五、第六兩棟床下に在りし新造船三隻の如きも烏有に歸し貸「ボート」八隻小船五艘も同じ運命に陷りたり。

而して岩井町濱通りに在りし土藏造は此等の灰塵中に見事に舊態を存し一時的耐火建物としての有効程度を示せり蓋し此土藏造は相當の年月を經て老朽頽破の姿なりしも燃燒時間の短少なりしはせめてもの幸なりしなり

第四章　罹災後の調査

吾委員會は災後幾度か現狀を視察し此回の災害に於て上家及民家の燒失は燒失時間の割合に火勢の猛烈なりしを知ると同時に比較的參考となるべき事柄は普通の火災に比して徑程なし依つて主として「ブラットフオーム」の損害程度を視察考慮するを主要なる任務と信じたるなり。

大「ブラットフオーム」に在りては意外なる大災害を蒙り余等は視察に際して一驚を喫せざるを得ざりき、火災時に於ける木造上家の災害は烏有に歸して灰滅せるがために却つて單簡なる燃燒に止まるも此大構造物の災害程度は不可思議なる結果を吾人の眼前に示しつゝあり。

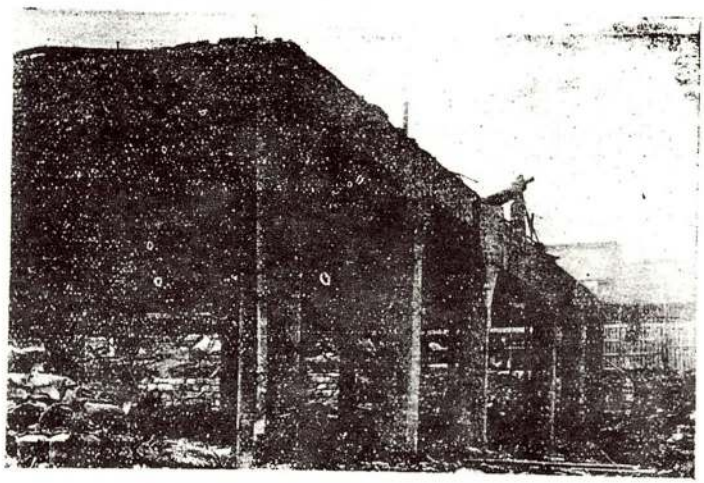
「ブラットフオーム」の災害は主として上下に猛火の襲來を蒙りたるがために恰も落成後數ヶ月を經過し其東部に於て不計一大試驗を執行せるに似たり。

由來鐵筋「コンクリート」造の構造に在りては其膨脹率が鐵材に比して大差なく前者の膨脹收縮に伴ひて後者の協同連關するの利と其耐火力の偉大なるとは鐵筋「コンクリート」の長所として認められつゝあるに反し本災害の結果は大樣左の如き有樣となりぬ。

一、「ブラットフオーム」の罹災せざる部分異狀なし
一、基礎異狀なきものゝ如し
一、柱は火元附近を除き他は順次に東方に傾斜し東端にあるものは最も甚しく災後翌日實測せる際に頭部に

約三寸五分を算せり從つて傾斜の甚しきものに在りては持送の下部の東側と地盤線の下に於て西側に水平の龜裂を生じたり。南北兩側の柱に在りては夫々外方に傾斜し頭部に於ては北側柱は一寸南側柱は八分を算せり更に各柱の損害は多く其四隅の「コンクリート」は剝落し鐵筋を露出するに至り然らざるものは剝落に近き大龜裂を垂直面に沿ふて生ぜざるものなき位なり。而して其最も甚しきは四邊の「コンクリート」を振り下して全く裸体となれるあり上半裸出せるあり南部に在りたる一柱は遂に荷重に堪

天滿青物市場災後の滲狀



（柱は各方右方に傾斜せるを見よ）

ねざりけん地上二尺の邊にて挫折せるものあり其挫折せし部分の八番鋼線の「フープ」は接合點分離放逸せり

一、梁の大部は其中央部に於て鐵筋下の保護用「コンクリート」を剝落し鐵筋を露出せるの外異狀を認めざるも露出せる鐵筋は部分部分にて熱のために膨脹屈曲せり

挫折せし柱の周圍に在る大小梁は約二寸沈下の影響を受け夫々其反對なる部分の根元に於て龜裂を生ぜり

一、床「スラブ」に在りては損害比較的輕微なるも尙鐵筋に露出する程の保護厚の「コンクリート」を剝

落せる部分多し

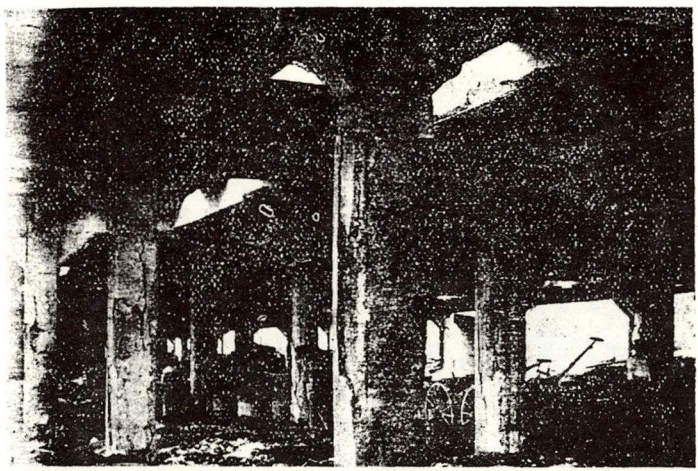
一、上部「ブラットフオーム」の上部に在りては表面被覆の「セメントモルタル」及「コンクリート」は悉く分裂粉砕して剝脫しあるも床「コンクリート」上部は何等の異狀を認めず

唯沈降せる柱の周圍に於て龜裂を現出しあるに過ぎず

一、雜部「ブラットフオーム」周邊の手摺親柱は多く剝脫して鐵筋を露出し手摺子は分離横臥せり

上家に附屬せし鑄鐵製沓金物、持送金物樋受金物は被覆を燒かれたるのみにて落下散亂しあり

樋に使用せし亞鉛鍍鐵板



天滿青物市場災後の慘狀

二十八番板は火勢猛烈なりしと思はるゝ部分に於て溶曲せるも然らざるものにありては舊形を保ちあり

以上を綜合するに

一、「ブラットフオーム」の主要なる面積を占むる床「スラブ」及床梁は上下に受けたる火勢のために膨脹したるも西部に延長する事を得ずして主として東方に延び同時に南北にも膨脹せるものと斷定し得らるゝ事

一、柱は斯くして悉く傾斜せざるを得ざる破目となり斜に壓力を受け爲めに龜裂を生じ「コンクリート」を剝脫するに到りたる事

一、火勢猛烈なりし部分は明かに燃燒荷物の山積ありたる部分に多く從つて其周圍の柱及梁床は殊に「コンクリート」を脫落せし事

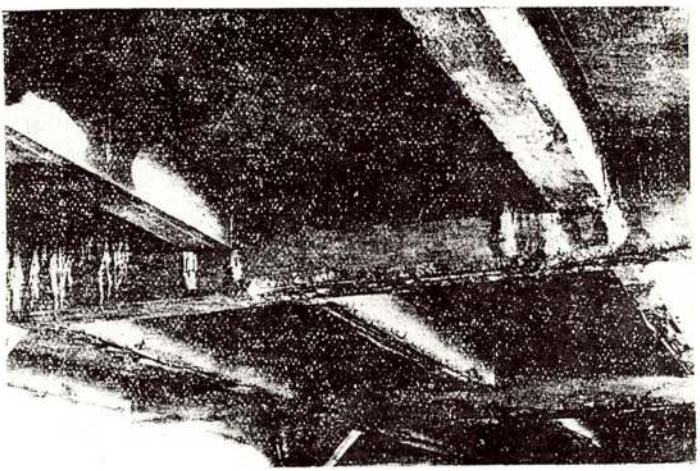
一、挫折せし柱は周圍は船材料多く山積されしかば火勢猛烈にして「コンクリート」の剝落甚しく遂に荷重に堪へざりし如し他に施工中之が原因となるべき素因はなかりし事

一、梁及床「コンクリート」の剝落の主要なる原因は火勢の强かりしか注水の猛烈なりしか或は鐵筋の膨脹によりしか尙疑問を存する事

一、火勢猛烈なりし主因は四方開放されたるため酸素の供給充分なりしに歸因し木材は殆んど灰燼に歸し鑄鐵に異常なかりしより見れば溫度最高千五百度位なりしなるべき事

等の數次を擧げ得べし是を要するに斯くの如き「コンクリート」構造物の偉大なるものにありては「コンクリート」の膨脹率は可なりの數字に現はれ來る事實を示せるものにして今後の參考に資する一大敎訓たるを失はず、計畫の當初に於て膨脹豫防接手を實施せざりしは返す返すも遺憾なりしも斯くの如き延長を有する構架物に在りては簡單なる接手にては到底其用をなさゞるべく或る區間に於て全然分離構架するの得策なるを示すを見る。而して「コンクリー

天滿靑物市場災後の慘狀



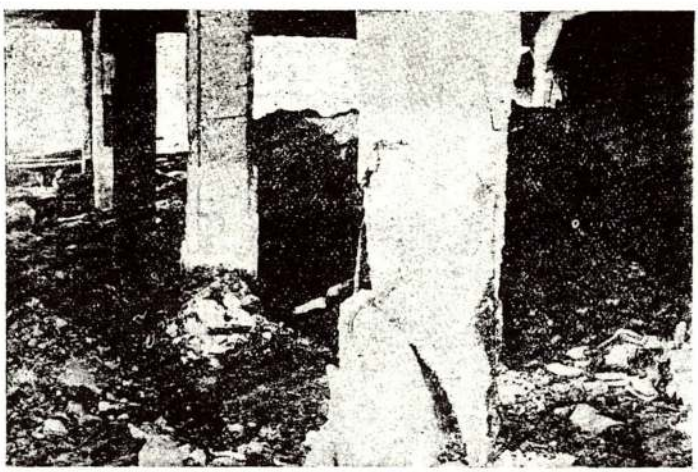
（床渠下部「コンクリート」の剝落せるを見よ）

ト」の膨脹率が鐵材に比して遜色なき數字を有せる事實と共に鐵筋の數量の僅少なるものに在りては到底「コンクリート」の延長を防禦するを得ざる點を考慮せざるべからず而して主なる梁が東西に架かり「コンクリート」体の膨脹に却つて都合よかりし事實も認め得べし大梁は南北に亘りて持途を有せしも東西方面の梁には一ッの持送もなかしは全く膨脹に對して抵抗すべき材料皆無なりしと認定せらる。

柱に在りては上方よりの荷重に抵抗し得べき目的に用ひらるゝに係らず此の例に在りては明かに傾斜せる力を加へられて變曲せるが爲めに「コンクリート」体に異狀を齎らし鐵筋と周圍の「コンクリート」との分離剝脫を促せる事實を認めざるべからず。

斯くの如き損害を蒙りたる此大「ブラットフオーム」は果して根本的の打撃を受けたりや否や傾斜せる柱や「コンクリート」の裸落せる柱や梁の修理を如何にすべきやの善後策に關しては一言なかるべからず、故松田工學士は災害床の「スラツブ」に就いて六月下旬荷重試驗を斷行したり而して徑間六尺五寸の一「スラツブ」に就いて煉瓦を山積して其荷重毎平方呎に三百封度を算せしも中央にて約二分の沈降を見たる外全然異狀なかりしは意外の成績にして大に意を安んじ全部修理するの成案を考慮し保險金額に應じて修繕を斷行する事に決心したる

天滿青物市場災後の慘狀



鐵筋コンクリート柱が鐵筋を露出して破壞せる狀

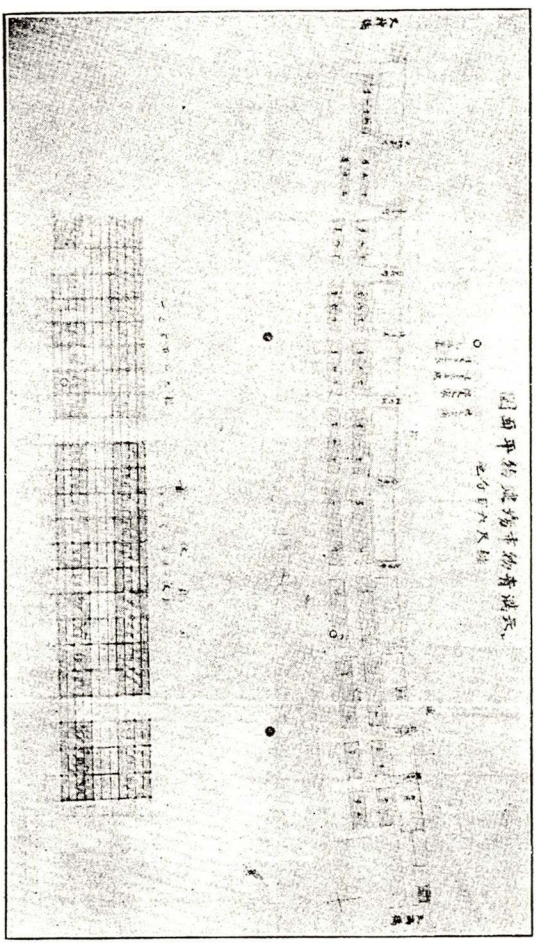
も同君は其實施を見ずして不幸永眠せられたり。

我委員會の意見も亦修繕の可能なるを認むるものなり、のみならず經濟上改築の無益なることは其被害部構造体の全部を全滅に歸せしむる結果を考察して斷定し得べきなり

第五章 結論

天滿新市場の災害については技術家の注意を惹たるも世人の深く記憶に印すべき火災とは認められざりき。されど、一部の人々にとりては鐵筋「コンクリート」造の構造物が以上の如き損害を蒙りたるを見て其の將來を杞憂し悲觀せるなきに非ず。本委員會も亦一見其被害の程度の甚しきを檢して一驚を喫したり。乍然委細に調査し得たる結果を綜合すれば必ずしも然らず。此の構架物の有せる特種の缺點の遺憾なく現はれたるに歸着すべく鐵筋「コンクリート」構造体の有利なる點を反證し得らるべきことを認めざるべからず。

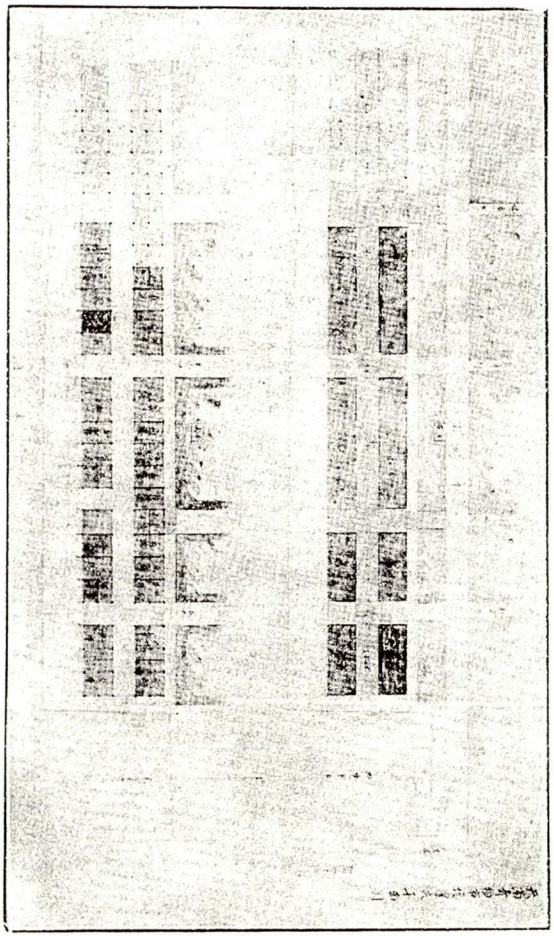
其重要なる缺陷は經濟上の拘束を受けて充分なる鐵筋を使用し得られざりし事情は柱、梁、床、等に於て必要なる數量に達せざりしと共に「コンクリート」との結合に於て必要なる補助材として使用すべき「フープ」スタラツプ



其他の鋼線の少なかりし事を擧げざるを得ず

經濟的拘束は「セメント」の數量にも影響する處あり鐵筋「コンクリート」の調合に於て一、三、六の割合は基礎に於ては可なるべきも柱に於ては少なくも一、二、四位の配合を必要こすべし蓋し柱は應壓力を主こするも鐵筋「コンクリート」に在りては「セメント」の分量は「コンクリート」の主成分にして其量の小なきは則ち「モルタル」の量の少なるを意味し砂利こ の關係に於て充分之れを包圍し得られざる結果を來すべきのみならず其強力にも影響するもの也。

殊に實際上より見れば砂利粒の細末なりし事の非なりしを擧げざるべからず砂利の粒狀小に失するこきは「コンクリート」の調合がたこひ良好なる割合にあるも「コンクリート」の出來上り面白からず蓋し「モルタル」の量の減少を引起して間隙を多からしむる結果こなるもの也換言すれば細粒の砂利は調合の割合を稀薄ならしむる傾なり故に此の如き出來上りは勢ひ更らに「モルタル」又は純「セメント」を塗抹して其表面の外觀を化裝せしむる方法を執らざるべから。ず而して間隙ある「コンクリート」は其体中に空氣の間隙甚だ多



き故に火災の際此等の空氣が膨脹して內部より「コンクリート」の皮肉を押出す如き現象を引起す場合甚だ多し此構造体の災害の主要なる慘狀は其表面「コンクリート」の遠慮なき剝落なりこれ或は內部に窃める空氣の膨脹に非ざるなきかと考察ざるを得ず。或は曰く之れ內部の鐵筋の熱のために膨脹して之れを押出し剝落せしめたるなりと亦一理ある說なり。何れにしても間隙を有する「コンクリート」は頗る不利の結果を招くべく其間隙を少なからしむるためには細粒に過ぐる砂利を排し「セメント」の割合を增加して濃厚なる調合とするの必要あり乍然經濟上の壓迫ある場合には其調合に於て標準とすべき(「セメント」一、砂二、砂利四)の割合以上とする能はず此の構造体亦標準以下の配合に依れり蓋し缺點の一なりとす。

更らに一考すべきは施工上の問題なりとす、由來新式構造法に屬する鐵筋「コンクリート」造は我國に於ては經驗日尙淺く設計に於て完全なるも實施工作は尙不完全を免れざる程なれば特に注意して作業せざるべからず乍然職人の多くは新智識を理解なき現狀にては完全を望むべからず不注意なる鐵筋の所置不謹愼なる「コンクリート」の切込方は最も危險千萬といはざるべからず。本構造体の實施方法が必ずしも不完全不注意なりしと謂はざるも斯くの如き結果を齎すは是れも亦一因と相成るべし然も其主要なる起因は亦經濟上の壓迫より來れるものと斷ぜらるべし。

殊に假枠堰板の諸材之れが運用組立取外の手配に於ては最も經濟上の交沙に關係するものなり。

以上を要するに此の大構造体には特有の缺點ありし事は意外にも露骨にも無遠慮なる結果を齎したるものと認むべく其原因の主因は則ち經濟的拘束に據るものなる事を主張するものなり。

乍然此構造体の災害は一見甚だ猛烈にして一驚を喫せしめたるも悉細に考慮すれば其損害は主として表面的にして根本的致命傷を與へたるに非ず膨脹傾斜は外觀甚だ見苦しからんも只異形たるに止まり變形にして尙餘力大なるものあれば此際相當の修理を施せば比較的小許の費目を以て回復し得らるべきを信じて疑はず。

若し夫れ此の建造物が煉瓦造或は木造なりしか或は花崗石積なりしならんには全然敗滅に歸したるなるべく只夫れ鐵筋「コンクリート」なりしがために其舊体を保存して上下市場の再築をなし得らるゝ事結局の打算に於て如何に利得なりしかを見るべし。

本委員會は本稿を終るに臨みて天滿市場の一日も早く修築成りて新裝の笑顏を見る事切望に耐ざると共に松田氏の在らざる事を三度痛歎するものなり。（終り）



各部委員會記事

大正六年五月十二日開催の第二回例會に於て決定せられたる各部委員會は實に本會事業の最も主要なるものにして連月會合を重ね夫々其調査事項の研究に熱血を注ぎつゝあり以下順を追つて其經過を記錄せんとす

■第一部委員會　■第二部委員會
■第三部委員會　■第四部委員會
■第五部委員會　■第六部委員會
■建築材料價格調査委員會　■議院建築問題委員會

第一部委員會（甲組記事）

一、委員氏名

委員長　野村一郎
委員　吉木久吉
同　前田旭之助
同　瀬戸文吾
同　設樂貞雄
同　光安梶之助
同　佐藤彰美

同　小林　悉
同　内藤太郎

一、甲組委員會は第二回例會に於て指名組織されたるものにして内藤氏は其後希望によりて加入したり

一、本委員會の研究事項は「現行關西に於ける建築取締規則改正の研究」にして第三回例會に於て初めて甲組委員會の名稱となれり

第一回委員會

日　時―大正六年五月二十一日午後六時―十時

會　場―關西建築協會事務所

出席者―委員全部

記　事―

一、衆議に依り現行大阪府建築取締規則の研究より着手し逐次他府縣に及ぼすこゝせり。

一、現行大阪府建築取締規則第一章總則を逐次研究せり。

第二回委員會

日　時―六月二十五日午後六時―十時

會　場―關西建築協會事務所

出席者―吉木、前田、瀬戸、設樂、光安、内藤、置塩、野村

記　事―

一、第二章第十五條より第二十條迄逐次研究す。

一、爾今毎月第一、第三、月曜兩日を甲組例會日とす。

第三回委員會

日　時―七月十六日午後六時―十時

會　場―關西建築協會事務所

出席者―光安、前田、置塩、内藤、吉木、野村

記　事―

一、前回に引續き逐次研究を進めたり

第四回委員會

日　時―九月三日午後六時―十時

會　場―關西建築協會事務所

出席者―内藤、吉木、小林、野村

記　事―

一、本日を以て取締規則第一章及第二章の研究を了れり。

第五回委員會

日　時―九月二十五日

會　場―關西建築協會事務所

出席者―前田、内藤、光安、吉木、小林、野村

一、本日第三十七條建坪と階段との關係に就き研究を

なし各員熱心なる結果議論百出したるも採決の結果次の如く議了す

二階建物に於ては階段数は

六十坪以下　一ヶ所以上

百坪以下　二ヶ所以上

但し内一ヶ所は幅二尺二寸迄となす事を得

二百坪以下　二ヶ所以上

三百坪以下　三ヶ所以上

一、次回は三階建以上の建築物に關する階段数を研究することを宿題とする事に決せり　（以下次號）

第一部委員會（乙組記事）

一、委員氏名

委員長　野村一郎
委員　片岡安
同　武田五一
同　池田實
同　吉木久吉
同　置塩章
同　木子七郎
同　橋本勉
同　藤井厚二
同　濱野三郎

一、乙組委員會は大正六年七月十三日第三回例會の決議により指名組織されたるものにして片岡、武田及び池田三氏は特に希望の上加入せり。

一、本委員會の研究事項は

「都市建築法規」

にして根本的大規模の建築法規に就いて調査研究を開始せんとするに在り

一、本委員會は便宜上第一部委員會乙組と名づけ委員長野村氏の下に置き時機を待ちて會合を重ねんとす。（以下次號）

第二部委員會記事

一、委員氏名

委員長　武田五一
委員　大林賢四郎
同　原田俊雄
同　長谷部鋭吉
同　中西甚作
同　山本治兵衛

同　　牛村喜勇

一、本委員會の研究事項は「仕樣書及契約書案」の研究調査に在り。仕樣書及契約書の現狀が一定の標準なく、繁簡、粗密、長短、差別多く却つて實績の擧がらざる現狀に鑑み大に調査の必要ありとし第二回例會の際組織せしものにして牛村氏は本人の希望により加入せり。

第一回　委　員　會

日　時―大正六年六月二十五日午後五時―十時
會　場―大林組樓上
出席者―武田、大林、牛村、長谷部、山本、原田
記　事―
一、衆議により仕樣書及契約書案の內先以て前者より着手する事とせり
一、「仕樣書の方式を如何にすべきや」との題下に各方面の雜多なる方式種類を吟味し左の四箇方式を代表的のものとして摘出せり卽ち
一、圖面記入方式
二、標準仕樣書使用方式
三、標準仕樣書及副仕樣書併用方式
四、在來普通方式

第二回　委　員　會

日時―九月十日午後六時―十時
會場―大林組樓上
出席―武田、長谷部、大林、牛村、中西
記事―
一、前回擧げたる四方式の有する得失の研究に移りて逐次審議せり
一、建築物價格の比較研究の際に於ける從來の慣習なる日本流「坪」當標準と西洋流「一立方尺」標準との優劣について有益なる餘談沸騰したれども尙調査の必要ありとし後日に保留せり。（以下次號）

第三部　委員會記事

一、委員氏名

委員長	片岡　安
委員	園部文雄
同	本野精吾
同	小笠原鋧
同	山本鑑之進
同	牛村喜勇
同	伊藤正文

一、本委員會は「細民住宅問題」につき調査を遂げんこ
するものにして第二回例會に於て指名組織されたり
伊藤氏は希望により加入

第一回　委　員　會

日　時―大正六年六月二日午後六時―十時
會　場―協會事務所
出席者―山本、牛村、園部、本野、片岡
記　事―
一、將來調査研究の方法を如何にするやに付き各自の
意見を交換し大約左の項目に依り其歩を進むること
ゝせり
A、大阪、京都兩都市の細民住宅の實狀を精細に調
査すること
B、模範的の細民住宅の設計を攻究すること
C、現時の大工場經營になる社員及職工住宅の實情
調査
D、外國の公營住宅の取調
E、細民部落の衞生狀態を統計的に調査すること
一、以上の各項ともに容易ならぬ作業なるが故に漸次
に之に着手することゝし第一着として委員は隨時貧
民部落を視察して第二回會合に其所見を開陳するこ
とを申合せり。

第二回　委　員　會

日　時―七月十日午後六時―十時
會　場―協會事務所
出席者―本野、園部、牛村、小笠原、片岡
記　事―
一、前回會合の申合せにより各自其視察せる細民部落
の實況に付き談話を交換したる後細民住宅の設計に
必要なる條件につき協議し各自其條件に基き設計を
提出することを約せり

第三回　委　員　會

日　時―十月三日午後六時―十時
會　場―協會事務所
出席者―牛村、小笠原、片岡、伊藤
記　事―
一、大阪市内貧民部落實測を開始する爲め大阪市役所
營繕課技手に囑託し牛村委員を主査として毎日曜日
を利用して本月より之れを實行することゝせり
一、關西地方に於ける紡績會社の經營せる職工、社員
住宅の狀況、枝光製鐵所、滿鐵、經營の社員及職工
住宅の内容、大鐵山の社宅、鐵道院經營の驛員住宅

の實況をも取調ぶること及箕有電鐵其他各社にて經營しつゝある郊外住宅の實際をも調査することに申合せたり。（以下次號）

第四部　委員會記事

一、委員氏名

委員長　池田　實
委員　木子七郎
同　石田信夫
同　德永　庸
同　濱野三郎
同　波江悌夫
同　今林彦太郎
同　葛野壯一郎
同　永瀨狂三
同　本野精吾
同　加護谷祐太郎
同　池田讓次
同　天沼俊一

一、本會は「建築に關する災害及時事問題の調査研究」を司る所の委員會なり。第二回例會に於て池田、木子、石田、德永、濱野の五氏指名せられたるも何分範圍の廣汎なることゝ問題の饒多なることゝの爲めに少數の委員のみにては、誠に不充分なるを認め更らに波江今林兩氏の希望加入を承諾したり、而して第三回例會に於て更らに部員を災害時事の兩部にするの決議あり同時に葛野氏加入し尚永瀨、本野、加護谷、池田（讓）、天沼五氏の盡力を乞ひ地方通信並びに機を見て意見を交換することゝせり。

災害係—石田、德永、波江、今林
時事係—木子、濱野、葛野
地方係—本野、永瀨（以上京都）加護谷、池田讓（神戸）、天沼（奈良）

一、濱野、德永兩氏は本會組織以來熱心數多の問題に應酬せられたるも八月中榮轉東上せられたるは本委員會にとりては遺憾此上なきも更らに兩氏に東京方面の問題に關し通信せらるゝ事を快諾されたれば結局本會のために大なる便宜を得ることゝなれり。

第一回委員會

日時—大正六年五月十四日午後七時—九時
會場—道頓堀某亭
出席—池田、石田、濱野、德永、木子

記事—左の數項を決議せり
一、調査すべき事項の範圍は廣汎且積極的態度を以て進む事
一、委員の增加を必要とし永瀨氏(京都)池田(譲)氏(神戸)波江氏(大阪)に依頼する事
一、記錄簿を協會に請求する事
一、出火場立入證下附の手續をなす事
一、旅費實費を協會に要求する事
一、東京倉庫爆發に關する調査をなす事

第二回　委　員　會
日時—五月三十一日午後七時—十時
會場—大林組本店
出席—石田、波江、濱野、德永
記事—
一、前回の決議につき更に協議し左の申合をなせり。
一、失火立入證を協會より其筋へ下附を乞ふこと
一、委員として今林氏(大阪)天沼氏(奈良)の加入を希望する事
一、委員會の取扱ふべき問題の範圍及調査及報告に關し埋事會の說明を求むる事
一、時事問題に關する材料は絕えず收集すること
一、至急調査すべき事項左の如し
イ、東京倉庫災害調査
ロ、天滿青物市場災害調査
ハ、大阪病院移轉並びに改築問題の調査
ニ、米澤及福井其他災害地情況の調査
一、社會問題の區分左の如く定む
一災害、二經濟、三教育、四法制、五衞生

第三回　委　員　會
日時—六月一日午後七時—十時
會場—大林組本店
出席—石田、波江、濱野、德永
記事—
一、至急調査事項の分擔を左の如く定む
イ、東京倉庫災害調査　波江
ロ、天滿青物市場災害調査　德永、石田
ハ、大阪病院移轉並びに改築調査　濱野
ニ、米澤、福井地方災害調査　波江
一、前回並びに今回經過を委員長に報告する事
一、各委員は隨時現狀視察をなす事

第四回　委　員　會
日時—六月六日午後七時—八時

會場—道堀頓某亭
出席—池田、石田、濱野、德永、波江
記事—
一、委員會は時事問題を如何に取扱ふべきかにつき研究せり
一、災害調査は時事問題と區別する事とせり
一、松田亥作氏より天滿青物市場被害寫眞四葉寄贈あり、波江委員より同六枚提出

第五回　委　員　會
日時—六月九日午後七時—十一時
會場—協會事務所
出席—池田、德永、石田、濱野、木子、波江
記事—左の數項を決議せり
イ、大阪市火災分布圖を製作する事
ロ、大阪市火災日表を製作する事
ハ、大阪市火災季節統計表を製作する事
ニ、現在大阪、京都、神戸各市耐火的建築の分布圖を製作する事
ホ、現在大阪、京都、神戸各市の防火栓並びに消防機關分布圖を製作する事
以上は漸次材料を收集して實行することゝす
一、米澤市及福井市火災圖を波江委員提出せり
一、佐藤四郎氏より米澤市火災圖を送附せられたり
一、蘆分倉庫災害前の寫眞二葉波江委員提出せり

第六回　委　員　會
日時—六月二十日午後七時—十時
會場—道頓堀某亭
出席—池田、葛野、波江、濱野、石田、木子、德永
記事—
一、各分擔委員より其報告說明あり各自意見を交換し具体的報告は次回に研究する事とせり

第七回　委　員　會
日時—七月九日午後七時—十時
會場—協會事務所
出席—池田、濱野、石田、波江、今林、德永
記事—
一、災害係及時事係を決定し兩係互に協力することゝしたり
一、東京、大阪兩市の主要なる新聞紙切抜につき分擔を定めたり
一、最近に於ける調査事項左の如し
甲、奉天の火災調査

乙、大阪高等工業學校移轉問題
　　大阪府北河内實科女學校移轉問題

第八回　委　員　會

日時—八月二十四日午後六時—八時

會場—協會事務所

出席—今林、木子、波江

記事—

一、協會雜誌第一號に掲載すべき蔗分倉庫災害調査報告書に關し協議せり

一、松田亥作氏急死の報に關し意見を交換せり

一、濱野三郎氏は八月七日德永庸氏は同二十六日大阪を去り共に東京に榮轉せられたるを以て東京通信委員たる事を快諾せられたり

第九回　委　員　會

日時—八月二十七日午後六時—十時

會場—協會事務所

出席—池田、木子、波江、石田

記事—

一、蔗分倉庫爆發事件災害調査報告書の内容につき審議し字句の修正をなし報告を主として議論を避け添削する處ありたり

一、尚今後の報告書に關し申合せをなせり

視察

一、三國セルロイド爆發事件に關し九月中池田、石田波江各委員は夫々視察調査する處ありたり

一、淀川北岸水害地視察の必要を認め十月一日池田、石田、波江各委員は枚方方面に急行し枚方堤防及對角大塚堤防の慘狀を視察せり

一、尚三島西成兩郡の水害地視察の要を認め十月中波江委員は稗島、吹田、茨木、高槻方面を葛野委員は三國、十三方面を視察する所ありたり。

第十回　委　員　會

日時—十月十日午後六時—十時

會場—大林組本店

出席—池田、波江、石田、今林

一、協會雜誌第二號に掲載すべき天滿青物市場災害調査報告書に就き意見を交換する所ありたり

一、大阪市大正五年度火災分布圖は池田氏分擔作成中なり

一、三國セルロイド爆發事件に關する報告書は回覽式により各委員に廻送する事とし池田委員長分擔する事こせり

一、淀川北岸水害地被害調査地圖を波江委員より作成提出あり

一、東京市に於ける風水害に關し德永委員より繪葉書並びに新聞記事郵送ありたり

一、東京市に於ける風水害調査地圖を波江委員より提出あり　（以下次號）

第五部　委員會記事

一、委員氏名

委員長　葛野壯一郎
委員　置塩章
同　永瀬狂三
同　波江悌夫
同　池田實
同　田中大作
同　大林賢四郎
同　佐藤四郎

一、本委員會の調査主題は建築に關する迷信傳說の研究にあり第二回例會に於て組織せらるゝや討議の際多少會員の意見中本問題は至急を要する事項に非ず寧ろ一層緊要なるべき建築材料或は施行上の問題を先にすべき主張ありたるも大勢は本問題の緊急調査を要すべきものゝ認められたり

卽夜各委員は例會開散後臨時協議會を開き本問題調査に關する根本方針に就き第一回會合迄各次腹案を作成する事に一決したり

而して調査の進行に伴ひ委員の增加を必要とし池田氏の希望加入を承認し更らに大林、田中、佐藤の三氏の希望加入を見るに至れり

第一回委員會

日時―大正六年五月二十一日午前十時午後四時

會場―京都吉田町永瀨氏邸

出席―永瀨、池田、置塩、波江、葛野

記事―

一、本問題調査に關する根本方針及び其席次について各自の意見を徵し左の議決をなせり

第一、調査方針

①凡て觀察は公平を旨とすること

②實際的方面を先にし次いで理論的方面に入り結論に到達する事

③各委員は勉めて材料收集に努力する事

④分委員會は每月一回開催の事

第二、調査事項

甲、家相の實際的方面
乙、同　究理的方面
丙、同　科學的方面
　更らに之れを細別して
甲、家相の實際的方面
①現行家相其他に關する圖書及口傳の調査
②現在家相家の實況
③現社會と家相術との關係
乙、家相の究理的方面
①家相歷史の研究(日本支那)
②家相と易との關係
③陰陽五行說及九星方鑑其他との關係
④外國に於ける家相傳說の研究
丙、家相の科學的方面
①家相と科學との關係
②西洋建築と家相との關係
③建築家と家相との關係

以　上

第二回　委　員　會

日時—六月十日

會場—大阪府下豐能郡池田町葛野氏宅
出席—葛野、置鹽、池田、波江、佐藤、田中(大作)
記事—
一、第一回に於ける調査方針並に調査事項に關する第二讀會を開催せり
一、池田委員の意見により「建築に關する迷信傳說の研究」とあるを
　「建築に關する鑑相傳說及式事の研究」
と改めたり從つて調査事項も修正を加へたり。

第一、調　査　方　針

①委員會は調査研究の順序を先づ家相より着手し次いで傳說式事に及ぼす事
②家相研究の態度は公平を旨とする事
③研究調査の順序は可成實際問題を先にし、次いで究理方面に入り進んで結論に達すること
④傳說及式事に關する研究は廣汎を旨とし洋の東西を論ぜざること
⑤研究材料の集收は各自に努力する事
⑥委員會は毎月一回開催のこと
⑦時宜により文學方面の專門家を囑託すること

第二、調査研究主題

○天、家相の部
甲、實際的方面
乙、究理的方面
丙、批　判
甲、實際的方面
①圖書及口傳
②鑑相家の現狀
③迷信家の範圍
④實　例
⑤歐風建築との關係
⑥建築家との關係
乙、究理的方面
①歷　史(日本、支那、印度)
②易との關係
③五行九星其他との關係
丙、批　判
①科學的批判
②哲學的批判
③結　論
○地、傳說の部
①日本に於ける傳說
②歐米に於ける傳說
③其他に於ける傳說
○人、式事の部
①日本に於ける式事
②歐米に於ける式事
③其他に於ける式事

以　上

一、當日缺席せる永瀨委員より家相に關する圖書百數十種の調書を作成郵送あり大に聲援の實を示されたり

第三回　委　員　會

日時—八月七日午前十時—午後四時
會場—攝北葛野氏宅
出席—波江、佐藤、葛野
記事—
一、炎暑の際出席者少數なりしも家相家の實情範圍及其實例につき意見の交換をなせり

第四回　委　員　會

日時—十月三日午後六時—十時
會場—某建築事務所
出席—葛野、池田、波江、大林

記事―左の數項を決議せり

一、家相の部第一項圖書及口傳に關しては從來收集の材料を以て一先づ打切りとすること

一、第二項以下は調査の歩を進むると同時に巡回通信の便法を以て毎調査事項に關し各委員の意見を徴し追々調査の進行を計ること。

一、協會々員に對しても出來るだけ材料提供を便宜の方法を以て求むる事

一、第二項及第三項の家相家の實況及迷信者の範圍に關し是れを廻覽式として早速池田委員手元より初むることに決定せり

一、委員外會員に左の三項につき質問を呈し各意見並ひに注意を求むる事にせり

①從來關係の工事にして家相問題に觸れられたる實例如何

②知られたる家相家の氏名住所等

③其他家相に關する氣付かれたる事項

右は早速實施する事に決したり

而して當夜は特に大林委員の幽冥術に關する有益なる談話あり本委員會にとりては頗る趣味多く且裨益する處甚だ多かりき。（以下次號）

第六部　委員會記事

一、委員氏名

委員長　宗兵藏
委員　田中勘
同　松田亥作
同　松本禹家
同　舟橋喜一
同　井尻良雄
同　波江悌夫

一、本委員會は第二回例會に於て「建築協會大會準備」を必要とし之れが調査をなす目的により組織せられたるものなり

一、委員人選少なきを以て井尻、波江兩氏希望加入するを承諾したり

一、八月中委員松田亥作氏不幸永眠せられたり

第一回　委員會

日時―大正六年六月八日午後六時―十時

會場―大阪倶樂部

出席―田中、宗、波江

記事―

一、本委員會は劈頭將來協會の凡ての會合（例會を除き）につき調査すべきかはた又單に本年秋季擧行の第一回大會のみを指したるのみなるやに疑議ありしも篤と協議の結果前者則ち協會將來總ての會合に關し研究すべきものと決定し左の數項を協議せり

①一大會は春秋二回とし場合により臨時大會を開く事あるべし。

②大會の種類左の如し

學術講演會
通俗講演會
臨時講演會
展覽會（講習會）等

一、本年秋季大會は左の事項に依らんとす

種類　通俗講演會及晩餐會
會場　天王寺公會堂
宴會場　大阪「ホテル」
期日　九月九日又は十一月十一日
時間　午前及午後又は午後會
費金　參圓位
招待者　知名の士及新聞記者
案內狀及切符　案內狀及切符配布し尙ほ無料傍聽者を多數收容すること

一、大會前に於て會員擴張の件を稟議すること

一、大會前に協會誌を發行するか又は大會の際を利用し會誌を配付するの件を稟議すること

第二回委員會

日時—太正六年七月十一日午後六時

會場—宗建築事務所

出席—松田、舟橋、松本、波江、井尻、宗

記事—左の數項を決議せり

一、日時（講演會）　十一月十一日（日曜日）午後正一時より
（晩餐會）　同日午後正六時より

一、場所　講演會場　天王寺公會堂
晩餐會場　大阪「ホテル」

一、經費　公會堂借賃（晝間拾圓夜間拾五圓）及晩餐會費（五圓）

一、講演題目　知名人士の建築に關する講演

一、無料聽講券　案內狀及次第書聽講券廣告等の作成

一、招待範圍　本會事業を贊助する知名人士

一、本委員會は以上の事項を以て一先づ打切りとなし理事會に報告し解散を請求すること

一、次回例會に於て先決問題として大會期日及大會委員決定の件を審議すること

一、右決議事項を齎して第三回例會の議に附したる結果大體異議なく決定したるを以て本委員會を解散し同時に本委員全部及理事全部は更に大會當日の準備委員として決定せられたり

一、尚十月例會に於て秋季大會は晩餐會又は講演會を中止し日時は十一月十三日と變更せり

以上

建築材料價格調節委員會記事

一、今時諸物價暴騰の折柄建築材料の價格亦悉く暴騰して近き將來に於ては建築工事に多大なる支障を見ずんば止まざる程の狀態となれり殊に各受負工事は尻上りの暴騰によりて、殆んど損失を免れざるなし斯の如き狀態を尚持續せば建築界重大なる問題を惹起すべきは火を見るよりも明なり

依て吾關西建築協會にては此際不敢取建築材料に關する委員會を組織して之れが調査を委託するに決し左の十名の委員を指名せり

一、委員氏名

石田信夫
木子七郎
河合幾次
設樂貞雄
村井三吾
小林悉
光安梶之助
瀨戸文吾
松本禹象
田中勘

第一回委員會

日時―大正六年十月八日午後六時―十時

會場―大林組樓上

出席者―石田、松本、村井、瀨戸、光安、田中、小林

記事―

一、各自意見を交換し主要なる建築材料として

「煉瓦、石材セメント、鐵材及木材」

の五種に付き分擔を定めて調査を開始せん事したるも各二名宛の委員を以て到底此等重要なる各種材料の充分なる調査は遂行し得ざるを以て如何なる程度に其調査を進行すべきかにつき各自論究せし結果

委員長こして河合幾次氏を擧げたるも一應理事會の意嚮を確かむるを必要こして午後十時散會せり

一、十月例會に於て右の件につき石田委員之が質問をなしたるも理事會の意見は必ずしも「價格調節」の字義を重大視するの必要なく亦吾協會こして調節に關し之れが所置を斷行の權能を有せず、されば價格暴騰の起因其他につき確適なる調査を開始し進んで各種材料の現狀につき考査を續行しては如何この回答あり尚反覆質問する所あり結局今一應委員會を開き尚審議するこゝせり　（以下次號）

議院建築問題委員會記事

一、議院建築問題委員會は第六回例會の決議により組織する事こなり委員十名理事會の指名により選定あり

一、委員氏名

加護谷祐太郎
本野精吾
野村一郎
橋本勉
片岡安
葛野壯一郎
池田實
宗兵藏
波江悌夫
武田五一

第一回委員會

日時―大正六年九月十九日午後六時―十時

會場―大阪倶樂部

出席者―片岡、宗、波江、加護谷、池田、葛野

記事―

一、議院建築調査委員會は八月下旬夫々任命あり大藏省次官委員長こなり各週二回會議を重ね九月中に大樣左の如く議決する所あり其主要なる案件は次の如き主旨なる如し

「刻下吾國財政關係より豫算七百五拾萬圓を計上して假建築を起工し外容より内容の完備を期せんこするに在り」

一、乍然吾國現在の狀態は凡ての建築材料暴騰して到底斯くの如き豫算によりて滿足なる建築を建つる事能はざるべし殊に一國の主要なる建築をして斯くの如き豫算を計上せしは甚だ其の意を得ざる事及議院

建築は一國の嚴重要なる建築にして吾國憲政の濟美を具体化せるものとして相當の外容を備ふる要あり故に吾等は政府に注意を與へ豫算を潤澤にして充分なる建築を設計するを要す

一、依て建築學會役員其他東京の諸有志を動かして建築家一同の建議により委員會を刺撃するの要あるを認め我協會より建築學會役員宛質問書を送りたるが更に片岡氏上京の折あるを以て本日の委員會に於ける決議により遊說を委託せり

一、吾國現代の技術を以て可能なる程度の大建築とする事

一、議院建築は一國の重要なる建物なれば内外共に完備せしむる要ある事

一、從て姑息なる小豫算を排して設計案の内容を充實する事

一、名は假建築なるも之れに十年の歲月を費やす事の理由なき事

等を以てせり

一、然るに片岡氏上京後在東京建築家の意見を叩きたるに多くは斯の重要なる根本問題を忘れ懸賞案を採用せしむる事の末節に拘泥して主要なる點を閑却せる傾あり依て力說せる結果多少右主張に同意せるが如し乍然建築學會の左の意見書並びに回答を見るに東京諸氏の意向を卜するに足らん

一、建築學會より本會に當てたる回答左の如し

大正六年十月五日

建築學會書記

松井清足 印

關西建築協會御中

拜復陳者去月十五日附御申出の議院建築に關しては本學會は其建築設計圖案は之を競技に附することを豫て素論と致し居之が實行を希望する次第に候就ては今回も議院調査會委員たる本會會長、副會長及正員諸君を役員會に招待し本問題の遂行に盡力せられんことを希望し同委員中の代表者は學會の希望貫徹に努力すべき快諾あり且つ委員及役員意見を交換懇談の結果同調査會へ當學會の意見書を提出の申合せをなし常置委員第四部建築競技委員は其意見を徵し更に臨時役員會を開き別紙の通り意見書を決定來る八日提出の筈に有之候右御回答旁御報申上候　敬　具

一、建築學會より議院建築調査委員會に提出せる意見書左の如し

陳者別紙意見書は議院建築設計圖案に關し本學會の素論に基きたる役員會の決議摘要に有之候條幸に清鑑審議の上採納あらんことを切望致候　敬具

大正六年十月八日

建築學會 印

議院建築調査會々長

大藏次官 市來乙彦 殿

一、別紙意見書は左の如し

議院建築設計圖案に關する意見書

議院建築設計圖案は之を競技に附すること

但其要領左の如し

一、圖案は一般競技の方法により之を募集すること

二、應募者は帝國臣民に限ること

三、建築樣式は之を制限せざること

四、當局者は參考として應募者に略平面圖を示すこと

五、圖面の種類及び縮尺は容易に應募し得る程度とすること

六、審査員は帝國臣民に限ること

七、審査員の過半數は建築家を以て之に充つること

以　上

一、以上の經過は十月例會に於て報告せる大樣なり而して本委員會は尙建築界の大勢を觀、別途臨時議院建築調査委員會の決議事項內容の詳細なる發表を觀たる後徐ろに爲すべき所置を執らんとす。

追記、議院建築調査委員會は十月二十三日を以て最終會議とし其決議を取纏め次いで市來委員長より勝田藏相に答申すべく其結果愈々來年度豫算案に編入する事となるべき由なり

委員會の決議は九項より成り其要點左の如し

第一、敷地は從來の議院建築豫定地たる麴町區永田町所在官有地の內約一萬七千坪を以て之に充つ

第二、室數及び其坪數は總建坪約三千六百坪とし室數は兩院事務局の意見に依りて按配せり

第三、建物及び階數は鐵筋「コンクリート」三階建とす

第四、各室の按配は大体歐米諸國の例を調査し中央部及び貴族院、衆議院の三部に分ち中央部は皇室用諸室、內閣用諸室及び貴衆兩院共通の諸室とす

第五、工費及び年限は總額七百五拾萬圓にして大正七年度より向ふ十箇年の繼續事業とし其內議院本館の建築費は六百拾萬圓なり

第六、本建築設計を懸賞に附す、その經費は六萬圓の豫算なり

第七、設計競技方法につき委員間に種々の意見ありたるも結局二次競技法に依る事に決定せり

第八、構造及び設備其他については前項懸賞競技に依つて得たる設計に準じて夫々決定すべきも大体は時勢の進運に應ずべき方針を以て決定することゝせり

尙本豫算の年度割は初年度參拾萬圓、次年度參拾五萬圓、三年度九拾五萬圓以降年々約百萬圓を支出すべく而して初年度に於ては該敷地に在る馬政局及び樞密院事務局の取拂並に前記設計の懸賞募集をなし次年度に至りては前記取拂の殘務及敷地の地均工事をなし愈々三年度より本工事に着手の都合なるべき由なり

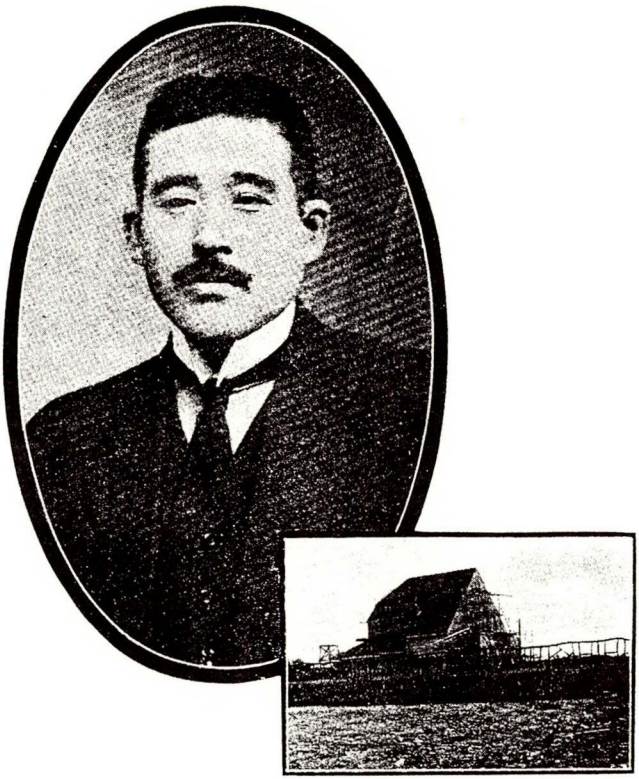
（以　上）

アメリカ人は何か騒ぎが起ると、仕事を止めてそのまはりに立つくせが有る。今ある騒ぎは歐洲に起つて居る世界的戰亂で有る。吾々は今この戰爭の續く間調子が狂つて仕事を止めやうとする危險な狀態にある。實に重大なる出來事で有る。しかし幸にも**アメリカ**人は誰れといはず各自がこの戰爭に加はる爲に生ずる混亂の助長を防止する事が出來る。刻下の急務は只靜かに自分等各自の職業を勵むことにある。吾が海陸の軍勢が戰場に赴いて吾等の發達を阻害する勢力と妨害とを破壞する間に、吾々は國內に在つて吾々の工營的努力を倍加することが必要だ。

吾々は戰さも出來れば建築も出來る。吾々は此戰亂が齎した最大の機會をうまく握らなければならぬ。公私を問はず有益な建物は工事を進めよ。建築材料の産出と取引と公私の建築工事とは國家の基本工業で有る。建築の計畫を中止したり延期したりする傾向は吾邦の繁榮に逆行する。吾が邦は盛んで有る。建築の投資者はその計畫を進めるのに躊躇してはならぬ。鐵道は材料の運搬に貨車を供することを惜んではならぬ。政府、州廳、縣廳、市廳の當路者は建物の何たるを問はず、その繼續を奬勵す可きで有る。殊更に街路の改良を中止してはならぬ。今の食料品の騰貴は道路の惡い事が第一の原因をなして居る。從來今日程この改良の緊急な時期はないと云つてよい。木材、煉瓦、**セメント**、石灰、砂、砂利、石材其他凡ての建築用材料の工業は凡ての根本で有る。

政府の規則や鐵道の制限を無暗にこの工業に適用してはならぬ。何んな勢力でも是等根本的に必要な工業の倒壞を起す原因となつてはならぬ。そうなつたら用途のない勞力過剩や貨車の餘分や、仕事の損害を來す恐るべき危險が起つて、遂には政府が戰時の經濟を調節するに甚しく困却する樣になる。

戰事でも建築せよ。（完）



故會員松田亥作君

大正六年八月十五日會員松田亥作君逝く、君は明治二十年二月十三日大阪市北濱三丁目に生れ、大阪市立愛日小學校、大阪府立北野中學校、京都第三高等學校を經て明治四十三年九月、東京帝國大學工科大學建築科に入り、大正二年七月、優良の成績を以て其の學を卒へ、直に長野葛西建築事務所に聘せられ、同年十二月一年志願兵として第四師團第八聯隊に入營し、大正三年十一月、滿期除隊となり、後自ら大阪に建築事務所を開き、卓越せる技能と絶倫なる精力とを傾倒して、各種の設計監督に任じ、所運漸く盛大に赴き、將來の發展期して待つべき者ありしに、突如として不歸の客となる、悲哉。謹て哀悼の意を表す。



會報

一、會誌發刊

一、本會雜誌は是を「關西建築協會雜誌」と名づけ初號を太正六年九月十五日刊行する事を得たり。

一、初號發刊の際直ちに會員に配布し同時に建築學會正員諸氏、各新聞社、各學會及各種協會並びに建築に關係ある各學校各專門業者及び各府縣知名有力者へ寄附發送し置きたり

一、初號初刊後祝電又は祝辭を送られたる諸氏多し

一、新入會員

一、左の諸氏は第五回例會の決議により承諾を得入會せられたり。

新海正綱　須川廉太郎
三木來三　須藤眞金
木村梅太郎　伊達陶二郎
森山伊望　田代守次
廣瀨恭岸　平
山口博三　井道男
大橋精一　松下甚三郎
伊藤正文　辰野政二
柳下（ヤナギシタ）寶　谷本多喜治
大泉一　河合清

一、左の諸氏は第六回例會の決議により承諾を得入會せられたり。

谷民藏　友野富造
森正藏　井上準一郎
糸崎周一　伊藤英一
藤本好雄　野呂長四郎
澤田亘吉　谷口廉兒
波部圭吾　吉井長七
酒井勇三郎　宇佐美健八
內藤益二　宮本金七
田村保治郎　中村庸二
平井三郎　安立（アンリュウ）紘

一、左の諸氏は第七回例會の決議により承諾を得入會せられたり

花岡才五郎　松室成貞
室谷修　田中隆次
增田清　永田善次郎

一、會員移動

金剌森太郎君は八月中　名古屋控訴院臨時建築場に榮轉せらる。

三井道男君は八月中　東京に轉任せらる。

濱野三郎君は八月中　富士紡織會社技師に榮轉東上せらる。

德永庸君は八月中　早稻田大學講師に榮轉東上せらる。

山田靜君　九月中　滿洲興業會社に榮轉せらる。

一、會員死亡

本會員工學士松田亥作君は本年八月十五日永眠せられたり。

九月二十三日同君追悼會を有志發起し東區玉造寶國寺にて擧行あるに際し本會より弔詞を送りたり。

「故工學士松田亥作君の幽魂を弔ひ謹んで哀悼の意を表す。」

大正六年九月二十四日

關西建築協會理事長　片岡安

一、會合
　臨時役員會(附編輯會)
日時、大正六年八月十一日午後六時－九時
會場、協會事務所
出席、葛野、宗、片岡、波江、佐藤(四)
記事
一、本協會雜誌第一號編輯の件につき種々協議する所あり。
一、入會希望者二十名につき詮衡をなせり
第五回例會
日時、大正六年八月十三日午後七時－十時
會場、中央電氣倶樂部
出席、片岡、葛野、宗、波江、武田、木子、牛村、今林、吉木、光安、小笠原、佐藤(彰)、佐藤(四)、竹腰、渡邊、中西、園部、瀬戸、内藤、田中(勤)、松本、石田、長谷部、德永、大林、前田、小林、計二十七名
記事
一、片岡氏座長席に就き本會細則案に付き協議をなし全部確定す。
一、宗氏座長席に就き入會希望者二十名の詮衡をなし全部承諾の事に決定す。
一、右終つて各部委員會の報告あり
午後十時閉會す。
　特別理事會
日時、大正六年九月七日
會場、大阪倶樂部
出席、片岡、宗、葛野、波江
記事、
一、近時諸物價暴騰の折柄建築材料亦奔騰して斯界の前途杞憂に耐へざるものあるを以て此際協會にても之れが原因につき調査を必要とせずや。
一、米國鐵材輸出禁止令の發布せる結果我國海運界商工業界の打撃大なると同時に建築界亦苦痛を感ずる所なるを以て特に之れが調査を必要とせずや
一、議院建築調査委員會突如組織せられたるに就いては本會亦協會の意見を何等かの方法を以て發表するの必要なからずや
右三問題につき協議する處あり
第六回例會
日時、大正六年九月十三日
會場、中央電氣倶樂部
出席、片岡、森山、伊達、橋本、本野、牛村、佐藤(四)、大林、石田、今林、中西、原田、辰野、谷本、廣瀬、大橋、伊藤、吉木、光安、佐藤(影)、小笠原、小林、池田、葛野、波江、野村、須藤、三木、岸、柳下、松下
計三十一名
記事
一、片岡氏座長席に就き、波江主記より新會員の紹介及會務報告あり。次いで各部委員會の報告あり
一、入會希望者二十名の詮衡をなし全部承諾の事に決定す。
一、右終つて談話會に移る
主題
　一、議院建築問題
　二、建築材料價格調節に就て
一、議院建築問題に就いては波江主記一應經過の説明をなし葛野、片岡、池田(實)加護谷諸氏の意見交換あり大様左の事項に歸着せり
一、豫算の小に過ぎる事
一、委員の内容充實せざる事
一、工事年間の長過ぎる事

一、此際各建築家の意見を徴し一致の行動を起して政府に注意する必要ある事
依つて更らに審議の要あるを以て特別委員會を組織するの決議をなし左記十名指名ぜらる
橋本、加護谷、葛野、武田、宗、波江、野村、本野、池田、片岡
一、建築材料價格問題についても主記の説明あり加護谷、小笠原、葛野、片岡諸氏の談話あり更らに池田氏の動議により第七部委員會を組織し建築材料價格調節に關し調査研究をなす事に決し左記十名指名ぜらる。
石田、河合(幾)、田中(勤)、村井、松本、舟橋、小林、木子、設樂、瀬戸
一、來月例會日は土曜日に相當するを以て來月十二日に變更決議ぜり。
閉會午後十時

臨時役員會(編輯會)

日時、大正六年十月十一日
會場、大阪倶樂部
出席、片岡、宗、葛野、波江
記事
一、本月例會に會則一部改正案を提出するの件及び談話會に關し協議する所あり主題を次の如く定む
一、郊外住宅
二、都市と洪水
一、新入會希望者の詮衡をなす
一、雜誌第二號編輯に關し協議する所ありたり

第七回例會

日時、大正六年十月十二日午後六時開會
會場、中央電氣倶樂部
出席、片岡、設樂、池田、葛野、宗、波江
牛村、石田、木子、小林、小笠原、今林、伊藤、村井、吉井、谷、置塩
三木、渡部、藤井、須川、池田(譲)
宇佐美、内藤、須藤、山口、中村、谷本、前田、井上、新海、大林、糸崎、原田、吉木、森山、田代、内藤(益)、柳下、谷口、松下、
記事
一、片岡理事長座長席につき、波江主記より會務報告及新會員の紹介あり
一、次いで各部委員會の報告あり第七部委員會よりは該委員會の目的につき質疑應答あり尚議院建築問題委員會については理事長より報告あり
一、會則一部改正案につき審議の上滿場一致之れを議決し尚字句の修正は役員會へ一任する事となれり
一、本會秋季大會は來る十一月十一日を以て通俗講演會を擧行の筈なりしも時期尚早なるを以て之れを延期し來月例會日を以て本會秋季大會晩餐會を開會する事に變更決議ぜり
一、宗理事代つて座長となり談話會に移る主題
一、都市と洪水
一郊外住宅
右につき波江、池田、片岡、石田、葛野、牛村、小笠原諸氏の趣味ある意見交換あり
閉會午後十時



役員及職員

（イロハ順）

理事長　片岡安

理事　池田寛（主計）

葛野莊一郎（編輯）

武田五一（編輯）

宗兵藏（編輯）

波江悌夫（主記）

編輯補　設樂貞雄

波江悌夫

佐藤四郎

本野精吾

書記　山本辰次郎

會員七十四名、理事長一名、理事六名、編輯補三名、書記一名

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	六冊	金壹圓八拾錢	拾貳錢

廣告料	種別	金額
（毎月壹回十五日發行）	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正六年十一月十二日印刷
大正六年十一月十五日發行

發行兼編輯人　大阪府東成郡古市村大字森小路六百五十二番地　山本辰次郎

印刷所　大阪市西區土佐堀四丁目十二番屋敷　合名會社　三有社

發行所　大阪市東區今橋一丁目十一番地　關西建築協會　電話本局二三四一番

危険物品取締規則

危險物品取締規則

大正六年八月二日
大阪府令第四十三號

第一條　危險物品ノ貯藏運搬其ノ他ノ取扱ニ關シテハ他ノ法令ニ別段ノ規定アルモノヽ外本則ノ規定ニ據ルヘシ

本則ヲ適用スヘキ危險物品ノ類別及種目ハ附錄第一號表ニ之ヲ定ム

第二條　危險物品ハ附錄第二號表ニ定ムル容器ニ收容スヘシ但シ小分瓶詰ノモノハ此限ニ在ラズ

容器ニハ品名及分量ヲ外部睹易キ箇所ニ明記スヘシ壓搾瓦斯類ノ容器ニハ壓力ヲ附記スルコトヲ要ス

第三條　附錄第三號表ニ定ムル數量以上ノ危險物品ハ知事ノ許可ヲ受ケタル貯藏場ニ在ラサレハ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第三號表ニ定ムル數量ノ二分ノ一以上ヲ貯藏スルモノハ其ノ種目數量ヲ知事ニ屆出ヘシ

貯藏場ニ付テハ左記事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ關係ナキ部分ノ書類、圖面ヲ省略スルコトヲ得

一、摘要書　貯藏場ノ位置、敷地坪數、建造物ノ概要貯藏品目、各品最大限度ノ貯藏量（室ヲ區別スルモノハ各室毎ニ記載スルヿ）、竣工期日

二、仕樣書

三、圖面　敷地周圍一町以內ノ地形見取圖、敷地內建造物ノ配置圖、各建造物ノ平面斷面其ノ他設計圖

貯藏場ハ檢查證ヲ受クルニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

貯藏場ヲ承繼セムトスルトキハ双方連署ノ上知事ノ認可ヲ受クヘシ但シ連署シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ附記スルコトヲ要ス

貯藏場ヲ廢止シタルトキハ速ニ知事ニ屆出スヘシ

第四條　貯藏場ノ位置並構造設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　御陵、御墓、學校、病院、公園、鐵道停車場、其ノ他公衆ノ集合スル場所、工場其ノ他火氣ヲ使用スル場所、可燃性物品ヲ貯藏スル場所、木造倉庫、人家、道路ヨリ相當ノ距離ヲ保有スルコト

二　敷地境界ニハ適當ナル土堤又ハ障圍ヲ設クルコト

三　敷地境界線ヨリ相當ノ距離ヲ保有スルコト

四　平屋建トシ一棟ノ建坪ハ三十坪以下タルコト但シ二十坪以下毎ニ適當ナル界壁ヲ設クルトキハ此限ニ在ラス

五　防火構造トシ周壁ハ特ニ堅牢ニシ屋上ハ內部ヨリノ壓力ニ對シ抵抗少キ小形輕量ノ材料ヲ以テ葺覆スルコト

六　床及壁ノ內面ニハ摩擦發火ノ虞アル材料ヲ露出セサルコト

七　適當ナル採光換氣ノ設備ヲ施シ出入口、窓其ノ他ノ孔口ニハ防火戸ヲ附シ硝子ハ着色又ハ不透明ノモノヲ使用スルコト

八　近接貯藏場間ニ在テハ出入口、窓其ノ他ノ孔口ヲ對向セシメサルコト

九　避雷針ヲ施設スルコト

十　適當ナル消防設備ヲ爲スコト

第一類以外ノ危險物品ノ貯藏場ノ構造設備ニ付テハ

一　適當ナル防火壁ヲ設クルトキ前項第二號ノ土堤ヲ省略スルコトヲ得

二　上層ヲ公衆用又ハ住居用ニ供セザルトキ平屋建タラサルコトヲ得

三　屋上ノ葺覆ニ小形輕量ノ材料ヲ用井サルコトヲ得

四　近接貯藏場ノ出入口、窓其ノ他ノ孔口ニ關スル制限ニ依ラサルコトヲ得

第二類、第四類危險物品貯藏場ノ構造設備ニ付テハ前各項ノ外第一項第六號ノ制限ヲ適用セス

貯藏物品ノ性質、數量、建造物ノ種類、構造又ハ土地ノ狀況ニ依リ知事ニ於テ保安上必要ト認ムルトキハ前各項ノ制限ヲ變更スルコトアルヘシ

第五條　貯藏場ニハ其ノ入口睹易キ場所ニ取扱主任者ノ氏名、貯藏品名及最大限度ノ貯藏量ノ各事項ヲ常ニ揭示シ置クヘシ

第六條　貯藏場ニ於ケル物品ノ出入ニ關シテハ帳簿ヲ備付ケ其ノ都度之ヲ記入スヘシ

當該官吏ニ於テ前項帳簿ノ査閱ヲ求メ又ハ提出ヲ命シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條　貯藏場ニ於テハ警察官署長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ日出前日沒後貯藏物品ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　第三號表ニ定ムル數量以上ノ危險物品ヲ貯藏スル者ハ左記各號ヲ遵守スヘシ

一　各類別每ニ貯藏室ヲ區別スルコト

二　貯藏物品ハ種目每ニ安全ニ區別シ顚倒、墜落、衝

動等ノ虞ナキ樣藏置スルコト

三　貯藏場內ハ塵芥、荷粉等ヲ留メサル樣常ニ淸掃スルコト

四　貯藏場ニハ寒暖計及濕度計ヲ備ヘ貯藏場ノ溫度、濕度並採光、換氣ニ注意スルコト

五　貯藏場ハ勿論其ノ附近ニ於テ喫煙其ノ他猥リニ火氣ヲ使用セサルルコト並ニ其ノ禁止制札ヲ揭クルコト

六　貯藏場ノ破損ニ注意スルコト

七　前各號ノ外危害豫防ニ關シ必要ナル注意ヲ爲スコト

第三條第二項ニ依リ屆出ヲ要スル者ハ其ノ貯藏物品ニ付キ前項第二號及第七號ヲ適用ス

第九條　貯藏場ニハ其ノ取扱品ニ付キ相當技術上ノ智識ヲ有スル取扱主任者ヲ定メ履歷ヲ具シ速ニ知事ニ屆出ヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

取扱主任者ハ貯藏者之ヲ兼ヌルコトヲ得

知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ取扱主任者ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　取扱主任者ハ常ニ危害豫防ニ注意シ其ノ虞アルトキハ速ニ貯藏者ニ告知スヘシ若シ急迫ノ事情アリト認ムル場合ハ直ニ必要ナル措置ヲ爲シ且警察官吏ニ屆出ヘシ

第十一條　第三號表ニ定ムル數量以上ノ危險物品ヲ運送スル者ハ左記各號ヲ遵守スヘシ

一　危害ヲ生スル虞アル他物ト混載セサルコト

二　火氣ニ注意スルコト

三　容器、荷造ノ破損ニ注意スルコト

四　顚倒、墜落、衝動其ノ他ニ因ル危害發生ノ豫防ニ注意スルコト

運搬人ハ前項各號ノ外尙左記事項ヲ遵守スヘシ

一　停留セムトスルトキハ安全ナル位置ヲ選ミ且看守人ヲ附スルコト

二　宿泊セムトスルトキハ前號ノ外其ノ品名、數量竝物品所在ノ場所及宿泊所ヲ其ノ地警察官吏ニ屆出ルコト

第十二條　左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ知事ハ貯藏場ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一　危害豫防ノ爲メ必要ト認ムルトキ

二　貯藏場設置ノ許可ノ日ヨリ六十日以內ニ工事ニ着手セサルトキ

三　正當ノ事由ナクシテ竣工期日ヨリ六十日ヲ經過ス

ルモ仍ホ竣成セサルトキ

四　正當ノ事由ナクシテ九十日以上貯藏場ノ使用ヲ休止シタルトキ

第十三條　公安保持上必要ト認ムルトキハ知事ニ於テ貯藏場ノ構造ノ變更其ノ他ノ施設ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ制限シ若ハ禁止スルコトアルヘシ

警察官署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ危險物品ノ運搬ノ制限又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十四條　警察官署長ハ危害豫防ノ爲メ第三號表ニ定ムル數量以下ノ危險物品ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第十五條　貯藏者、運送者ハ其ノ家族又ハ使用人ノ行爲ト雖自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第十六條　第二條、第三條第一項、第二項第三項第四項第五條乃至第八條、第九條第一項、第十條、第十一條ニ違背シタル者又ハ第九條第三項、第十三條、第十四條ノ命ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三條第五項第六項ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第十七條　本則ノ罰則ハ法人ニ在テハ其ノ代表者、未成年者禁治産者ニ在テハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ在テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　本則ニ依リ知事ニ提出スル願屆ハ警察官署長ヲ經由スヘシ

附　則

第十九條　本則施行ノ際現ニ第三號表ニ定ムル數量以上ノ危險物品ヲ貯藏スル者ハ本則施行ノ日ヨリ一ケ月以內ニ第三項ノ手續ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ同條第四項及第十六條第二項ヲ適用セス

附　錄

第一號表　危險物品ノ類別及品目

第一類（他物ト混シ又ハ單獨ニ熱、衝擊ノ爲メ爆發スヘキ物品）

種　目	
塩素酸加里	
塩素酸曹達	
過酸化曹達	
硝酸加里	（硝石）
硝酸曹達	（智利硝石）
硝化綿	
壓搾瓦斯類	

第二類（水分ノ爲メ發火スヘキ物品）

種　目

金屬カリウム
金屬ナトリウム
燐化石灰
炭化石灰（カーバイド）
生石灰

第三類（熱ノ爲メニ發火スヘキ物品）

種　目

黄燐
赤燐
硫化燐
セルロイド

第四類（引火スヘキ物品）

種　目

二硫化炭素
エーテル
コロヂオン
酒精
木精
テレビン油

附錄

第二號表　危險物品ノ容器

第一類

種　目　容　器

塩素酸加里　完全ニ木箱又ハ樽ニ容ルルコト
塩素酸曹達　完全ニ防錆セル鑵ニ詰メ木箱ニ容ルルコト
過酸化曹達　完全ニ鑵詰シ木箱ニ容ルルコト
硝酸加里（硝石）　完全ニ樽詰シ又ハ木箱ニ容ルルコト
硝化綿　完全ニ水浸鑵詰シ木箱ニ容ルルコト
壓搾瓦斯類　完全ニ「ボンベイ」鑵ニ容ルルコト

第二類

種　目　容　器

金屬カリウム　石油ヲ充タセル完全ナル鑵ニ詰メ木箱ニ容ルルコト
金屬ナトリウム　同　上
燐化石灰　完全ニ鑵詰スルコト
炭化石灰（カーバイト）　同　上

第三類

種　目　容　器

黄燐　水ヲ充タセル完全ナル鑵ニ詰メ木箱ニ容ルルコト

赤　燐　完全ニ鑵詰シ木箱ニ容ルルコト
硫　化　燐　同　上
セルロイド　完全ニ木箱ニ容ルルコト

第四類

種　目　容　器
二硫化炭素　完全ニ壜詰シ枠箱又ハ木箱ニ容ルルコト
エーテル　完全ニ鑵詰シ木箱ニ容ルルコト
コロヂオン　同　上
酒　精　完全ニ鑵詰スルコト
木　精　同　上
テレビン油　同　上

附　錄

第三號表　危險物品ノ貯藏制限數量

第一類

種　目　數　量
塩素酸加里　一、二一〇磅（一一二磅入十個）
塩素酸曹達　一、二一〇磅（一一二磅入十個）
過酸化曹達　二五〇磅（五〇磅入五個）
硝酸加里（硝石）　一、〇〇〇磅（一〇〇磅入十個）
硝酸曹達（智利硝石）一、〇〇〇磅（一〇〇磅入十個）
硝化綿　一二五磅（二五磅入五個）
壓搾瓦斯類　五〇、〇〇〇立（リットル）

第二類

種　目　數　量
金屬カリウム　五〇磅
金屬ナトリウム　五〇磅
燐化石灰　五〇〇磅
岩化石灰（カーバイド）一〇、〇〇〇磅（一〇〇磅入百個）
生石灰　五〇〇貫

第三類

種　目　數　量
黄燐　五〇〇磅（一〇〇磅入五個）
赤燐　一、〇〇〇磅（一〇〇磅入十個）
硫化燐　一、〇〇〇磅（一〇〇磅入十個）
セルロイド　一〇〇貫

第四類

種　目　數　量
二硫化炭素　一五〇磅（五〇磅入三個）
エーテル　二五〇磅（二五磅入十個）
コロヂオン　二五〇磅（二五磅入十個）
酒精　十石（一斗入百個）
木精　五石（一斗入五十個）
テレビン油　十石（一斗入百個）

廣告目次

イ、伊藤喜商店……七
ロ、原安商會……八
ハ、米國貿易會社……九
ニ、川島屋室內裝飾部……一〇
ホ、高田商會……裏表紙裏
ヘ、高島屋裝飾部……一一
ト、內外土木建築材料合資會社……一二
チ、村井工業事務所……一五
リ、大阪窯業株式會社……一三
ヌ、大阪煖房商會……裏表紙表
ル、松尾和助本店……一四
ヲ、建築事務所案內……二、三
建築請負業者案內……四、五、六
ワ、秋山小林商店……(前付)一
カ、櫻セメント株式會社……一五
ヨ、みよし組大阪支店……一六
タ、三越呉服店……一七
レ、清水米吉製作所……一八
ソ、須賀商會……(前付)二